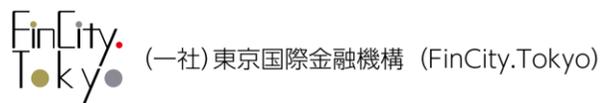


英文IR人材育成講座

2022年10月5日講演者資料



(株)日本取引所グループ・(株)東京証券取引所 共催

The logo for J-Eurus IR, featuring the text "J-Eurus IR" in a stylized blue font with a white outline, set against a dark purple rounded rectangular background with horizontal white stripes. The background of the slide features a faint, light brown grid pattern resembling a globe.

J-Eurus IR

英文IR人材育成講座プログラム

海外投資家との対話に向けて

- 欧米アジアの企業に負けないIR活動とは -

2022年10月5日

ご参考：

<http://www.j-urusir.com> (J-Eurusウェブサイト)

iwata@j-urusir.com

日本企業を取り巻く環境

インデックス運用資産への
資金流入(アクティブ運用資
産のさらなる縮小)

市場改革の主旨を理解しな
い日本企業への失望

グローバル株式市場への真摯な
姿勢をどう示すか
⇔ 日本株への関心低下

サステナビリティの
取り組みに関する
アピール不足

アクティビストの
格好のターゲット

具体的に、現在、海外投資家から期待されていること

- これまでの画一的な発想でないイノベータイプな経営、製品、ビジネスの展開
 - ✓ イノベーション、サステナビリティの関係と、企業価値向上

- 社内での徹底したコンセンサス、意志、方針の確立
 - ✓ IR部、CSR部、SR部、取締役会事務局、経営が一体となって

- 謙遜せず、自社の魅力を堂々とアピール
 - ✓ グローバルの動きを把握しながら

本日の内容

1. 海外投資家とのコミュニケーションの必要性について
 2. 改めて、IR (Investor Relations)とは
 3. IRの実務におけるポイント
 4. 欧米アジア企業に負けないIR活動の展開に向けて
 5. SRとアクティビスト
- (ご参考) 弊社概要

1. 海外投資家とのコミュニケーションの必要性について

日本株式・企業の低落はいつから……？



2010年11月20日



2011年3月19日

エコノミスト誌による日本に関するイラスト



二つのコードの評価は・・・？

SESSOKU??

「拙速は巧遅に優る」というが……

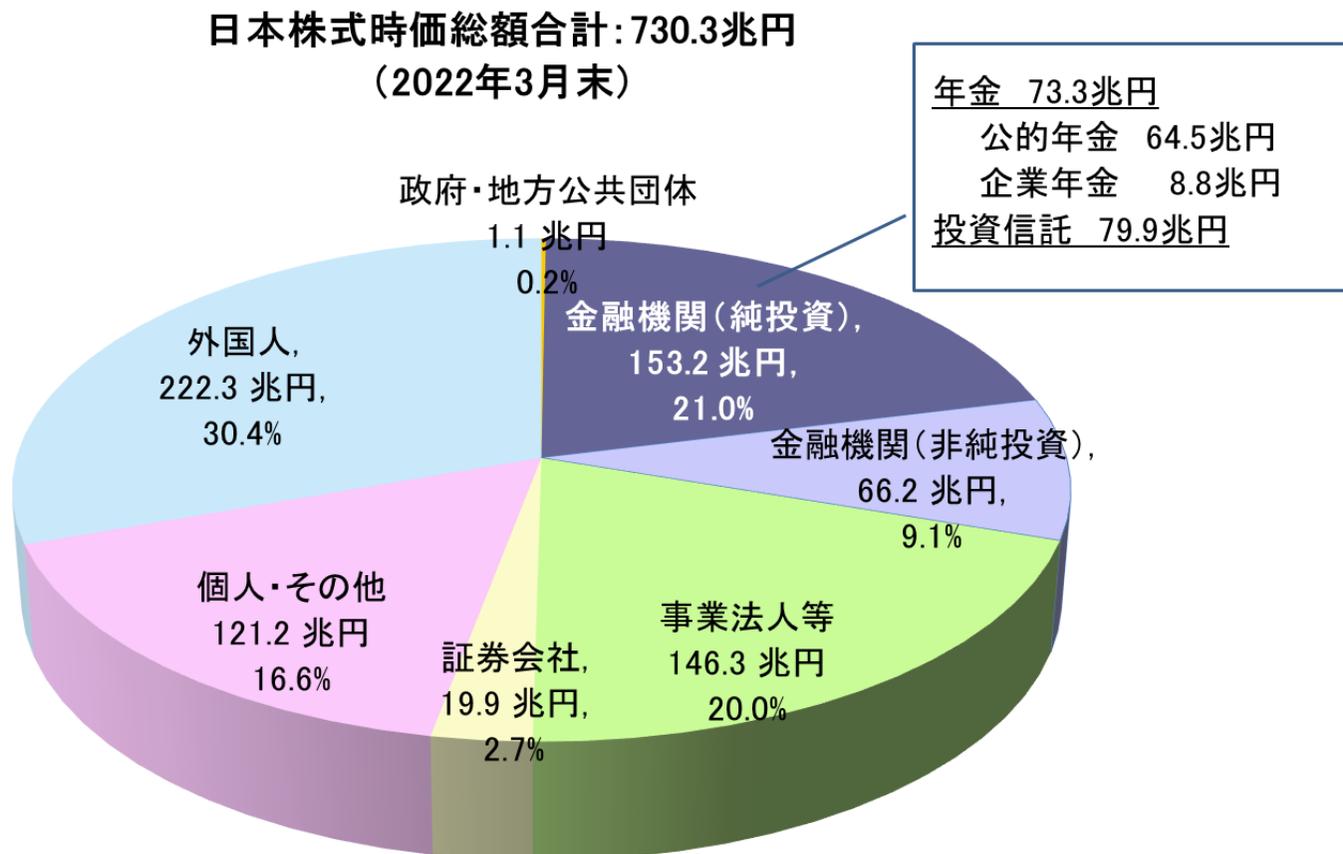
出典: 全て、The Economistより



← 桜の花の如く？ 公共部門におけるデジタル宣言（過去何度も……）

日本企業の株主構成

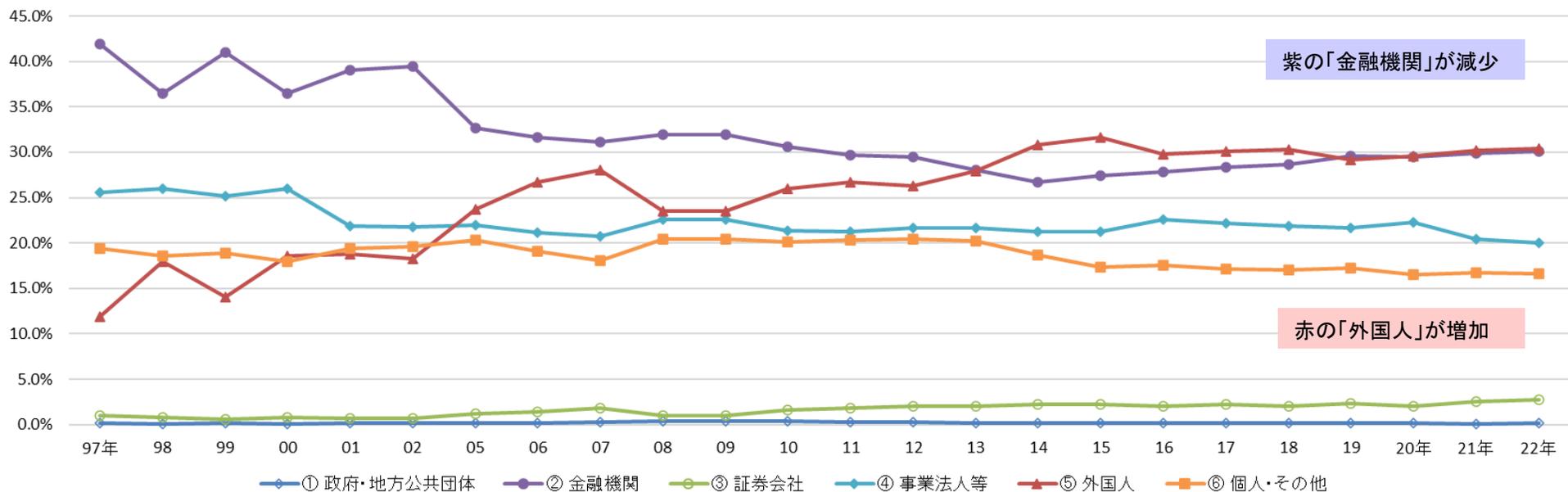
海外投資家の保有額は国内機関投資家の純投資保有額を大きく上回る



データ出所: 日本銀行、東京証券取引所

日本企業の株主構成推移

部門別株保有比率の推移



データ出所：東京証券取引所

海外の資金と日本株の位置づけ

- 国内資金がシュリンクする中で、企業の資金調達は、
海外資金の争奪戦になる
 - ◆ 海外投資家の日本株保有額は国内機関投資家の純投資保有額を超えている
 - ◆ 国内資金は、規模が縮小すると同時に、国内株式離れが起きている
- 投資対象として魅力ある日本企業は一部とみられている
 - ◆ 日本企業の資本効率の低さ、日本企業のガバナンスの不十分さなどにより、「日本株」というカテゴリーは人気が低くなっている
 - ◆ 「日本株」としてではなく、個別の銘柄として「選ばれし銘柄」になる

企業側からの積極的なアプローチにより
「日本株のone of them」から脱却することが第一歩

海外投資家の日本株リサーチ体制

■ 海外投資家の日本株リサーチ体制は、投資家によって様々

◆ 国内・海外に拠点が存在

- 海外の拠点にアナリスト・ファンドマネージャーが在籍している
- 日本にアナリスト・ファンドマネージャーが在籍している
- アジアの拠点にアナリスト・ファンドマネージャーが在籍し、他の海外拠点に対しても情報提供をしている
- 上記のような日本株リサーチ拠点以外に、他の海外拠点のグローバル株式運用部において日本株の組入れがある

◆ 日本に運用担当者を置いている投資家は、日本株運用を行なっている主要な海外投資家300社程度のうち20社程度

■ 海外の拠点における日本株に対する認知状況

◆ 個別銘柄に対する理解は、日本拠点よりも低くなりがち

◆ 日本においては知名度の高い消費財メーカー等でも、企業側からのコンタクトがなければ「全く知らない」ということも多い

■ 日本株というカテゴリーではなくグローバル株

◆ グローバル株式、専門・特殊セクター株式(例:医薬品ベンチャー、不動産ファンド、スタートアップ企業等)

海外拠点の投資家に対しては、
企業側からの積極的なアプローチが必要

海外投資家とのアプローチの必要性 まとめ

- 日本企業は、自ら積極的に海外資金にアプローチしていかなければ、投資対象として認知されなくなる(中国、韓国、台湾企業は熱心に展開)
- 積極的なアプローチにより、投資対象として認知されれば、継続的な資金調達の可能性が開ける
- 海外投資家との日頃からのアプローチにより、経営に対する信頼感を醸成し、資金調達の柔軟性を確保する
- また、有事*においても、迅速な対応と信頼感に基づく支持を獲得することに資する (*)株主提案・敵対的買収など

海外投資家への積極的なアプローチと
主体的なコミュニケーションが重要

2. 改めて、IR (Investor Relations) とは

インベスター・リレーションズ (Investor Relations) とは

インベスター・リレーションズ (IR) とは

企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な企業情報を、適時、公平、継続して提供する活動のことをいう。企業はIR活動によって資本市場で適切な評価を受け、資金調達などの戦略につなげることができる。株主・投資家も、情報を効率よく集めることができるようになる。

(日本IR協議会 “JIRA”)

インベスター・リレーションズ (IR) の定義

インベスター・リレーションズ (IR) は、企業の証券が公正な価値評価を受けることを最終目標とするものであり、企業と金融コミュニティやその他のステークホルダーとの間に最も効果的な双方向的コミュニケーションを実現するため、財務活動やコミュニケーション、マーケティング、そして証券関係法の下でのコンプライアンス活動を統合した、戦略的な経営責務である。

(2003年3月 全米IR協会 “NIRI”)

何のためのIR活動か

企業経営にとって望ましい株主とは

- ◆ 経営陣と時間軸が近い
- ◆ 経営陣に対する信頼感がある
- ◆ 経営方針を基本的に支持している

IR活動の目的は

貴社の中長期の経営方針・戦略を正しく理解する投資家

貴社の経営を支持する投資家

安定的かつ中長期に保有する投資家

⇒ これら「望ましい株主層」を増やすこと

2021年 改訂コーポレートガバナンス・コード

【原則3－1. 情報開示の充実】

上場会社は、法令に基づく開示を適切に行うことに加え、会社の意思決定の透明性・公正性を確保し、実効的なコーポレートガバナンスを実現するとの観点から、（本コードの各原則において開示を求めている事項のほか、）以下の事項について開示し、主体的な情報発信を行うべきである。

補充原則

3－1② 上場会社は、自社の株主における海外投資家等の比率も踏まえ、合理的な範囲において、英語での情報の開示・提供を進めるべきである。

特に、プライム市場上場会社は、開示書類のうち必要とされる情報について、英語での開示・提供を行うべきである。

【基本原則5】

上場会社は、その持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、株主総会の場以外においても、株主との間で建設的な対話を行うべきである。経営陣幹部・取締役（社外取締役を含む）は、こうした対話を通じて株主の声に耳を傾け、その関心・懸念に正当な関心を払うとともに、自らの経営方針を株主に分かりやすい形で明確に説明しその理解を得る努力を行い、株主を含むステークホルダーの立場に関するバランスのとれた理解と、そうした理解を踏まえた適切な対応に努めるべきである。

※下線はJEにて追記

2020年 改訂スチュワードシップ・コード

責任ある機関投資家」の諸原則 《日本版スチュワードシップ・コード》

1. 機関投資家は、スチュワードシップ責任を果たすための明確な方針を策定し、これを公表すべきである。
2. 機関投資家は、スチュワードシップ責任を果たす上で管理すべき利益相反について、明確な方針を策定し、これを公表すべきである。
3. 機関投資家は、投資先企業の持続的成長に向けてスチュワードシップ責任を適切に果たすため、当該企業の状況を的確に把握すべきである。
4. 機関投資家は、投資先企業との建設的な「目的を持った対話」を通じて、投資先企業と認識の共有を図るとともに、問題の改善に努めるべきである。
5. 機関投資家は、議決権の行使と行使結果の公表について明確な方針を持つとともに、議決権行使の方針については、単に形式的な判断基準にとどまるのではなく、投資先企業の持続的成長に資するものとなるよう工夫すべきである。
6. 機関投資家は、議決権の行使も含め、スチュワードシップ責任をどのように果たしているのかについて、原則として、顧客・受益者に対して定期的に報告を行うべきである。
7. 機関投資家は、投資先企業の持続的成長に資するよう、投資先企業やその事業環境等に関する深い理解のほか**運用戦略に応じたサステナビリティの考慮**に基づき、当該企業との対話やスチュワードシップ活動に伴う判断を適切に行うための実力を備えるべきである。
8. 機関投資家向けサービス提供者は、機関投資家がスチュワードシップ責任を果たすに当たり、適切にサービスを提供し、インベストメント・チェーン全体の機能向上に資するものとなるよう努めるべきである。

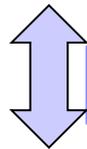
IRに期待されている役割

(以前は) 株式市場の窓口



現在は...

- ✓ 資本市場の声を経営にフィードバックする
- ✓ 貴社にとって望ましい株主層づくりのための活動を行う



欧米企業のみならずアジアの企業もすでに経営は自覚している

資本市場と企業経営の接点となり、「投資家とともに企業価値向上を目指す」という重要な役割を期待されている

『戦略的な地位』へ

日本企業のIR展開のパターン

かつて……

Aタイプ： 大名行列型IR

◆ 対する黄門様型

Bタイプ： やってるでしょ型IR

(文句あるか型IR)

◆ 決められた、あるいは言われた
情報開示のみに徹する

Cタイプ： 点取り虫型IR

◆ アナリスト協会等のアワード受
賞を目指すために入念に計画

(悪いことではないが、形式的に走る傾
向がある)

最近……

Dタイプ： 八方美人型IR

◆ IRは、資本市場の窓口部門に
徹する

(IR活動に戦略がない、また、
時として過剰情報開示)

Eタイプ： 独立独歩型？IR

◆ 経営とリンクしていない、取締役
役会との距離が遠い

3. IRの実務におけるポイント

海外投資家の特徴

	企業に求める情報	運用スタンス	企業の認知
海外投資家	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業戦略、資本戦略や、マーケットの動きに対する会社の対応など、比較的大局的な情報を求める傾向が強い ● パーパス、マテリアルティなどの言葉が流行する前よりそれにそった質問や、経営者の姿勢を問うことが多い <p>☆ <u>海外IRを評価する経営トップは多い</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ヘッジファンド*などの短期指向の投資家は国内よりも多い ● ただし、中長期での保有を中心とする投資家の運用資産が大部分である 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本企業を幅広くカバーする投資家もいれば、グローバル株式運用の中でごく一部の日本企業のみをカバーする投資家もいる ● したがって、国内機関投資家に比べ、企業からの能動的なアプローチが必要
国内投資家	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営の方向性に加えて、専門的な分析に必要な詳細な定量情報を求める傾向が強い ● セクターの中での相対感を重視 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中長期での保有を中心とする投資家が、大部分の資金を運用している <p>★ <u>ただし、アセットオーナーによる四半期ごとのチェック・報告が要請されてる</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの投資家が日本企業を幅広くカバー

ヘッジファンド: 株式、債券、為替などに対してデリバティブによる取引等を行うことにより、高いリターンを追求する運用スタイル。様々なタイプがあるが、株式においては、イベントの発生予想から価格が下がりそうな銘柄について借株を用いて先に売りを入れ、下がった時点で買い戻し、運用の軸を抜くロング・ショート戦略が有名。

海外投資家からの質問事例（実際の個別面談より）

- 海外投資家の特徴として足元の数字の質問は少ない。企業に対する詳細な分析に基づき、長期的な考え方、マネジメントの意気込みを確認する質問が多い
- 企業には、パーパスや経営方針、ユニーク性、それらを支える体制などの説明を期待している
 - ◆ 創業一族が今でも経営されている会社は意外とある。長期的に見るとすごく業績が安定しているというケースが多い。社員のことや取引先のことを大事にしながら長期的な視点で経営をしている。それが結果的に、短期的には悪く見えることがあっても、長期的にはうまくいっているケースが圧倒的に多い。
 - ◆ 〇〇製品は、長期的に10%以上の成長を期待出来るのか。20XX年以降のロードマップはどうお考えか。今後も技術的に勝ち続けていけるのか。競合他社が新製品を市場投入する前に御社がシェアを伸ばせる自信を伺いたい。
 - ◆ 各セグメントで御社の強みをハイライトいただきたい。〇〇が差別化要因であることが理解できた。ここからは、御社の成長戦略、5年、10年先を見た時、どういう姿を目指されているのかをお話いただきたい。
 - ◆ 〇〇事業は、どういう点が魅力であるのか伺いたい。マージンが安定しているという認識はある。どのぐらいのROICを〇〇事業で期待することができるのか。〇〇事業の将来を考えた場合、どのような変化があると思うか。例えば生産量が大きくなるとか、新しい技術が今後出てくる可能性が高いとか、5年や7年先に何が変わりそうであるのかお考えを伺いたい。
 - ◆ プレゼン資料はESG・SDGsを中心に構成されており、それ自体がビジネスの真ん中に位置していることがわかる。これからの中期経営計画はこのようなテーマを核として進んでいくと理解できる。最近の傾向として、ESGアナリストと話をしているときに、注目されてきているのは、社員とのエンゲージメントである。従業員の能力を会社が引き出そうとしてくれて、会社に貢献できていると意識できているか。そういった意識の高い企業に投資・評価したいということである。SDGsの一つの取組みとして重要視されてきている。そういった取組みは行っているか。

ご参考)グローバルにおける二大投資家の一つ

Fidelity Investments

【会社概要】

- ▶ 1946年にエドワード・C・ジョンソン2世により米国ボストンに設立。世界の主要なマーケットにおいて個人投資家から機関投資家まで幅広いニーズに対応した資産運用サービスを提供する、世界最大の独立系投資信託運用グループである。
- ▶ 日本では、1969年に外資系運用会社による初の日本拠点を開設。現在では、海外顧客の日本株式運用、日本の年金基金や機関投資家資金の運用、投資信託の設定・運用を手がけ、150社を超える金融機関を通じて幅広い運用サービスを提供している。
- ▶ 徹底した企業調査を通じて市場認識されていない企業価値を発掘することで、超過収益を得ることができるという哲学を基本として、どの拠点においても企業訪問を中心とした個別企業に対する、徹底的なファンダメンタルズ調査・分析に基づき銘柄を選択する、いわゆる「ボトム・アップ・アプローチ」運用哲学を50年以上にわたりに貫いて実践している。
- ▶ 調査においては、各分野に精通したアナリストが調査を行うだけでなく、その調査結果は、地域や資産クラスも超え、リアルタイムでグローバル全てのポートフォリオ・マネージャー、アナリストに共有される。

【主な運用スタイル】

- ▶ グロース運用、GARP運用

【主な日本株運用拠点】

- ▶ ボストン、東京

Capital Research and Management Company

【会社概要】

- キャピタル・グループは、1931年に米国ロサンゼルスに設立されて以来、トロント、ロンドン、ジュネーブ、シドニー、東京、香港、シンガポール、ムンバイ等に広がるグローバルなリサーチ・ネットワークを駆使した独自の調査を通じ、資産運用に専念している。
- キャピタル・グループの投資哲学は、「徹底した個別銘柄調査が長期にわたる優れた実績につながる」というものである。株価は、短期的には市場動向や投資家心理など様々な要因の影響を受けるが、中長期的にはファンダメンタルズを反映した適性価値に収斂していく、いわゆるミスプライスの解消過程に収益を生む投資機会が存在するとの考えから、徹底した個別銘柄のファンダメンタルズ調査に基づく、ボトムアップ・アプローチを特徴とするバリュー・スタイル運用を行う。
- また、運用の一貫性、継続性を保持するため、一人の有能な人間にすべての銘柄選択を依存するスター・マネージャー・システムではなく、「マルチ・ファンド・マネージャー・システム」を採用している。これは、ファンドやポートフォリオの資産を複数のファンド・マネージャーに分割し、その持分については、個々のファンド・マネージャーが独自の投資判断を下すというシステムである。

【主な運用スタイル】

- バリュー運用

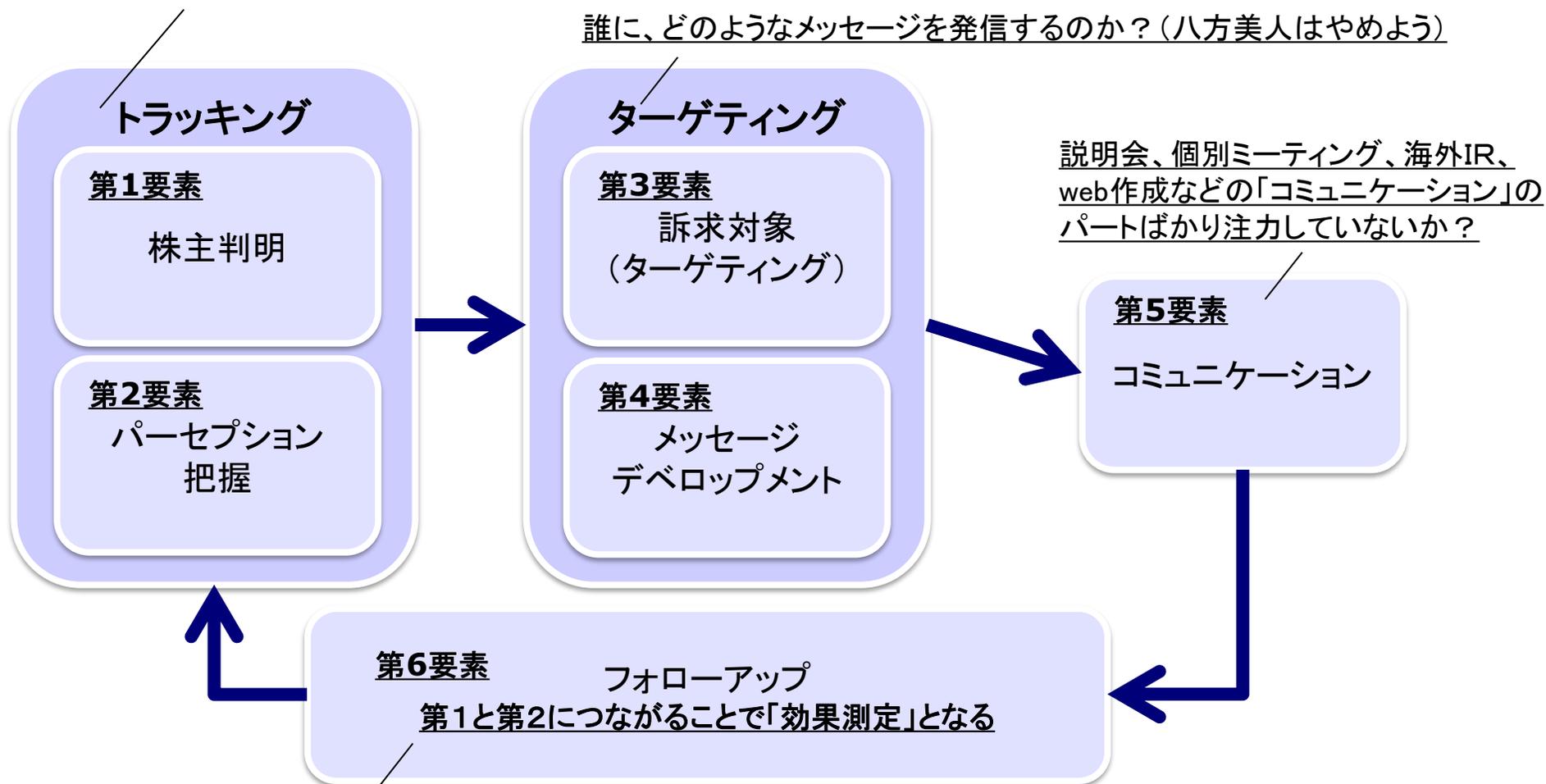
【主な日本株運用拠点】

- ロサンゼルス、ニューヨーク、サンフランシスコ、東京

IRの効率性・成果を上げるための6要素

どの投資家が、どのような評価軸で保有しているのか(あるいはしていないのか)?

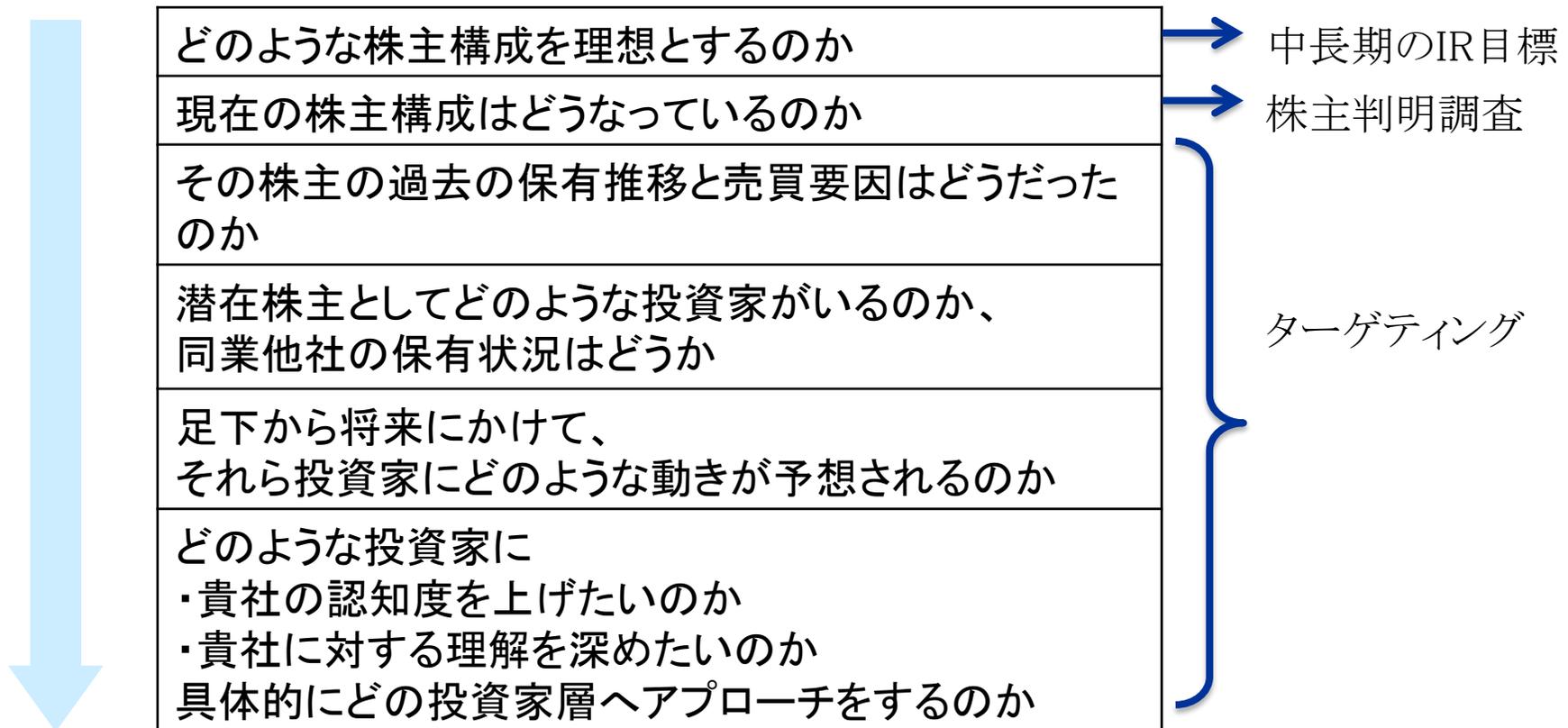
誰に、どのようなメッセージを発信するのか?(八方美人はやめよう)



投資家・アナリストの判断(売買・推奨)とその理由を把握し、今後のメッセージ・デベロップメント材料とする

ターゲティングとは

- 今後の中長期でのIR計画そのものであり、海外IRなどの前に行う「訪問対象の絞り込み・選定」ではない



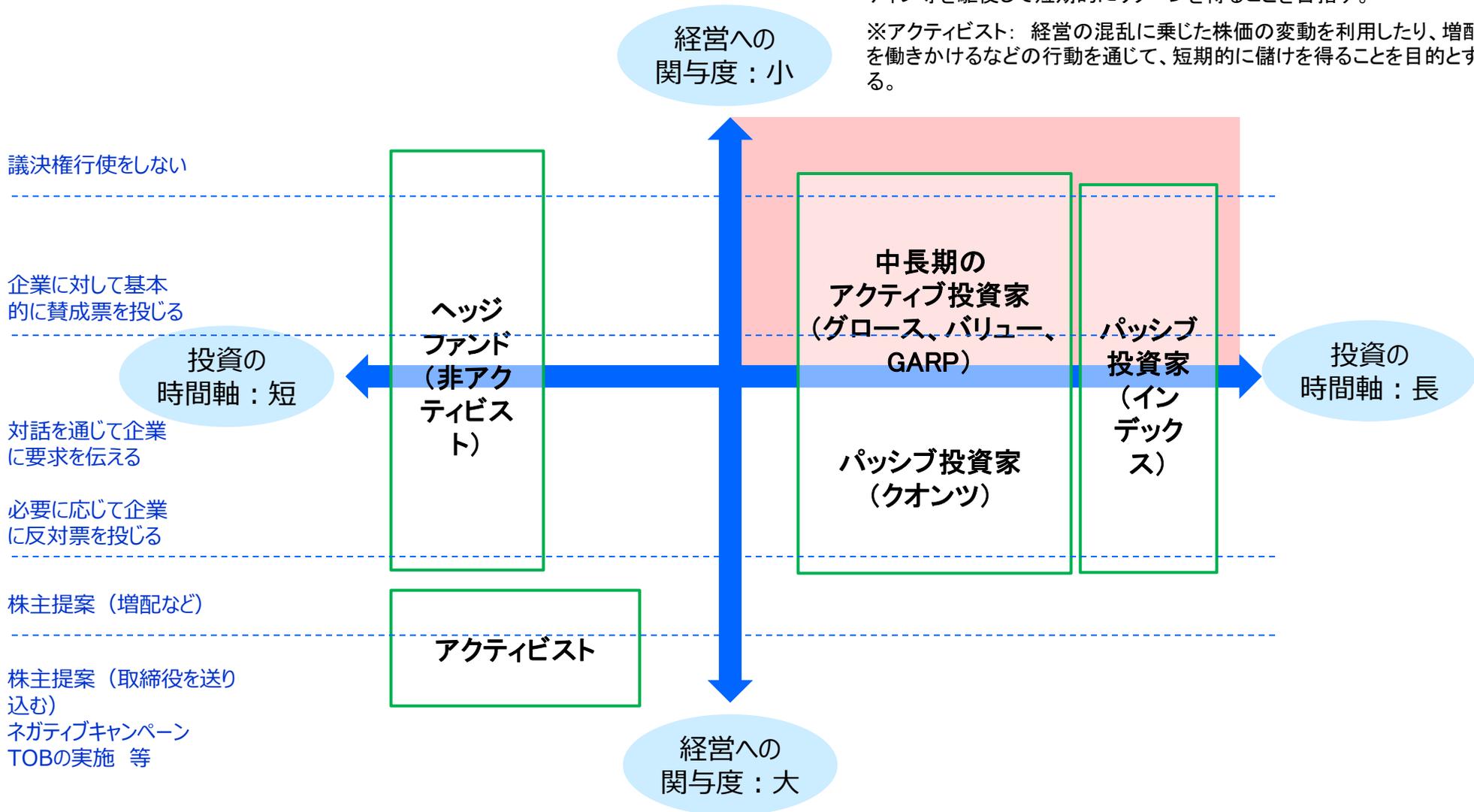
機関投資家の運用スタイル

アクティブ投資家

※中長期の投資家：中長期的な保有を通じて市場平均を上回る運用成績を上げることが目標とする。

※ヘッジファンド：現物株に投資する伝統的な手法は用いず、デリバティブ等を駆使して短期的にリターンを得ることを目指す。

※アクティビスト：経営の混乱に乗じた株価の変動を利用したり、増配を働きかけるなどの行動を通じて、短期的に儲けを得ることを目的とする。



アクティブ運用投資家が重視するファクターの分析

キャピタルゲイン	割安性	資本効率の改善
		業務効率の改善
		市場の評価の低さ解消
	成長性	セクター・マーケットの成長性
		会社独自の成長性
短期の値動き(イベント性)		
インカムゲイン (配当利回り)	配当水準	配当性向
		増配期待
	前提としての安定性	

企業は、上記を意識してIR活動を展開する。企業がどのような情報を発信したらよいかを考える。

企業経営

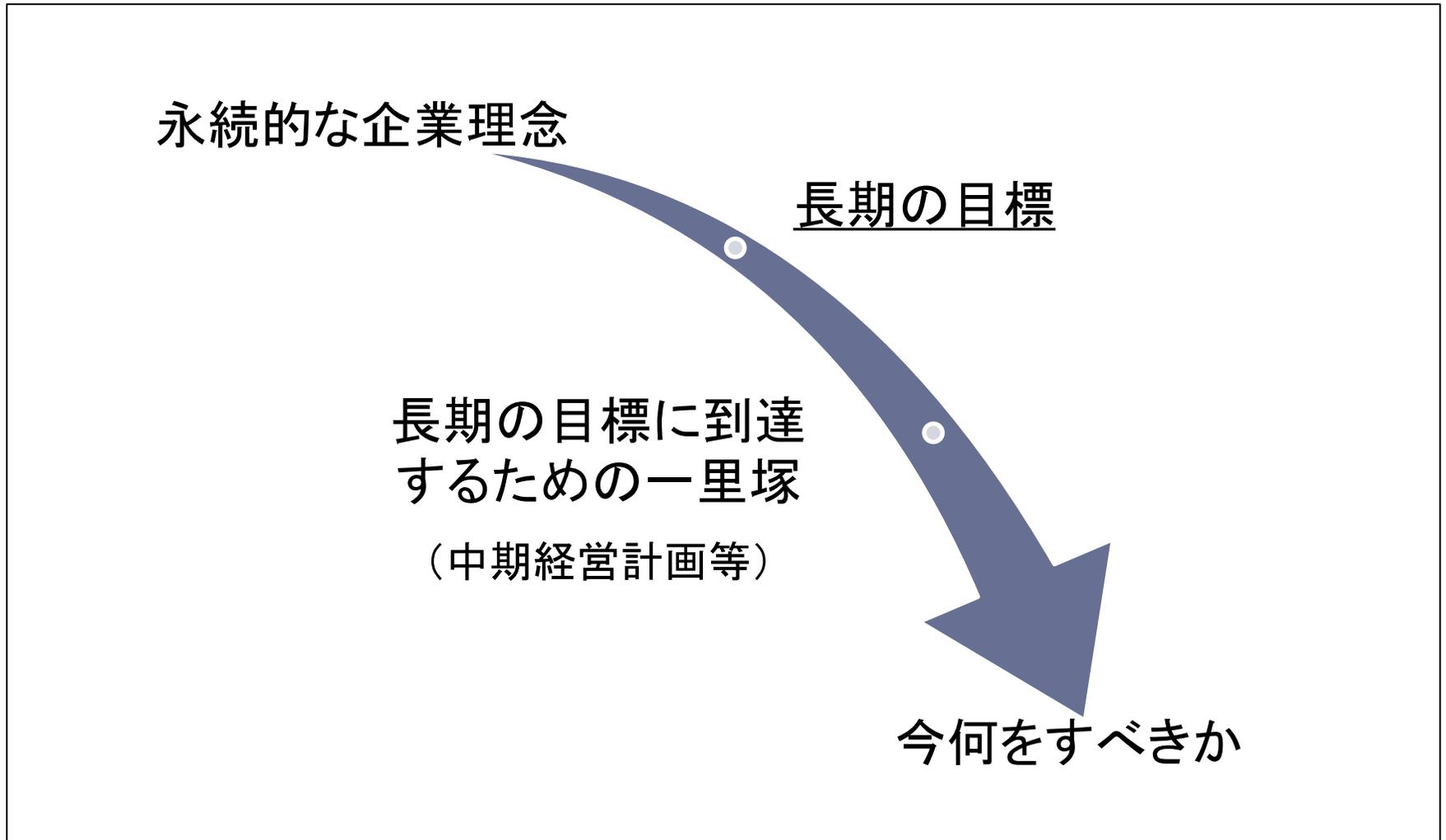
+ガバナンス+ES

メッセージの構築とは

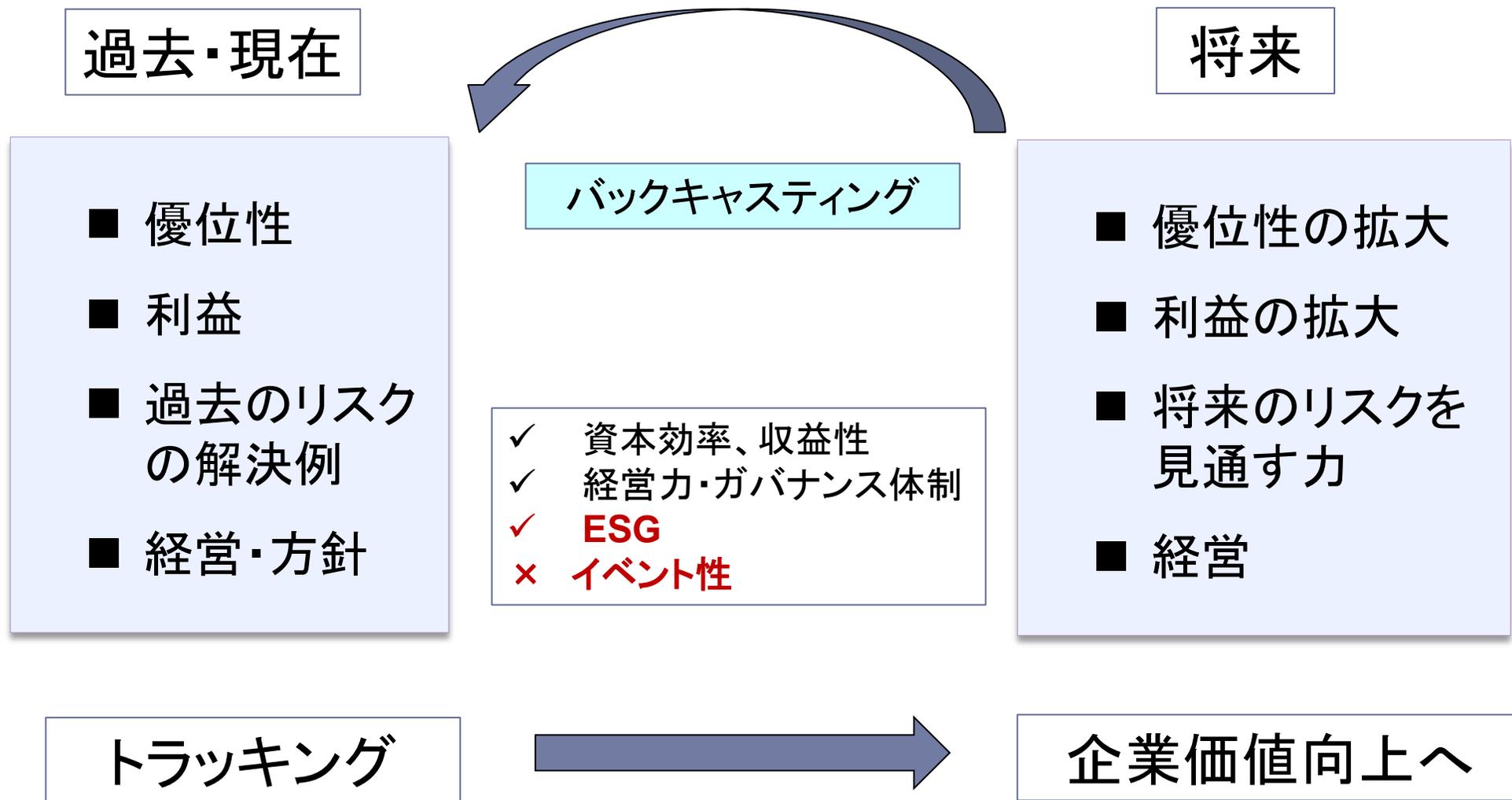
- どうやって企業価値向上を目指しているか、成長していくのか、具体的にはどのような施策であるか、をストーリーをもって伝える

- なぜ優位性があるのか（優位性はどこにあるのか）
- どうやって成長するのか
- なぜ利益を上げられるのか（強みはなにか）
- 短期的・長期的リスクは
- それを解決できる能力が経営者にあるか

投資家が期待する短期・中期・長期のロジック



機関投資家が企業に対して着目するところ



国内における変化のきっかけ

2021年コーポレートガバナンス・コードと対話ガイドラインの改訂とそのポイント

	改訂（2021年）の概要
①取締役会の機能発揮	<ul style="list-style-type: none">プライム市場上場企業において、独立社外取締役を3分の1以上選任（必要な場合には、過半数の選任の検討を奨励）経営戦略に照らして取締役会が備えるべきスキル（知識・経験・能力）と、各取締役のスキルとの対応関係の公表他社での経営経験を有する経営人材の独立社外取締役への選任指名委員会・報酬委員会の設置（プライム市場上場企業は、独立社外取締役を委員会の過半数選任を基本とする）
②企業の中核人材における多様性の確保	<ul style="list-style-type: none">管理職における多様性の確保（女性・外国人・中途採用者の登用）についての考え方と測定可能な自主目標の設定多様性の確保に向けた人材育成方針・社内環境整備方針をその実施状況とあわせて公表
③サステナビリティをめぐる課題への取り組み	<ul style="list-style-type: none">サステナビリティについて基本的な方針の策定サステナビリティについての取組みの開示（特にプライム市場上場企業において、T C F Dまたはそれと同等の国際的枠組みに基づく気候変動開示の質と量を充実）
④上記以外の主な課題	<ul style="list-style-type: none">【グループガバナンスのあり方】 プライム市場に上場する「子会社」において、独立社外取締役を過半数選任または利益相反管理のための委員会の設置【監査に対する信頼性の確保および内部統制・リスク管理】 グループ全体を含めた適切な内部統制や全社的リスク管理体制の構築やその運用状況の監督/内部監査部門が取締役会および監査役会等に対しても適切に直接報告を行う仕組みの構築【株主総会関係】 プライム市場上場企業において、議決権電子行使プラットフォームの利用と英文開示の促進【事業ポートフォリオの検討】 取締役会で決定された事業ポートフォリオに関する基本的な方針や見直しの状況の説明

企業と投資家の変化 サステナビリティに対する関心の高まり

- 企業におけるサステナビリティ(ESG要素を含む中長期的な持続可能性)に対する関心が高まる
- サステナビリティにおいては、リスクだけではなく、収益機会も重要視される
- 長期ビジョンや、同ビジョンにもとづく中期経営計画において、サステナビリティとの関係についてより明確化することが求められる

投資家の求めるESG情報

投資家が投資決定上必要とする企業情報

企業の経済的価値に関する情報

財務情報

非財務情報

G

E・S

“経済的価値の創造“がポイント

- ・事業戦略との整合性
- ・技術力を生かした社会課題の解決

投資家が投資決定上必要としない企業情報

企業の経済的価値にかかわらない情報

非財務情報

E・S

“社会的責任“としての取り組み

投資家による議論

- ESGを投資判断に反映させるのは、経済的価値の追求のためである。
- ESGについては、リスクと投資機会の両方の観点から見ている。
- 長期投資を基本としているので、ESGは当たり前のことだと思っている。
- 持続性のない事業を手掛けている企業には、最初から投資していない。
- 10年後にこの会社がどういう姿になっているのか、というヒントがESG情報には含まれていると思う。中長期的な将来をイメージできる情報が豊富にあるかどうかという点で、今後は企業に対する評価に大きな差が生じるだろう。

直近のコメント：

「ESGに何のために取り組むのか、何のために情報開示するのか。ESG情報を開示するのは、財務情報からは見えない部分で付加価値を創出しようとしている企業の姿を見せるためではないのか。」

海外投資家とのコミュニケーション

- リモート会議による面談がノーマルになり、海外IR実施のハードルが低くなる

米国 (東海岸)	米国 (西海岸)	英国	シンガポール	日本時間	月	火	水	木	金
17:00	14:00			7:00		北米		北米	
	15:00			8:00					
	16:00		8:00	9:00	北米	北米	シンガポール	北米	北米
	17:00		9:00	10:00	北米				シンガポール
				11:00					
				12:00					
				13:00					
				14:00					
				15:00					
				16:00					
		8:00		17:00	英国		英国	英国	英国
		9:00		18:00					
		10:00		19:00	英国	英国	英国	英国	英国
		11:00		20:00		英国			
		12:00		21:00					

海外IRの実務

■ 海外IR当日までのおおよそのスケジュール

日程	実務内容
2か月前	海外IR実施確定後、通訳仮手配
1.5ヶ月前	ターゲティングリスト/案内状の準備
1ヶ月前	海外機関投資家へのアプローチ開始 海外IRプレゼンテーション資料作成開始
1週間前	海外IRプレゼンテーション資料の送付
当日	(欧州・米国・アジア)WEB/電話会議

■ 海外IR当日の進め方のポイント

流れ	ポイント
冒頭 (IR部署)	自社側の出席者紹介 投資家側の出席者確認
挨拶 (社長)	「本日は〇〇について話をしたいと思っている」 進め方の確認
プレゼン (社長)	目安として20分程度(通訳時間含む) 但し、理想は10分以内、QAの時間を多く取りたい
質疑応答 (社長/IR部署)	中長期的な観点で回答する 細かい質問は同席者(IR部署)が担う
最後 (社長/IR部署)	投資家に質問したいことを用意する 最後に伝えたいことを用意する

海外IRのその他の問題 ①

日本企業に対して海外投資家によるコメント

- 日本企業は、問題意識を持っていない経営者が多いのではないか？ 次の3つパターンの経営者が多すぎる
 - ①グローバルの動きへの無知、②感情的、③(問題を)先送りする
- 「勝つため」の視点で、IR活動もしないとだめ。経営者に的をはずれた回答をさせるなどは、IR担当者の怠慢である。また、臨機応変な対応も。
- ガバナンスの議論を、グローバルで勝つために、という認識にたって考えないのならばそれは愚かというのではないだろうか
- 日本語英語が見られることがある 例：中期経営計画は、a mid-term business planと表示している企業が多い (mid-termとは一定期間の中間 a mid-term examination は学期の途中で行われる試験のこと。A medium-term business plan では？)

海外IRのその他の問題 ②

特に、海外IRにおいて、これまで指摘されている問題点

- ◆ 証券会社主導で展開されている

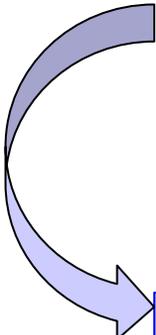
<ご参考> 証券会社のアレンジのメリットとデメリット

メリット

- ◆ 証券会社では、営業部門をつかったアレンジをするため、企業に対しては無料である
- ◆ 営業部門と投資家の友好度によって、時間枠を埋められる
(当該企業にあまり興味のない投資家であっても、ミーティングを受けてくれる場合がある)

デメリット

- ◆ 営業部門のメリットが優先されるため、ヘッジファンド等の不透明な投資家が多く含まれる傾向がある(売買取引高の多いそれらの投資家は、証券会社にとって良い顧客であるため)
- ◆ 事後ヒアリングも営業部門により実施されるため、戦略などの内容に踏み込むことができず、企業の状況・要望に沿ったヒアリングにならない
- ◆ 「継続性」が担保されない。「行きっぱなし」になる傾向がある(顧客(投資家)の為にミーティングアレンジをしており、企業のIRを長期視点でフォローするインセンティブは小さいため)
- ◆ MiFID II により、証券会社は、企業のIRのための投資家とのアポイントメントが設定できない、しづらい状況が進んでいる



期待される自社主導(発行企業主体)の展開 ⇒ Own Nameによる展開を
⇔オンラインミーティング等で、容易な展開が可能となった

4. 欧米アジア企業に負けないIR活動の展開に向けて

変化の主要なドライバー（IRの3つの展望の概要）

■ 投資家の本質的な変化

- ◆ インデックス/パッシブ運用の増加と、アクティブ運用の衰退
- ◆ 株主アクティビズムの増加
- ◆ ESG投資の拡大とESG情報の開示要求の高まり

■ 資本市場構造と技術の変化

- ◆ プライベートエクイティやM&Aによる非上場企業化の増加と、上場企業数の減少
- ◆ クオンツおよびアルゴリズムトレーディングへの移行
- ◆ データ分析とAIの成長
- ◆ MiFID IIとセルサイドの衰退

■ IRにおける広範囲な知識と能力の要求

- ◆ IRの役割の拡大と変化
- ◆ チームファンクションとしてのIR展開

現在のIR/IROで求められていること

現在の典型的なIR	近未来のIR
Tactical and transactional 戦術的・業務的	Strategic 戦略的
Information reporters 情報伝達	Scanners, interpolators, and synthesizers スキャナー、補間器、シンセサイザー
Relationship manager リレーションシップ マネージャー	Trusted advisor 信頼できるアドバイザー
Communicator of company reputation and brand 企業の信望とブランドのコミュニケーター	Driver of business and social value ビジネスと社会的価値向上の推進者
Go-between (経営陣と資本市場の)間を行き来する	Equivalent to speaking with C-suite 経営陣と同等に話をする
Shareholder liaison ステークホルダーのつなぎ役	Stakeholder educator ステークホルダーを啓発する者
Source for business performance data 業績動向の情報源	Master interpreter of critical business metric 重要なビジネス指標の主要な解説者
Early warning system 早期の警報システム	Ethical advisor invoking accountability 説明責任を喚起する倫理アドバイザー

その他、最近のトピックス

- ◆ 人的資本の開示、ジェンダーによる賃金格差問題など、「S」への注目度が高い
- ◆ サプライチェーン問題は、解決したという投資家も増えているが、依然として懸念を抱く投資家からは、海外工場見学などの要望が出ている
- ◆ 経済安保問題について、日本企業の感応度が低いように見られている
- ◆ ロシアによるウクライナ侵攻による物流の混乱やエネルギー問題への対応等、ビジネスへの影響懸念
- ◆ 日本企業は、コロナ禍から脱して、前の社会に戻ろうとしているのではないだろうか。どうして、これをチャンスととらえイノベーションしていないのか。そのような企業には、投資もしないし、関心もない
- ◆ 円安による国力の低下とインフレの到来にどう対処しようとしているのか。ただ単に嵐の通り過ぎるのを待っていないか。

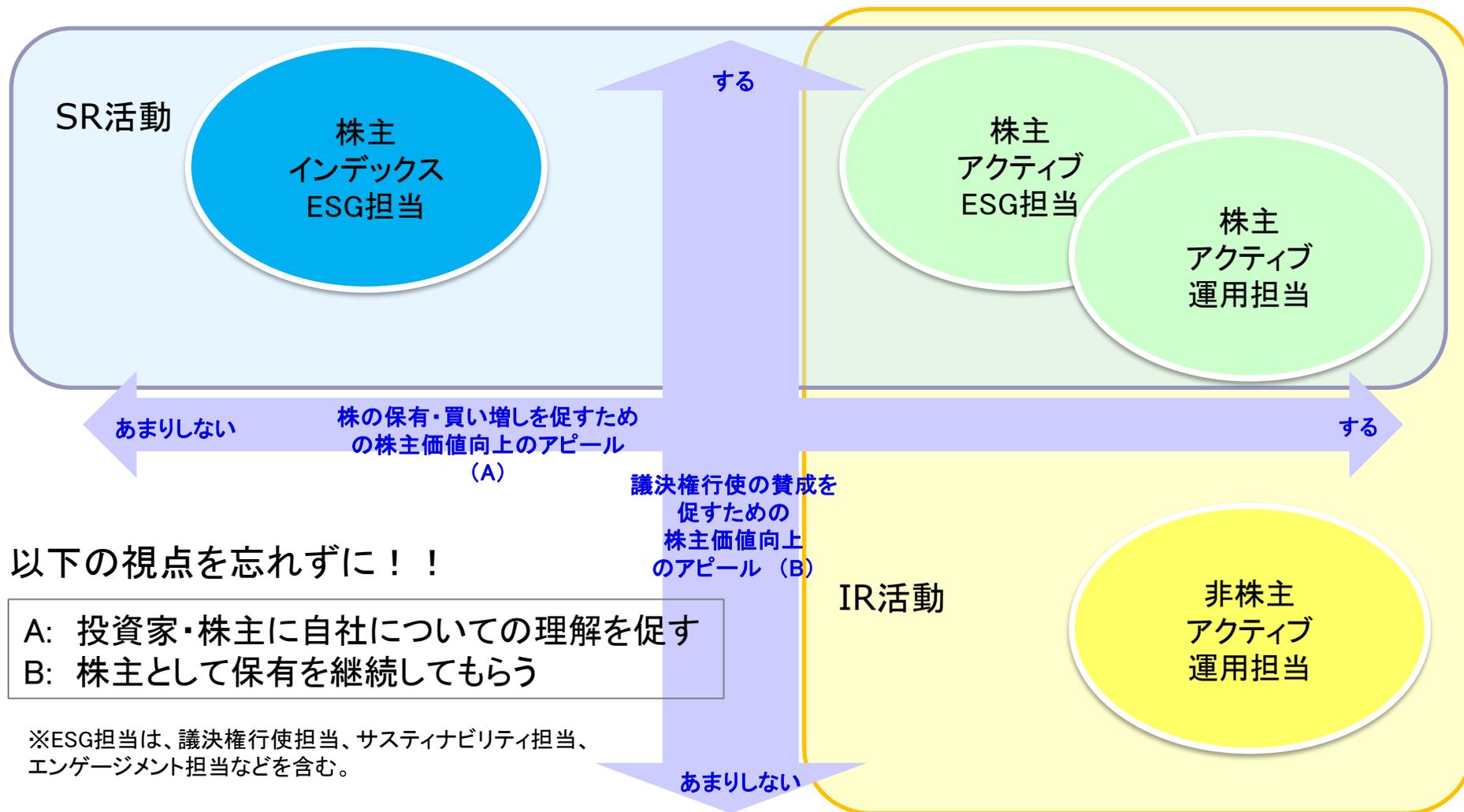
◎ 機関投資家の「心配」を払しょくし、今後のポジティブな変化が予想できるような情報発信が期待されている。

5. SRとアクティビスト

アクティビストが好む銘柄とは

1. 資本市場との対話が少ない(ように見える)
2. ガバナンス報告書に透けて見える不真面目さ(all comply を評価しない)
 - 経営・取締役会で議論されていない(ことが判る)
 - 資本効率への意識が欠如(していることが判る)
 - 他力本願的(メインバンクが守ってくれると信じているように見える)
 - 他社よりは、マシだろうと信じている(取締役会評価における他社比較)
3. 中長期的な視点で経営をしていない(ように見える)
4. 取締役会のメンバーが形式的(過ぎるように見える)

IR活動・SR活動に誤解はないか



最大のアクティビストからの「防衛策」は資本市場との対話の継続

■ 企業が投資家の賛同を得るポイント

- ◆ 経営陣は日頃から株主の声に耳を傾けているか
- ◆ 株主からの要求に対し、すでにアクションを取っているか
- ◆ そのアクションにおける経営トップのコミットメントが十分にアピールできているか
- ◆ 経営陣、および取締役会が資本市場から信頼を持たれているか

IR面談を通じた投資家のコメントにはアクティビスト防衛のヒントが満載

■ 狙われやすい隙を作らない

- ◆ 中長期運用の投資家で占められる株主構成
- ◆ 資本構成、ガバナンス等の弱点を克服

自社を定量・客観視することが重要

- 脆弱性分析
- ガバナンスベンチマーク分析
- パーセプションスタディ

■ 資本市場の動向に高いアンテナを

- ◆ 定期的な株主判明調査、株主構成の把握
- ◆ 投資家からのフィードバックを取締役に定期報告
- ◆ アクティビスト、機関投資家や議決権行使アドバイザーの動き
- ◆ ESGのトレンド 等

ご質問について:

主催者もしくは、冒頭でご案内のアドレスまでご連絡ください。

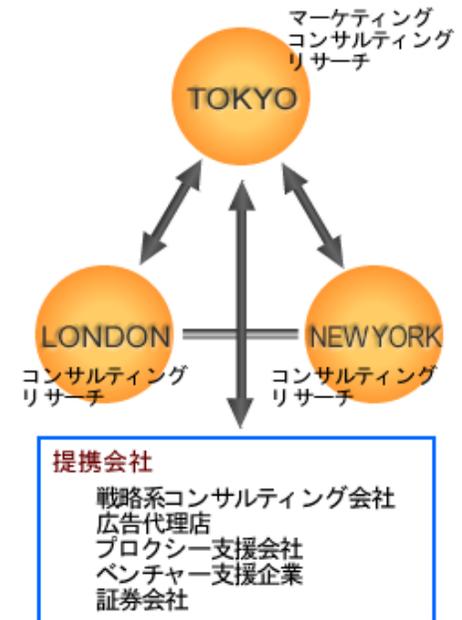
- 本日は、ありがとうございました。

ご参考： 弊社概要と略歴

ジェイ・ユーラス・アイアール(株)について

日本に軸足を置いた日系初のグローバル・IRコンサルティング会社

- 日本企業のIR経験者、グローバルIRコンサルタント経験者らによって設立
- 少数精鋭、顧客少数主義、ボーダレスIR活動の提案（国内IRと海外IRの同一化と質的向上を目指す）
- 東京、ロンドン、ニューヨークの3拠点で、日本企業のニーズを満たし、世界レベルのIR活動を提案



個別企業のニーズに合わせたきめ細かい支援を提供する
ブティック型IRファームとして、高いご評価を頂いております。

日本初、日本企業に提案し、導入いただいたプログラム

- 弊社コアメンバーは日本におけるIRコンサルティングのパイオニアです。
- 現在、日本企業が、現在、“IRプログラム”として実施しているそのほとんどを、弊社(あるいはコアメンバー)が“日本で初めてご提案したものです。
- 海外のグローバル企業も含め、様々なスタイルの企業のIR活動をご支援させていただき、豊富な経験と実績を有しております。

□ 1990年代

- ◆ 株主判明調査
- ◆ パーセプションスタディ
- ◆ 企業主体による海外IRの実施
- ◆ 海外機関投資家および国内機関投資家に対する議決権行使促進
- ◆ ディスクロージャーポリシー策定(社内情報フローの構築)
- ◆ 個人株主への電話キャンペーン(有事時、日常時のパーセプションスタディ)

□ 2000年代

- ◆ 経営統合におけるIR
- ◆ 敵対的買収時のIR
- ◆ 中期経営計画に基づく企業価値向上を掲げた買収防衛策導入第1号のIRご支援
- ◆ ESGー非財務情報への対応

□ そして現在

- ◆ 取締役会評価

略歴

岩田 宜子(いわた よしこ)

代表取締役

ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社

略歴

慶応義塾大学経済学部卒業後、米系銀行の東京支店に入社。外国為替、融資、さらにALM分析、リスク管理計画など多岐にわたる業務を経験の後、米系大手カード会社に入社。当カードの国内におけるシェア拡大、さらに世界に先駆けての国内決済センターの立ち上げ、ICカード実験に参加する。

1992年よりIR業界でのキャリアを開始、1994年12月米国IRコンサルティング会社、テクニメトリックス(現、トムソン・ファイナンシャル)の東京支社開設に伴い、同社に入社。市場を意識したIR活動を日本で初めて提案。同社を退社するまで、日本・韓国担当シニア・ディレクターを務めた。同社で担当した企業数は100社を越え、現在IR先進企業と呼ばれているほとんどの企業を顧客とした。

同社の日本企業チームの有志で、日系初のグローバル・IRコンサルティング会社、ジェイ・ユーラス・アイアール(株)を設立。今までの経験を活かし、日本に軸足を置いた本格的なIRコンサルティングビジネスを展開する。現在、上場企業はもちろん、新興企業、上場前企業を顧客とする。2007年より2011年まで東証上場会社表彰選定委員。2013年10月、経産省にて、「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」における対内直接投資研究会を発足され、その委員に選ばれた。

2016年、京都大学にて博士号(経済学)取得。

ご参考: 日経新聞夕刊2020年6月1日より「人間発見」(5回掲載)

2021年9月30日現在

主な掲載論文

「欧米に遅れる日本企業の資金調達」(ハーバード・ビジネス・レビュー92年11月)、「アナリスト評価機関の設立を」(1994年東洋経済別冊)、「日本企業によるIR活動の現状と今後の課題」(商事法務1996.11.25号)、「株価左右するIR活動—国際優良銘柄の条件に、株主総会対策で効果」(日経金融新聞1997年2月)、「日本における議決権行使システムの問題と改善提案」(商事法務2000.3.5号)、「アメリカ最新事情に見る総会の役割」(週刊東洋経済「経営革新入門」2000.6.10/6.17号)、「新世紀マネージメント市場に真摯なIR、情報開示ポリシー作りの3原則」(日経ビジネス2000.11.6号)など。日本インベスター・リレーションズ協会による刊行誌に「パワーアップする日本の経営陣」、「西暦2000年のIR」、「IT時代を意識する米国」などを掲載。

2001年1月 東洋経済新報社より近藤一仁氏との共著で「投資家・アナリストの共感をよぶIR」を出版。また、2001年後半、日本証券新聞にて「IRの現場から」、東証マザーズメールマガジンにて「IR基礎編」を担当。2010年8月 日経新聞「目からうろこ」シリーズ「企業統治開示の新潮流」8回執筆、2011年8月 日経新聞「なるほど投資講座」シリーズ「企業統治開示の最新事情」4回執筆。2013年12月同友館「ファンドマネージメント大全～資産運用会社の経営と実務～」のIRのパートを執筆。2014年12月、同友館より「スチュワードシップ・コードとコーポレートガバナンス・コード～日本企業への影響とIR活動～」を代表執筆。2015年11月「コーポレートガバナンス・コードのIR対応」(中央経済社)出版。2017年12月 商事法務「取締役会評価の現状分析と今後の課題」(共著)。2019年7月 商事法務「取締役会のあり方に関する近時の議論と企業の対応—取締役会の実効性評価により抽出される課題と対応—」(共著)。2019年11月 商事法務「取締役会評価の現状分析と今後の課題」(共著)続いて、2021年5月 商事法務「取締役会評価の現状分析と今後の課題」(共著)を発表。9月15日号にて「投資家によるエンゲージメント要請への応え方」を執筆。



英文IR人材育成講座

海外投資家とのコミュニケーション

浜辺真紀子

2022年10月

自己紹介 (浜辺真紀子)

- ～2000年2月 チリ中央銀行、JPモルガン等を経て、
 トムソン・ファイナンシャルIR
- 2000年3月 ヤフー株式会社* 入社（初めてのIR専任者） * 現Zホールディングス
- 2014年4月 SR（ステークホルダーリレーションズ）本部長
- 2018年4月 社長室長 兼 コーポレートエバンジェリスト
- 2018年7月 「ヤフージャパン市場との対話」を上梓
- 2019年9月 ディップ株式会社
- ～2020年11月 執行役員 コーポレートコミュニケーション統括部長
- 2021年3月 ソウルドアウト株式会社 独立社外取締役
 株式会社大塚商会 独立社外取締役（現任）
 浜辺真紀子事務所（IR/ESGコンサルティング）代表（現任）

本日のテーマ

- I. 海外投資家の特徴
- II. 海外投資家層を開拓するメリット
- III. 事前準備：課題と対策
- IV. 実践：ミーティング
- V. ミーティング後
- VI. 英語力ブラッシュアップのために

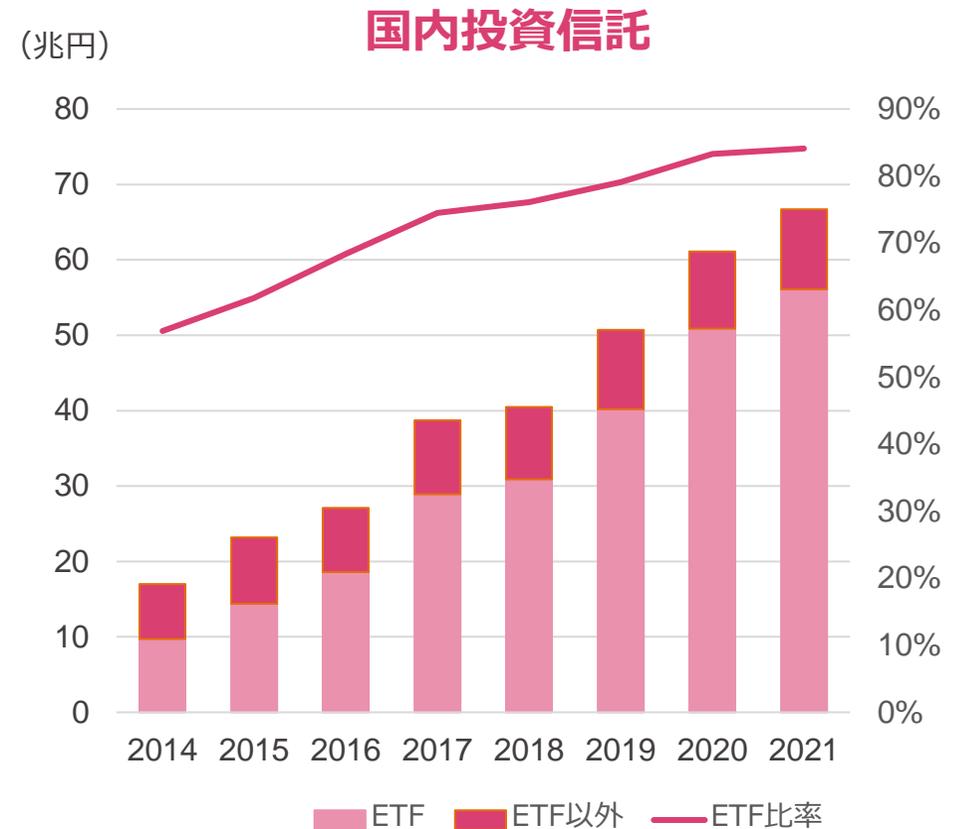
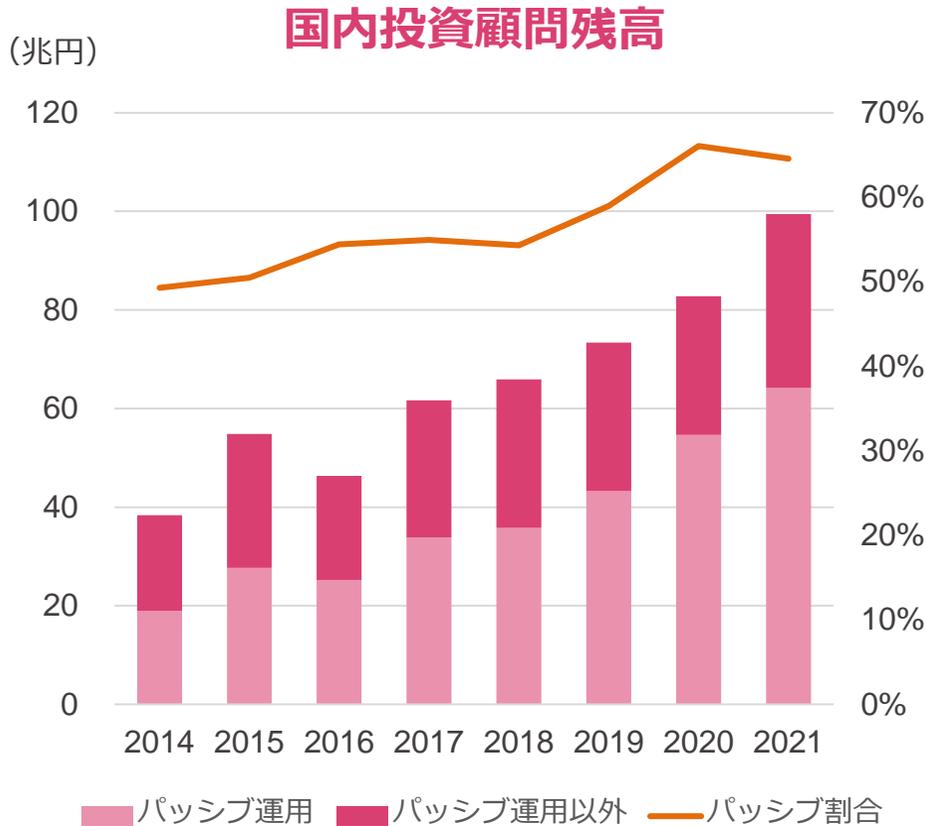
本日のテーマ

- I. 海外投資家の特徴
- II. 海外投資家層を開拓するメリット
- III. 事前準備：課題と対策
- IV. 実践：ミーティング
- V. ミーティング後
- VI. 英語カブラッシュアップのために

1. 海外投資家の特徴

1. 運用成績に対して厳しい評価を下される環境にあり、プロフェッショナル度が高い
2. 独自の視点により、高い成長可能性を持つ上場企業を見つけ、「エッジが効いた」投資をする傾向がある
3. 強い「海外投資家ネットワーク」を持つ
4. 海外企業への造詣が深く、日本人とは異なる視点を持つ
5. 日本に比べて「アクティブ運用」の比率が高い

国内では「パッシブ運用」の割合が高い



* パッシブ運用 = 特定のインデックス(日経平均株価やTOPIX)等に連動する運用成果を目指す投資手法

* ETF = 東京証券取引所などの金融商品取引所に上場しているパッシブ運用の投資信託

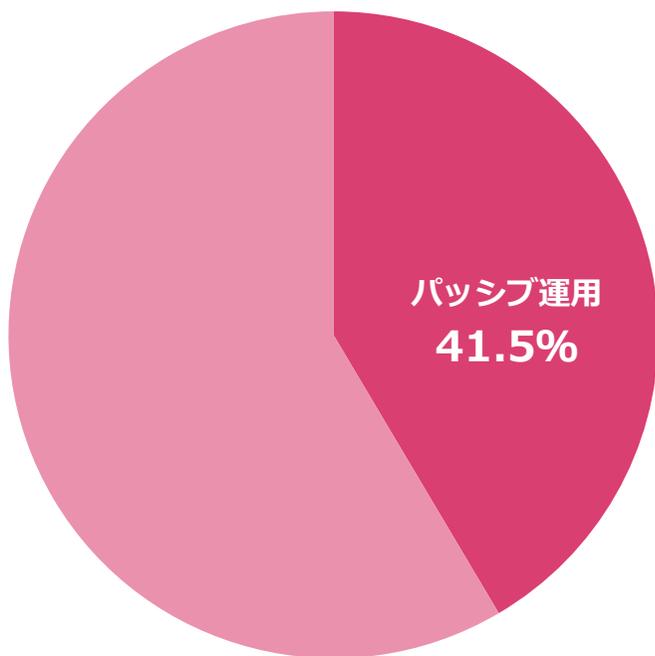
出所：日本投資顧問業協会「日本版スチュワードシップ・コードへの対応等に関するアンケート」

出所：投資信託協会「投資信託の主要統計」

海外ではパッシブ運用は半分未満

米国における「米国外株式ファンド」

パッシブ比率は41.5%（2020年末）

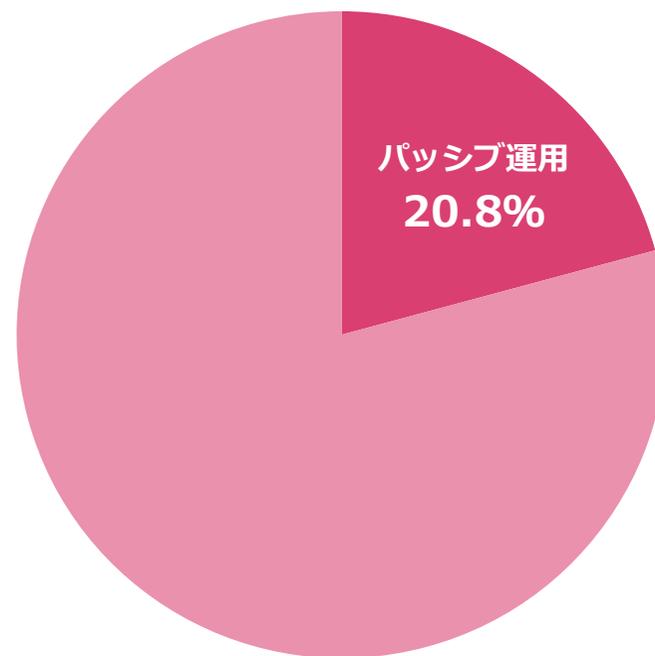


■ パッシブ運用 ■ パッシブ運用以外

出所：Bloomberg Finance L.P.
<https://about.bloomberg.co.jp/blog/passive-likely-overtakes-active-by-20-26-earlier-if-bear-market/>

欧州籍ファンドにおける

パッシブ比率は20.8%（2021年4月）



■ パッシブ運用 ■ パッシブ運用以外

出所：モーニングスター株式会社
<https://www.morningstar.co.jp/fund/analyst/2021/2q/MFA120210611.html>

パッシブ運用増加で「IR活動」は不要に??

- パッシブ運用では個別銘柄を選別(売買)しない
 - エンゲージメントにより企業価値の拡大を目指す
- インデックス等への組み入れには「時価総額拡大」が必要
 - 「パッシブ運用ファンド組み入れ」と「株価上昇」は「鶏と卵」



- 「時価総額拡大」のためには、アクティブ運用投資家へのアプローチ = 「IR」が必要
 - アクティブ運用割合が多い海外投資家へのターゲット
- 大型パッシブ運用ファンドに含まれない『中小型株企業』の成長に着目し、高いパフォーマンスを追及する『アクティブ運用ファンド』が今後盛んになる可能性もある

本日のテーマ

- I. 海外投資家の特徴
- II. 海外投資家層を開拓するメリット
- III. 事前準備：課題と対策
- IV. 実践：ミーティング
- V. ミーティング後
- VI. 英語カブラッシュアップのために

II. 海外投資家層を開拓するメリット

「流動性向上、株価上昇のきっかけとなり得る」

- 「日本の株式市場売買代金」において海外投資家は約6割を占める
→ 海外投資家を呼び込むことにより、流動性が向上する
- 「良い銘柄」のうわさが他の外国人投資家に波及する
(転職が多いことも影響し、横のネットワークが強いため?)
- 国内機関投資家/個人投資家が追随し、株価を「更に」動かす

「対話相手」としての魅力

- 海外企業への造詣が深く俯瞰力が高いため、学びの機会が得られる
- 日本人とは「異なる視点」が「対話相手」として役立つ可能性がある

本日のテーマ

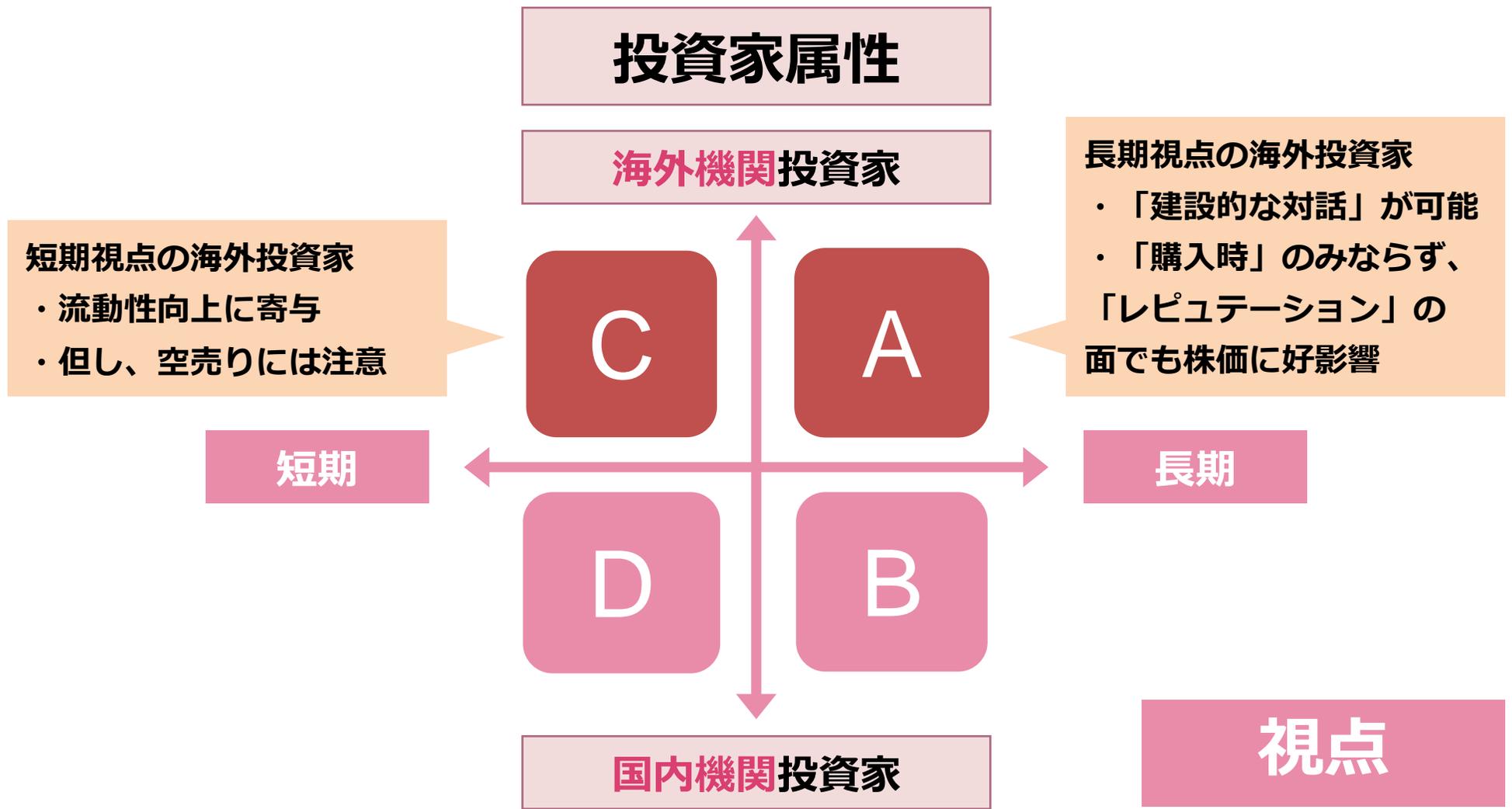
- I. 海外投資家の特徴
- II. 海外投資家層を開拓するメリット
- III. 事前準備：課題と対策
- IV. 実践：ミーティング
- V. ミーティング後
- VI. 英語カブラッシュアップのために

III. 事前準備：課題と対策

1. 「海外投資家」のカテゴリ分類
2. 「積み上げ」ではなく「マクロ視点からミクロ視点へ」
3. 「短いミーティング時間」で、共有する情報の「質・量」最大化を図る
4. 事業環境に対する「異なる常識」
5. 情報の英語化
6. (英語が得意でなくても)これだけは英語で話そう！

III-1 「海外投資家」のカテゴリ分類

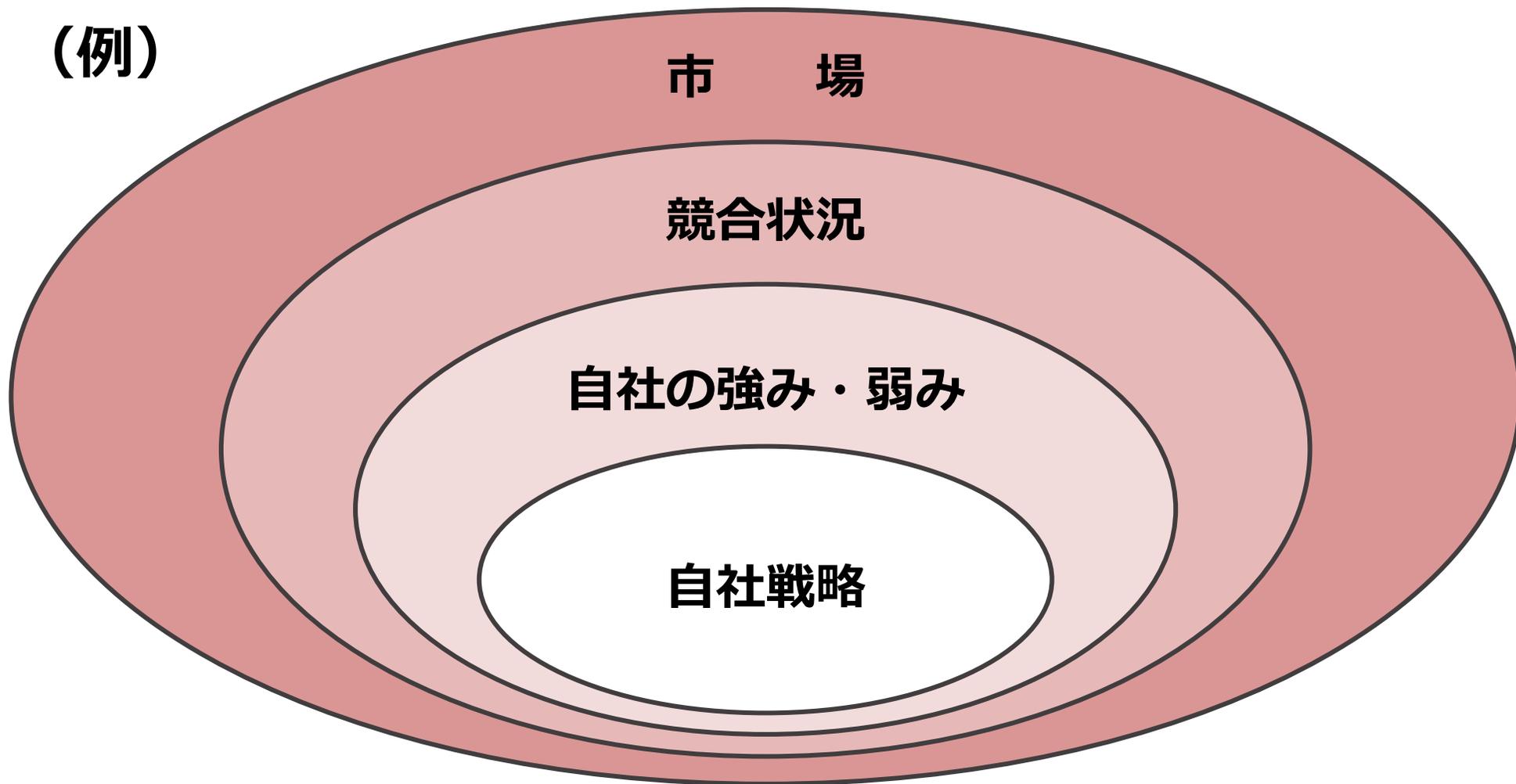
視点の時間軸の違いを意識して対応



III-2 海外投資家のアプローチ

「積み上げ」ではなく「マクロ視点からミクロ視点へ」

(例)



III-3 「短いミーティング時間」で 共有する情報の「質・量」最大化を図る

- 「初めての投資家向けプレゼン資料」の作成と**事前送付**
→必要な情報を1冊にコンパクトにまとめる
- 内容例(基本事項)
 - ✓ ビジョン、ミッション、パーパス等
 - ✓ ビジネスモデル（例：誰からお金をどうもらって、誰にどう払っているか）
 - ✓ 市場規模、競合(各社の特徴)、市場シェア推移
 - ✓ 自社の強み、差別化要素
 - ✓ 財務・非財務指標推移表（できればエクセルでサイトに掲載）
 - ✓ 株主情報（所有者別株式分布状況）、コーポレートガバナンス情報、等
- 第三者リサーチレポートを活用する方法もあり

IRサイトにも要掲載！

III-4 事業環境に対する「異なる常識」

- 国別の事業環境の「常識と理解」によるギャップ
 - ✓ 産業を取り巻く状況
 - ✓ 消費者/顧客の行動様式
 - ✓ 競合状況、等
- 対話を通じて「ギャップ」を見極めた上で、以下に対応：
 - ✓ **補足資料の作成**
 - ✓ 「初めての投資家向け資料」等への挿入

III-5 情報の英語化

- IRサイトの英語情報の量
 - ✓ 日本語ページと英語ページは「対」になるように
- 英語版掲載タイミング：
「日本語版完成がギリギリのタイミングで間に合わない」??
 - ✓ 日英同時公開の重要性を役員に周知
 - ✓ 決算資料作成スケジュールの見直し
- 英語の質
 - ✓ 正確性が最重要
 - ✓ 「機械翻訳をそのまま掲載」はNG。但し「スピード」とのバランスは重要
 - ✓ 可能であれば、翻訳者・通訳者は「いつもの人」を確保

III-6 (得意でなくても)これだけは英語で話そう！

事前に日本語で原稿を書き、英語に翻訳、
ネイティブチェックを受けた上で、暗記

(1)自己紹介

- 海外投資家にとって「スピーカーが誰なのか」は重要
- 何年間、現在のポジションを担っているか
- 自身の職歴(自社及び前職等)を軸にアピール！
 - ✓ 「自社を正しく理解し」
 - ✓ 「株式市場の考え方も理解しているため」
 - ✓ 「『経営の代弁者』として十分な資質を持っている」

III-6 (得意でなくても)これだけは英語で話そう！

(2)自社が「魅力的な投資対象」であることの説明

- 「ミッション」「パーパス」「ビジネスモデル」「自社の強み」等
→ 「初めての投資家向けプレゼン資料」(P14)を活用
- 事業の詳細やQ&Aは通訳を介しても可
「英語で説明できるパーツを徐々に増やす」ことを目指す

本日のテーマ

- I. 海外投資家の特徴
- II. 海外投資家層を開拓するメリット
- III. 事前準備：課題と対策
- IV. 実践：ミーティング
- V. ミーティング後
- VI. 英語カブラッシュアップのために

IV. 実践：ミーティング

1. 自己紹介、自社の魅力アピール、株式保有に関するコメント
2. インタラクティブな対話を意識
3. フェアディスクロージャーの厳守
4. 様々なテクニック

IV-2 インタラクティブな対話を意識

「やってしまいがち」な「対話」

- ・ 投資家の質問に断片的に回答する
- ・ 一方的に説明しまくる



- ・ 投資家に説明すると同時に質問を投げかけ、
インタラクティブな対話を行う

IV-2 インタラクティブな対話を意識

インタラクティブな対話の例

1. 何故、その投資家が自社に興味を持ったのか聞いてみる
2. 自社の「強み」「課題」を投資家がどう捉えているか聞いてみる
3. 「将来の市場の方向性」等（例）を伝えた後、相手の考えを聞いてみる
4. 「ご質問の意図は x x ですか？」と聞いてみる
5. 投資家の母国における自社産業との共通点・相違点について聞いてみる
6. （株式未保有の相手に）保有していない理由を聞いてみる
7. MTGの終了前に、その日のディスカッションを通じて投資家が受けた印象・感想を聞いてみる

→MTG冒頭「ご感想を聞きたいので、最後の10分をください」と伝える

IV-3 フェアディスクロージャーの厳守

- 「お土産」は不要！
- 「空売りされるリスク」を回避

良く使う言い回し：

- ・ 足元の業績についてはフェアディスクロージャーの観点から申し上げられない。
- ・ 「公表見通し」と大きな乖離が生じた場合には適時開示が必要になるが、現時点ではそういう状況ではない。
- ・ 前回の決算発表(x 月 x 日)時点の状況を詳しくご説明します。
 - 足元業績についての質問が徐々に減る
 - 空売り比率の減少

IV-4 様々なテクニック

- (1) 相手のペースに引きずられない (負い目を感じない)
- (2) 「結論から先に」
- (3) 質問の意図が不明確な時、「近そうなこと」を話してみる
- (4) 口をはさむために「相手の呼吸を読む」
- (5) 海外投資家が使う単語を使ってみる
- (6) 「スモールミーティング」対応時の留意点

IV-4 (5) 海外投資家が使う単語を使ってみる

海外投資家が良く使う「単語」をピックアップし、会話の中で使ってみる

Organic growth

Leveraging

Cash cow

Low hanging fruits

**Cutting-edge
services**



IV-4 (6) 「スモールミーティング*」 対応時の留意点

- 参加投資家 個々人の知識レベル・目的が異なる
 - ✓ 新規投資家：どんな会社が見てみたい
 - 深く予習して1対1で話す程の段階ではない
 - ✓ 既存株主：「情報のアップデートをしたい」等
- 新規株主獲得のチャンス!!
 - ✓ 「既存株主」の質問には、必ず「背景の補足」を
 - ✓ 投資家全員の顔を見ながら説明
 - 「1対1の会話」にならないように注意

*スモールミーティング：上場会社の個別ミーティングに複数の投資家が参加する会議

本日のテーマ

- I. 海外投資家の特徴
- II. 海外投資家層を開拓するメリット
- III. 事前準備：課題と対策
- IV. 実践：ミーティング
- V. ミーティング後
- VI. 英語カブラッシュアップのために

V. ミーティング後

- 反省会を開催（同席者と）
 - ✓ かみ合わなかった点について「忌憚なく」認識すり合わせ
→後日投資家にフォローアップ
- 事後の質問には質・スピード共に良いレスポンスを
- 定期的な「御用聞き」（ミーティング依頼）
- 経営トップへの適宜報告と、四半期毎の「取締役会への報告」

本日のテーマ

- I. 海外投資家の特徴
- II. 海外投資家層を開拓するメリット
- III. 事前準備：課題と対策
- IV. 実践：ミーティング
- V. ミーティング後
- VI. 英語力ブラッシュアップのために

VI. 英語カブラッシュアップのために

- 1 自己紹介 (P 17参照)
- 2 自社の魅力説明 (P 18参照)
 - 相手がイラついたら、すぐに切り替える
 - ※相手がイラつくのは、準備不足のための場合が多いので、準備し直し
- 3 チーム内での勉強会
 - 日本語エッセイの英語サマリー等
- 4 オンライン英会話等での練習
 - エッセイを元にしたネイティブスピーカーとのディスカッション等

(ご参考) ESG概念図

全体を監督するのが「ガバナンス」

機会

(ポジティブ・インパクト)

事業
内
領域

事業を通じた課題解決

ミッション、パーパス

CSV≡「SDGs x x 番！」

事業
外
領域

社会貢献活動

(慈善活動 = フィランソロピー)

寄付、社員のボランティア活動

※CSRではない！

リスク

(ネガティブ・インパクト)

経営・事業推進における 社会要請への対応

【E (環境)】

環境方針、温室効果ガスの開示と削減、
エネルギー・水資源使用量の開示と削減 等

【S (社会)】

人権方針 (国際規範にのっとったもの)
雇用・労働慣行 (ハラスメント、過重労働、
DI&E) 等

ご清聴

有難うございました



英文開示促進に向けた東証の取組

株式会社東京証券取引所 上場部

2022年10月5日

新しい市場区分



プライム市場

高い流動性とガバナンス水準を備え、グローバルな投資家との建設的な対話を中心に据えた企業向けの市場

スタンダード市場

公開された市場における投資対象として十分な流動性とガバナンス水準を備えた企業向けの市場

グロース市場

高い成長可能性を有する企業向けの市場

英文開示に関するコーポレートガバナンス・コード（下線は2021年6月改訂事項）

概要

補充原則
1 - 2 ④

- 上場会社は、自社の株主における機関投資家や海外投資家の比率等も踏まえ、議決権の電子行使を可能とするための環境作り（議決権電子行使プラットフォームの利用等）や招集通知の英訳を進めるべきである。
- 特に、プライム市場上場会社は、少なくとも機関投資家向けに議決権電子行使プラットフォームを利用可能とすべきである。

補充原則
3 - 1 ②

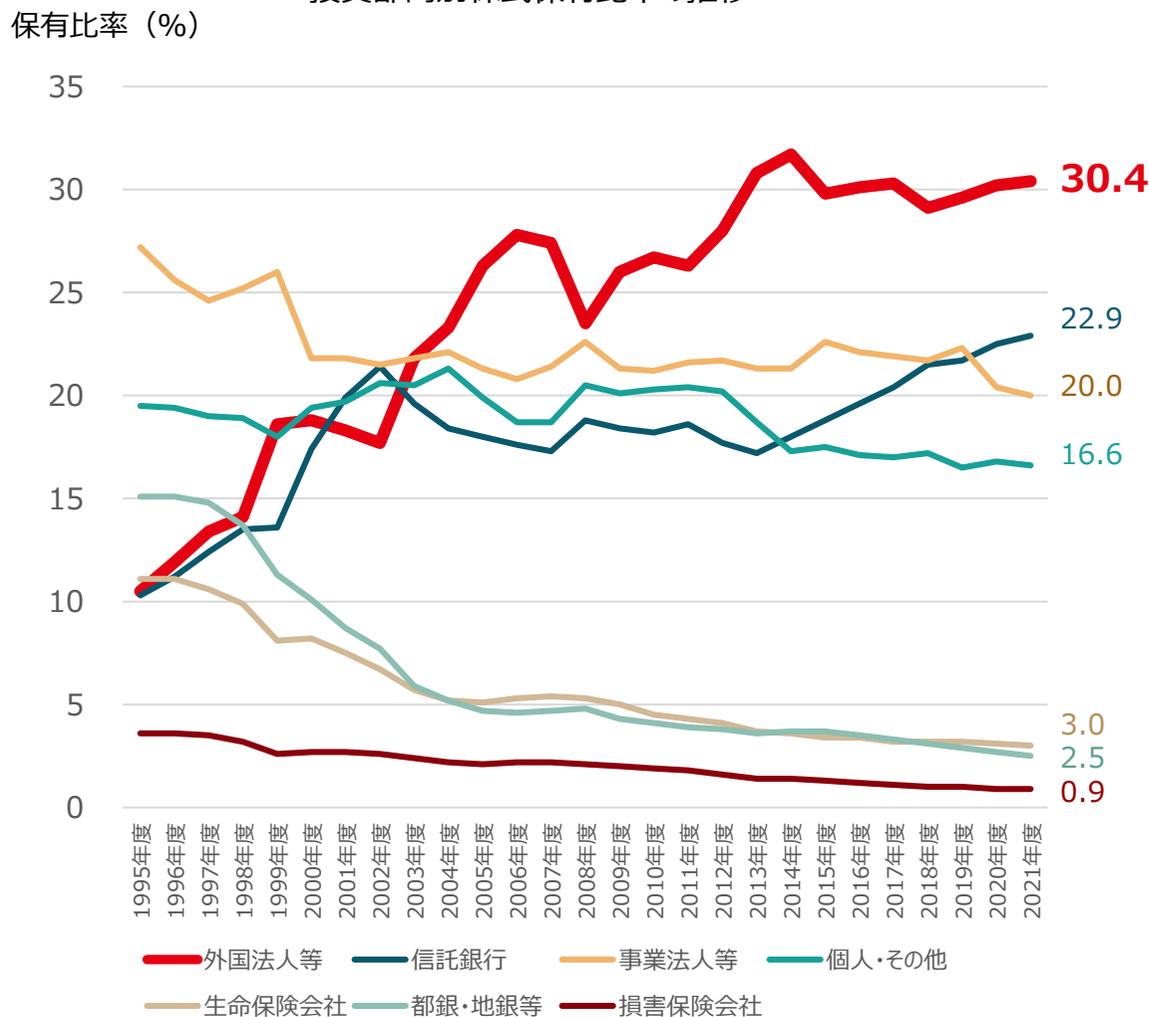
- 上場会社は、自社の株主における海外投資家等の比率も踏まえ、合理的な範囲において、英語での情報の開示・提供を進めるべきである。
- 特に、プライム市場上場会社は、開示書類のうち必要とされる情報について、英語での開示・提供を行うべきである。

1. 海外投資家の株式保有状況

海外投資家の株式保有状況

- 海外投資家は保有率（ストック）で約30%、売買代金（フロー）で約60%を占め、東証市場における重要な投資主体

投資部門別株式保有比率の推移



投資部門別売買代金（2021年）

	東証一部	東証二部	マザーズ	JASDAQ	東証全体
海外投資家	60.0%	32.0%	37.6%	39.9%	58.2%
国内機関投資家等	6.7%	2.8%	2.7%	3.3%	6.4%
証券会社（委託）	0.7%	2.4%	1.6%	1.9%	0.8%
自己勘定取引	13.8%	2.8%	3.6%	4.4%	13.0%
個人投資家	18.8%	60.0%	54.5%	50.4%	21.6%

出所：2021年度株式分布状況調査<<https://www.jpx.co.jp/markets/statistics-equities/examination/01.html>>

注：2004年度から2009年度まではJASDAQ証券取引所上場会社分を含み、2010年度以降は大阪証券取引所または東京証券取引所におけるJASDAQ市場分として含む。

2. 英文開示実施状況

- 東京証券取引所では、海外投資家の利便性の向上及び英語による会社情報の開示・提供の一層の促進を図る観点から、2019年11月より上場会社各社の決算情報、適時開示資料、株主総会招集通知などの英文による開示状況に関する調査を内国上場会社を対象に実施し、その回答を一覧にとりまとめ、当取引所ウェブサイトにて公表
- 2022年7月14日現在のご回答内容（全市場の87.5%、プライム市場は全社から回答を受領）を基に、内国上場会社の英文開示の実施状況を集計

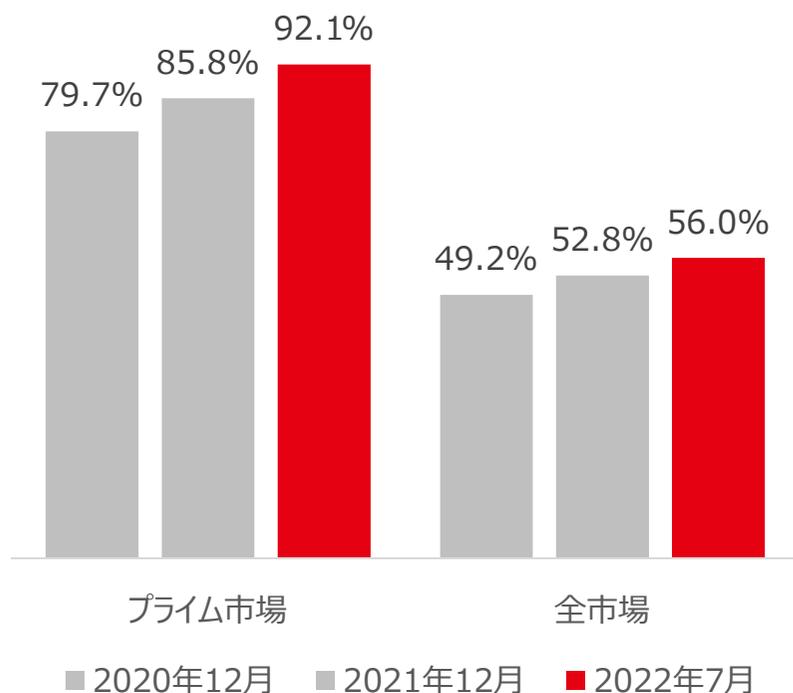
調査回答率

	2020年12月	2021年12月	2022年7月
全市場	82.2%	87.9%	87.5%
市場区分別			
プライム市場	96.8%	100.0%	100.0%
スタンダード市場	70.0%	79.0%	78.8%
グロース市場	63.3%	68.0%	65.8%
指数区分別			
TOPIX500（大型株・中型株）	99.6%	100.0%	100.0%
TOPIX100（大型株）	99.0%	100.0%	100.0%
TOPIX Mid400（中型株）	99.7%	100.0%	100.0%
TOPIX Small（小型株）	94.1%	98.6%	98.7%
JPX日経400	99.0%	99.3%	99.2%

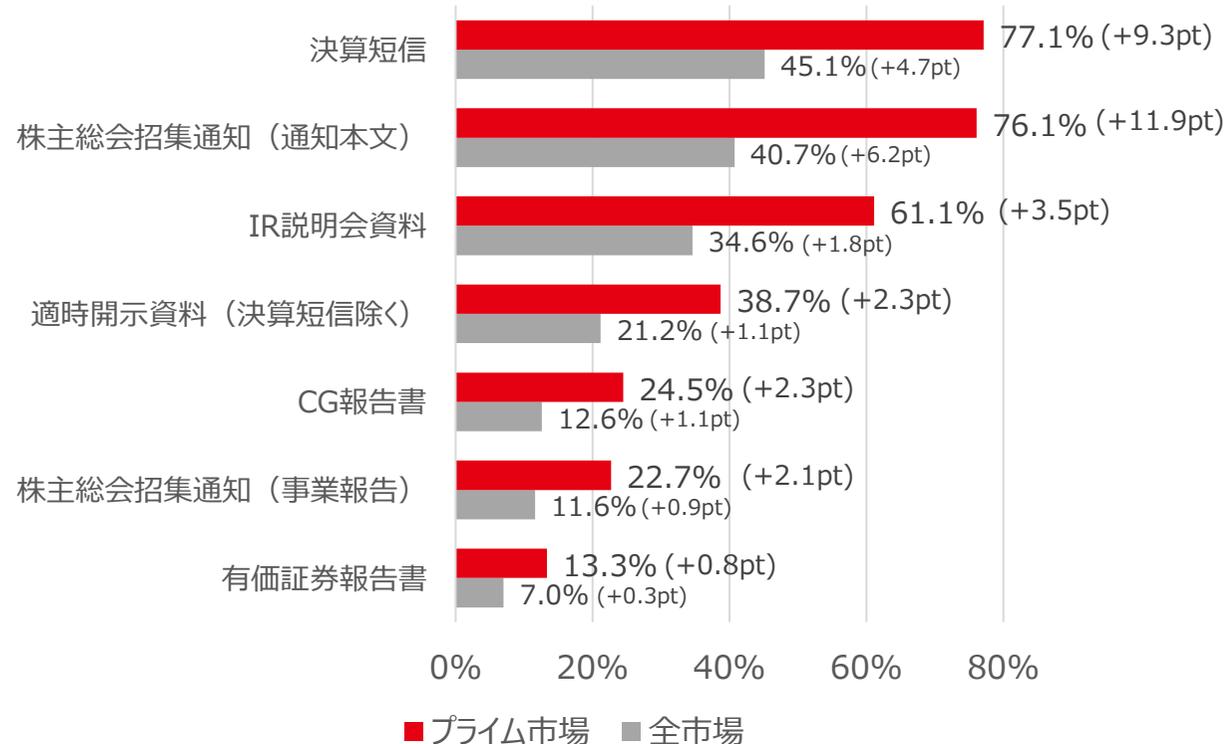
- 注： 1 調査の詳細は、当取引所ウェブサイト掲載の「英文開示実施状況調査集計レポート（2022年7月時点）」をご参照ください。
 <<https://www.jpx.co.jp/english/equities/listed-co/disclosure-gate/availability/>>
 2 調査に未回答の会社は英文開示を実施していないものとして分母に加算して英文開示実施率を算出。

- 英文開示を実施している上場会社の割合は全市場では56.0%（前年末比+3.2ポイント）、プライム市場では92.1%（同+6.3ポイント）となり、プライム市場上場会社を中心に新市場区分への移行を契機として上場会社の取組が進展
- コーポレートガバナンス・コード（補充原則3-1②後段）において、プライム市場上場会社は、開示書類のうち必要とされる情報について、英語での開示・提供を行うべきとされているところ、決算短信、株主総会招集通知（通知本文）及びIR説明会資料の実施率は、それぞれ77.1%（同+9.3ポイント）、76.1%（同+11.9ポイント）、61.1%（同+3.5ポイント）と上昇
- 適時開示（決算短信除く）、CG報告書、株主総会招集通知（事業報告）、有価証券報告書については、実施率の上昇は見られるものの、プライム市場上場会社においても引き続き半数未満に留まる

英文開示実施率の推移



資料別の英文開示実施率

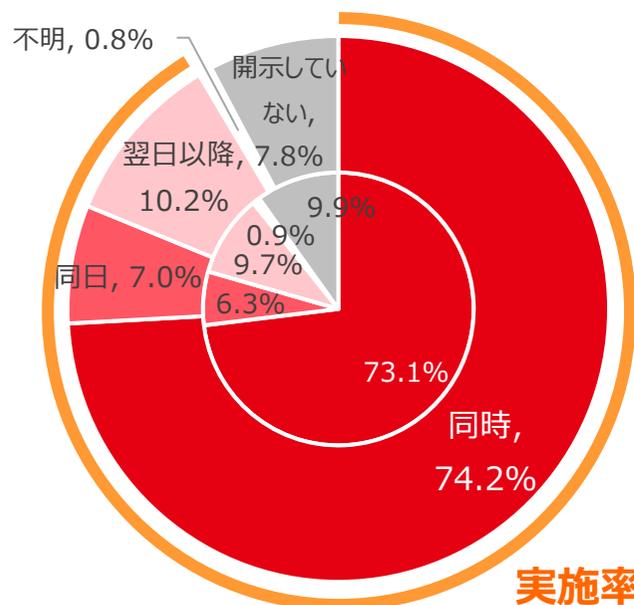


注：「英文開示を実施している上場会社」は、調査対象書類（決算短信、その他の適時開示資料、株主総会招集通知（通知本文）、株主総会招集通知（事業報告）、CG報告書、有価証券報告書、IR説明会資料、及びその他の英文開示資料）のいずれかの資料について英文開示を行っていると回答した会社。

英文開示実施状況（全市場・時価総額ベース）

- 時価総額ベースでは9割超が決算短信、株主総会招集通知の英文開示を実施
- 英文資料の和文資料との同時開示は、決算短信は74.2%（前年末比1.1ポイント増）、その他の適時開示資料は68.1%（同1.5ポイント増）、株主総会招集通知は63.2%（同1.6ポイント増）

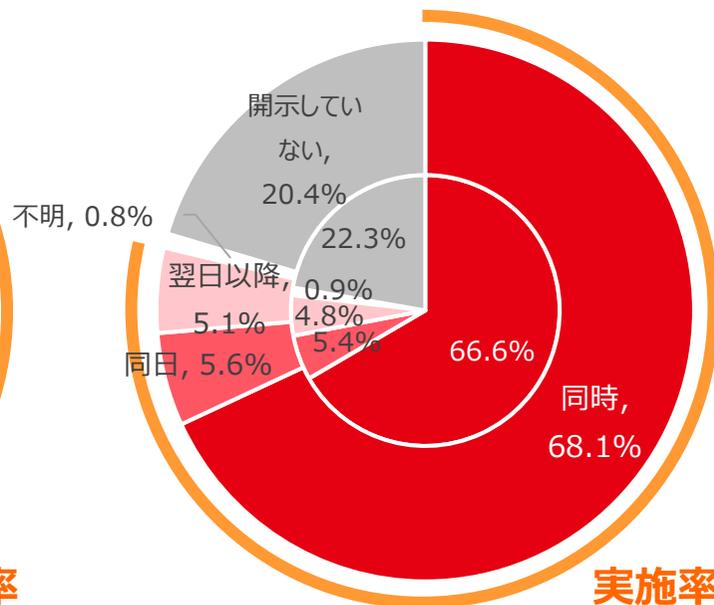
決算短信 （時価総額ベース）



実施率
91.4%

内側：2021年12月
外側：2022年7月

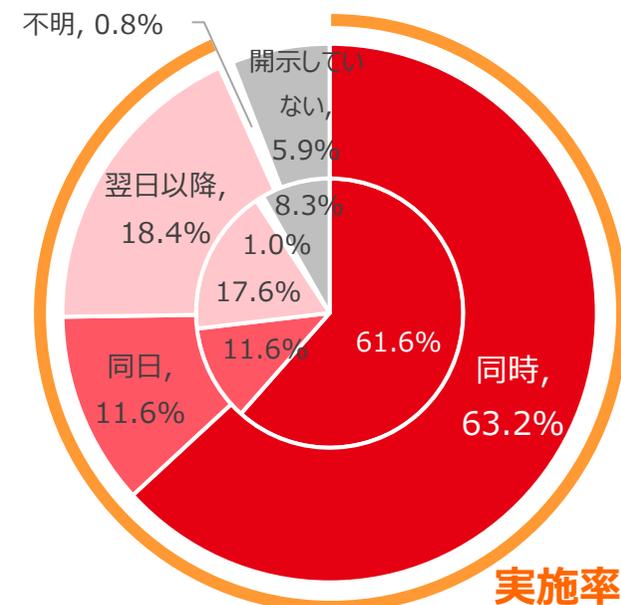
その他の適時開示資料 （時価総額ベース）



実施率
78.8%

内側：2021年12月
外側：2022年7月

株主総会招集通知 （時価総額ベース）



実施率
93.2%

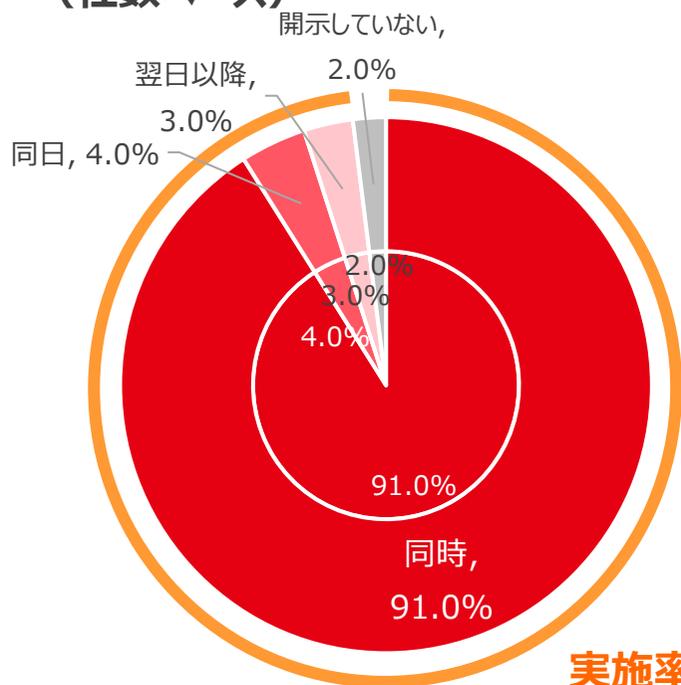
内側：2021年12月
外側：2022年7月

注： 1 時価総額は2022年6月30日時点及び2021年12月31日時点。
 2 「時価総額ベース」の英文開示実施率は、対象となる市場又は指数区分の上場会社の時価総額の合計に占める英文開示を実施していると回答した上場会社の時価総額の合計の割合。以降のスライドも同様。
 3 「未回答」及び「英文開示を実施している旨の回答があったが、開示タイミングの回答がなかった会社」の会社については「不明」として集計。

大型株の英文開示実施状況（TOPIX100・社数ベース）

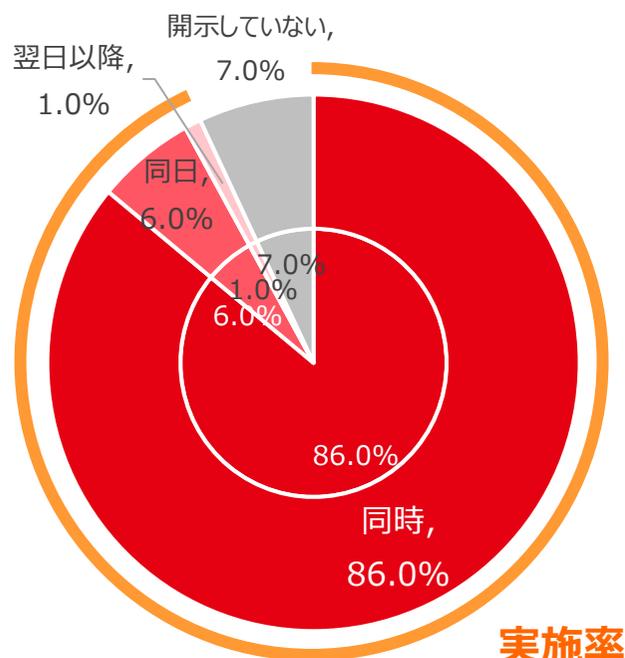
- 9割超の会社が決算短信、その他の適時開示資料、株主総会招集通知の英文開示を実施

決算短信 （社数ベース）



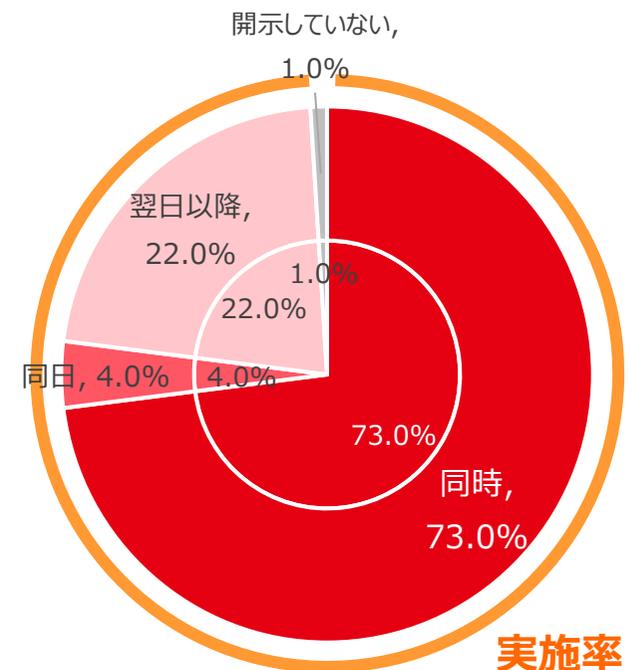
内側：2021年12月
外側：2022年7月

その他の適時開示資料 （社数ベース）



内側：2021年12月
外側：2022年7月

株主総会招集通知 （社数ベース）

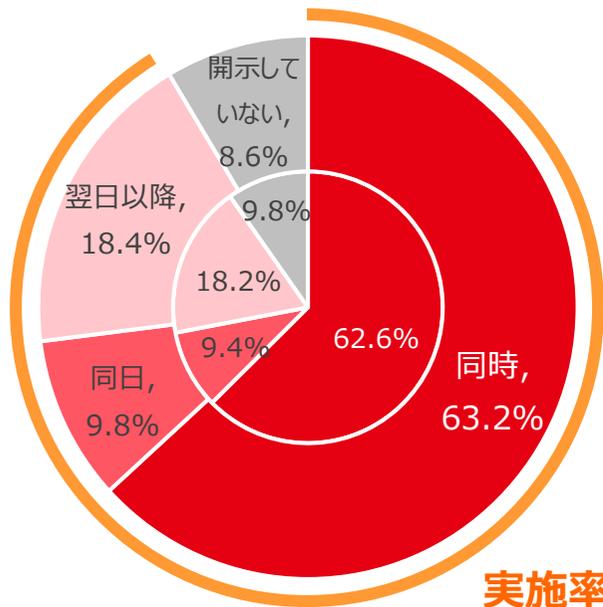


内側：2021年12月
外側：2022年7月

大型株・中型株の英文開示実施状況（TOPIX500・社数ベース）

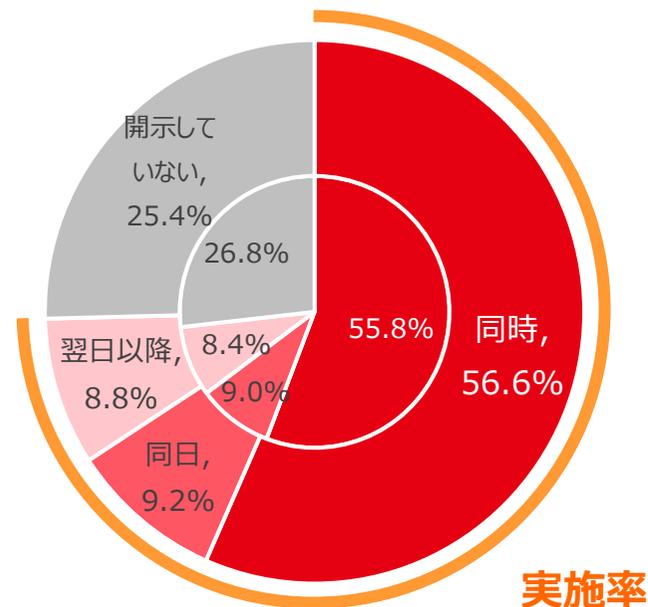
- TOPIX500の9割超の会社が、決算短信及び株主総会招集通知の英文開示を実施
- その他の適時開示資料の英文開示実施率は前年末比1.4ポイント増の74.6%
- 英文資料の和文資料との同時開示は、決算短信は63.2%（前年末比0.6ポイント増）、その他の適時開示資料は56.6%（同0.8ポイント増）、株主総会招集通知は64.8%（同2.2ポイント増）

決算短信
(社数ベース)



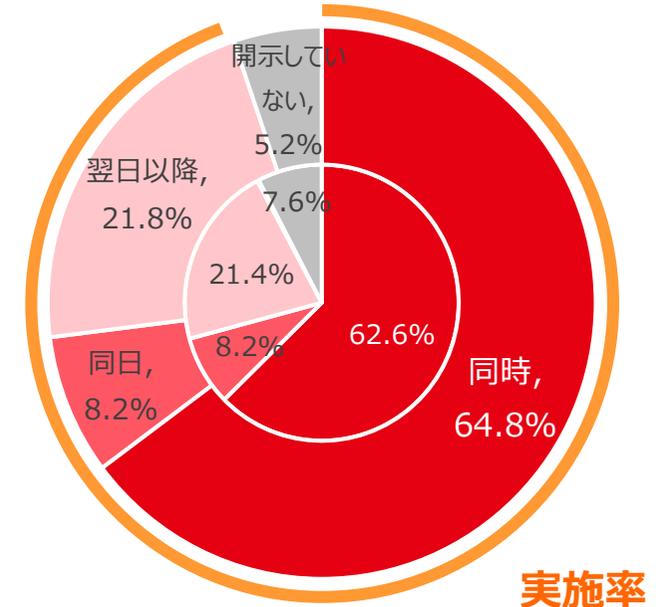
内側：2021年12月
外側：2022年7月

その他の適時開示資料
(社数ベース)



内側：2021年12月
外側：2022年7月

株主総会招集通知
(社数ベース)

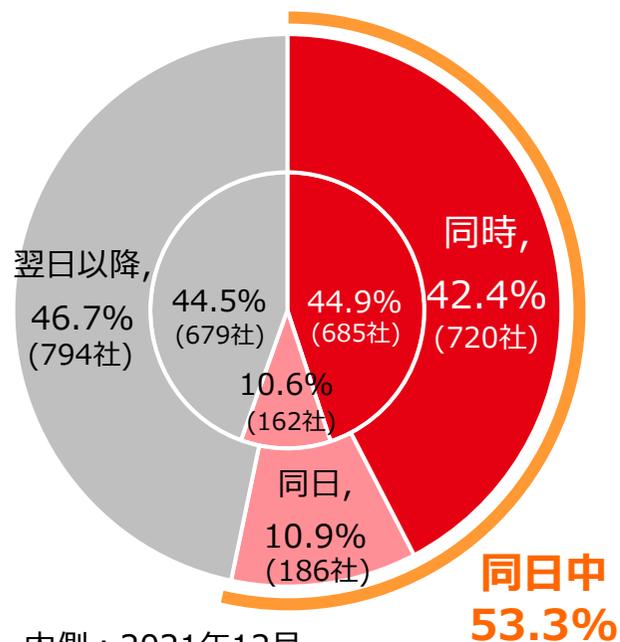


内側：2021年12月
外側：2022年7月

開示タイミング（全市場・社数ベース）

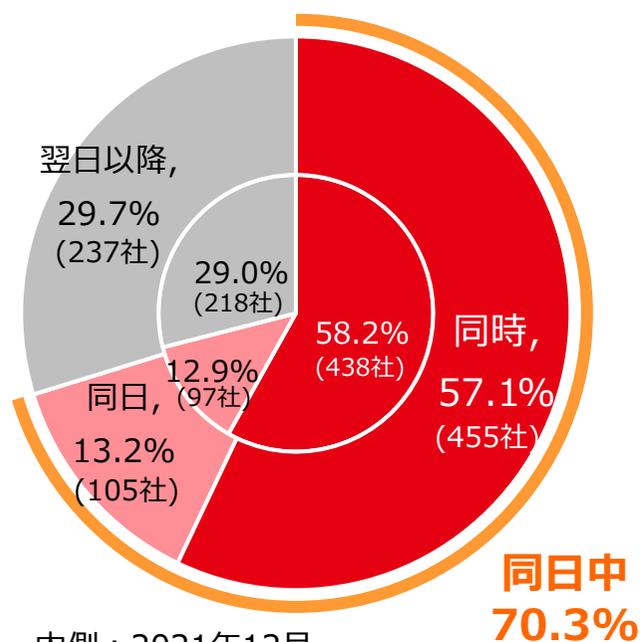
- 英文開示を行っている会社のうち、日本語資料の開示と同時または同日に英文開示を行う上場会社の割合は、決算短信は53.3%（59社増）、その他の適時開示資料は70.3%（25社増）、株主総会招集通知は69.2%（149社増）

決算短信の開示タイミング （社数ベース）



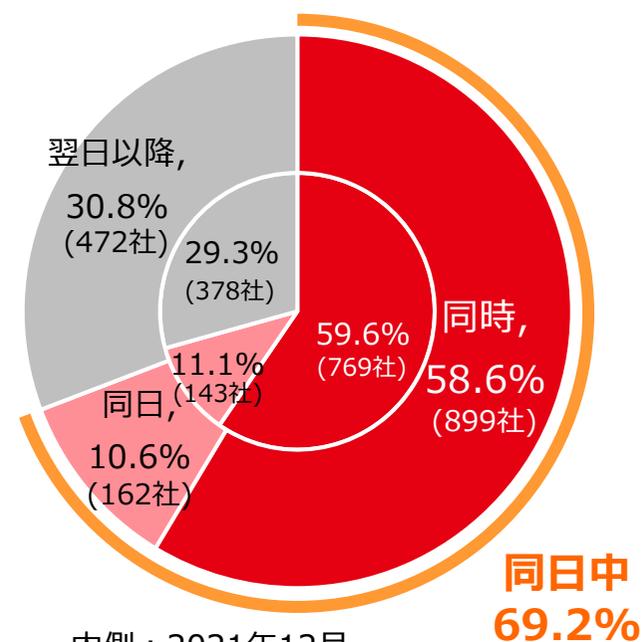
内側：2021年12月
外側：2022年7月

その他の適時開示資料の開示タイミング （社数ベース）



内側：2021年12月
外側：2022年7月

株主総会招集通知の開示タイミング （社数ベース）



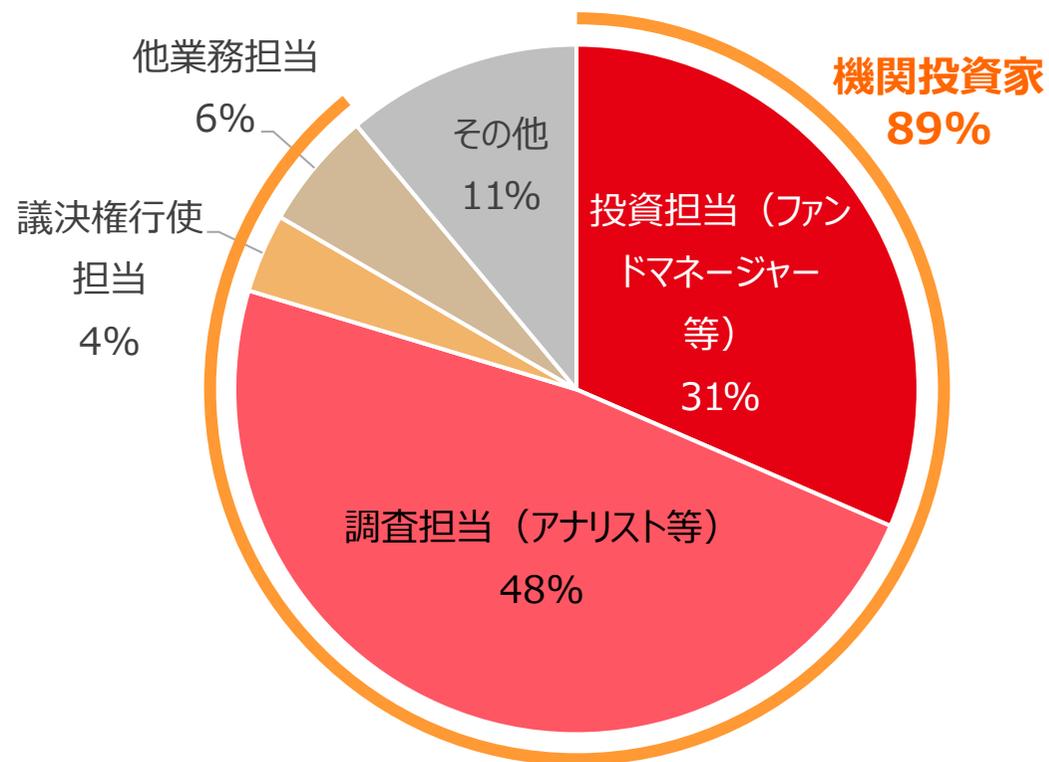
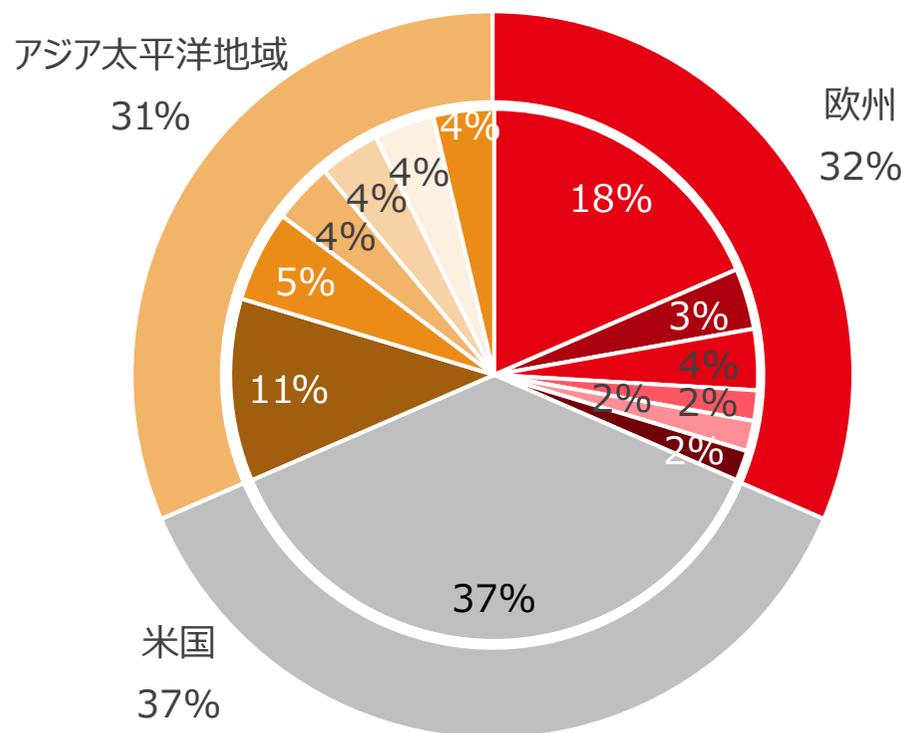
内側：2021年12月
外側：2022年7月

注：英文開示を実施していると回答した会社で、開示タイミングについて回答した会社を母数として割合を算出。

3. 海外投資家アンケート調査結果

英文開示に関する海外投資家アンケート調査（機関投資家属性）

- 2021年7月1日～ 2021年8月13日において、海外機関投資家を対象に英文開示に関するWebアンケートを実施
- 54件の回答を受領、回答者の地域は欧州、米国、アジア太平洋地域で約3分の1ずつ

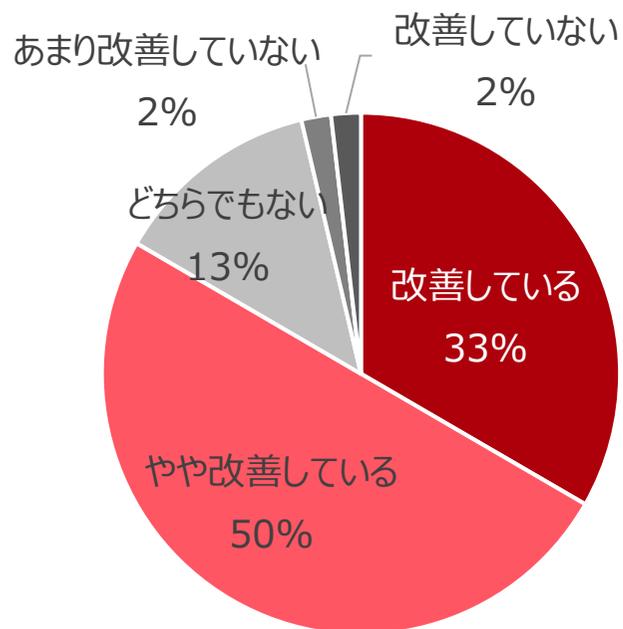


* 「他業務担当」は運用会社のスチュワードシップ・エンゲージメント担当、コンプライアンス担当及び商品担当
 「その他」は証券会社、独立系調査会社、投資銀行及び指数算出会社の調査担当

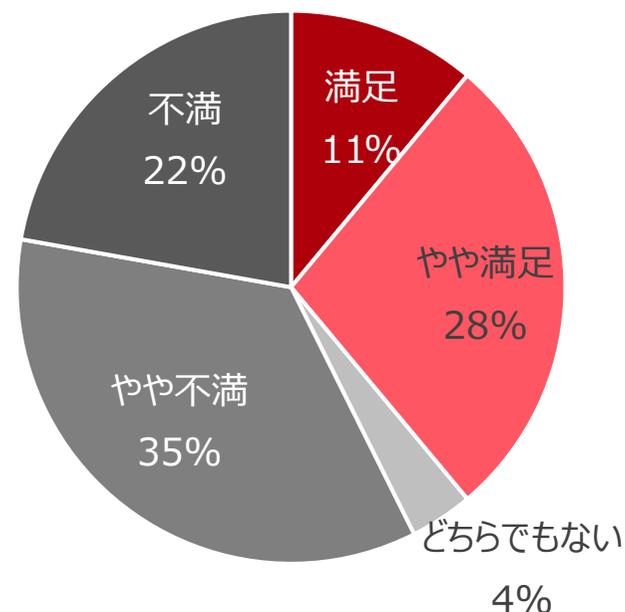
* 「日本」は外資系運用会社の日本拠点の方からの回答

- 日本の上場会社による英文開示の状況については、83%が「改善している」または「やや改善している」と回答し、多くの投資家が近年の取組の進展を肯定的に評価
- 57%（日本語スタッフがいない場合は64%）が、現状について「不満」または「やや不満」と回答しており、その理由として、日本語の開示資料と比べて情報量に差があることや、開示のタイミングが遅いことを挙げる意見が多く見られ、外国人投資家が不利な立場に置かれているとの指摘があった
- 大型株は全体としては改善してきているものの、大型株の一部や中小型株は未だ十分ではなく、国際的な水準から劣後しているとの評価があった

日本の上場会社の英文開示は近年改善していると思いますか。



日本の上場会社の英文開示に満足していますか。



（出所）東証「英文開示に関する海外投資家アンケート調査結果（2021年8月）」

<https://www.jpx.co.jp/equities/listed-co/disclosure-gate/survey-reports/index.html>

情報量及び開示タイミングの差

- 私の回答（不満）は、私たちが分析している**東証1部の上場会社において、英語での情報開示がまだ非常に少ない**という事実に基づくものである。
(米国拠点・ヘッジファンド・調査担当)
- 多くの会社が**英語の財務情報を遅れて開示しているか、全く開示していない**。
(米国拠点・運用会社・調査担当)
- 英語による情報開示の量は増加しているが、**まだ多くの会社が英語の資料を有しておらず**、また、英語の資料を有している会社の中には**英文資料の開示タイミングが大幅に遅れている会社もある**。
(米国拠点・運用会社・調査担当)
- 英語の資料も増えてきているが、**日本語の資料に比べて完全ではないか、いくつかの重要な資料が不足している**。英語の資料は**日本語の資料の数日後に公表される**。
(英国拠点・運用会社・調査担当)
- **大型株の会社でも、英文開示が非常に少ない会社がある**。多くの会社が**英語の資料を大幅に遅れて開示**している。
(英国拠点・運用会社・調査担当)

日本語と英語資料における内容の差異

- **英語での開示が日本語での開示とは異なる印象を与える**、意味のある表現の差異があることもある。
(英国拠点・運用会社・投資担当)

日本株の投資環境の変化

- “日本株は年金や保険などのアセットオーナーからの十分な関心を集めることができず、**日本株ファンドが閉鎖**されている。結果、**日本株はグローバルファンドに組み入れられることとなるが、グローバルファンドは日本株に投資しなければいけないルールもないため、英文開示をしていない場合、投資対象から外されてしまう**。日本企業はこのトレンドを理解し、積極的に英語で情報発信することが求められる。”
(英国拠点・運用会社・投資担当)

バリュエーション・ウェイトへの影響

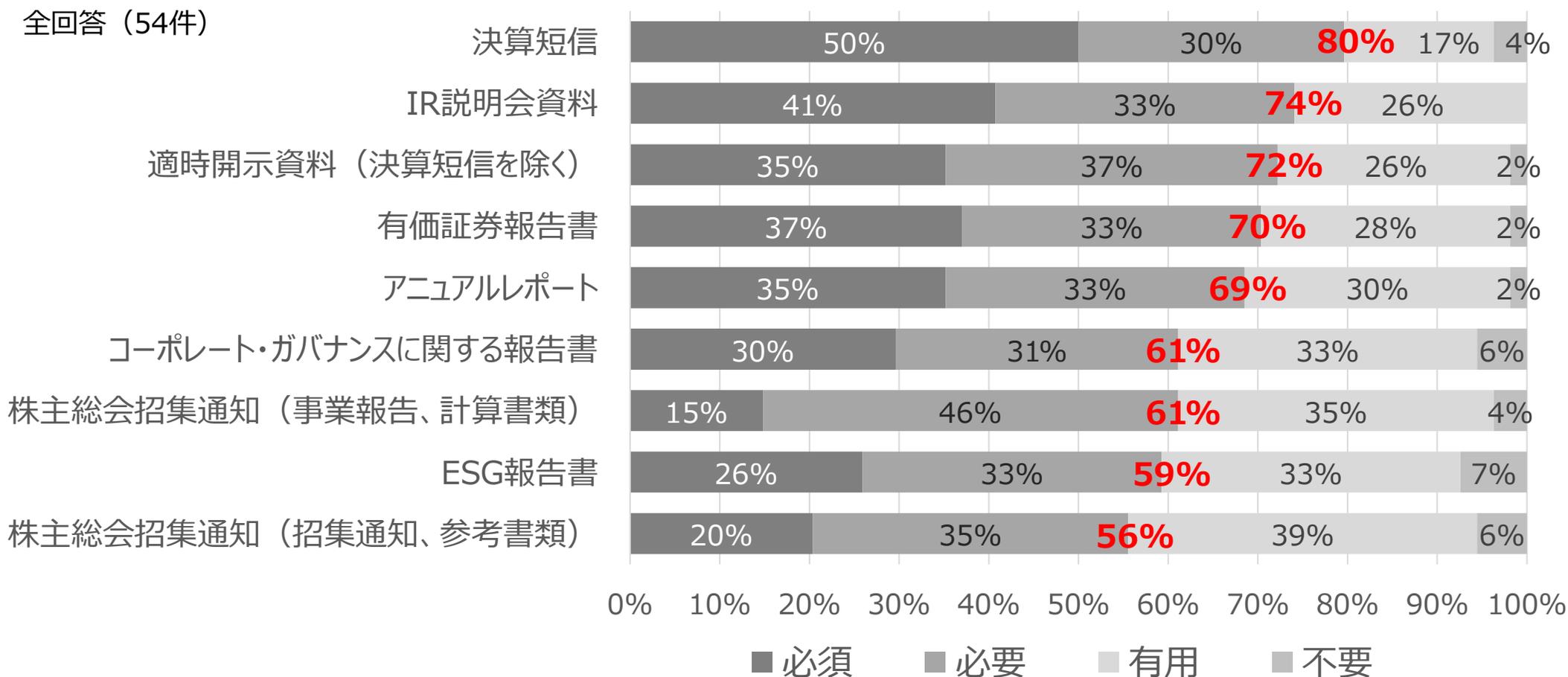
- 多くの投資家は、**英語の情報にアクセスできない場合、日本株をディスカウントしている**と考えている。また、鍵となる資料が日本語でしか取得できない場合、**IRミーティングの準備も非効率的**である。
(英国拠点・運用会社・投資担当)
- “開示が不十分であることから、**日本企業に他国の企業よりも高い資本コストを設定**している。”
(米国拠点・運用会社・調査担当)

議決権行使への影響

- “株主総会招集通知が英文開示されていない場合、ただ議決権行使助言会社の推奨に従うのではなく独自の立場で議決権行使することは非常に困難である。株主総会シーズンには多くの情報が公表されるため、議決権行使助言会社も不正確な情報に基づいて議決権行使推奨を行っている場合がある。投資家も総会シーズンは忙しく、**議決権行使助言会社の推奨に疑問を抱いたとしても、会社に確認する義務もないことから、議決権行使助言会社の推奨に従って議決権行使を行う可能性がある**。”
(英国拠点・運用会社・投資担当)

英文開示を必要とする資料（全体）

- 調査対象としたすべての資料について、英文開示を必要とする回答（「必須」又は「必要」）が過半を占めた



注：必須：英文開示がない場合は投資しない、必要：英文開示を必要としている、有用：英文開示があれば利用する、不要：英文開示があっても利用しない

補充原則

概要

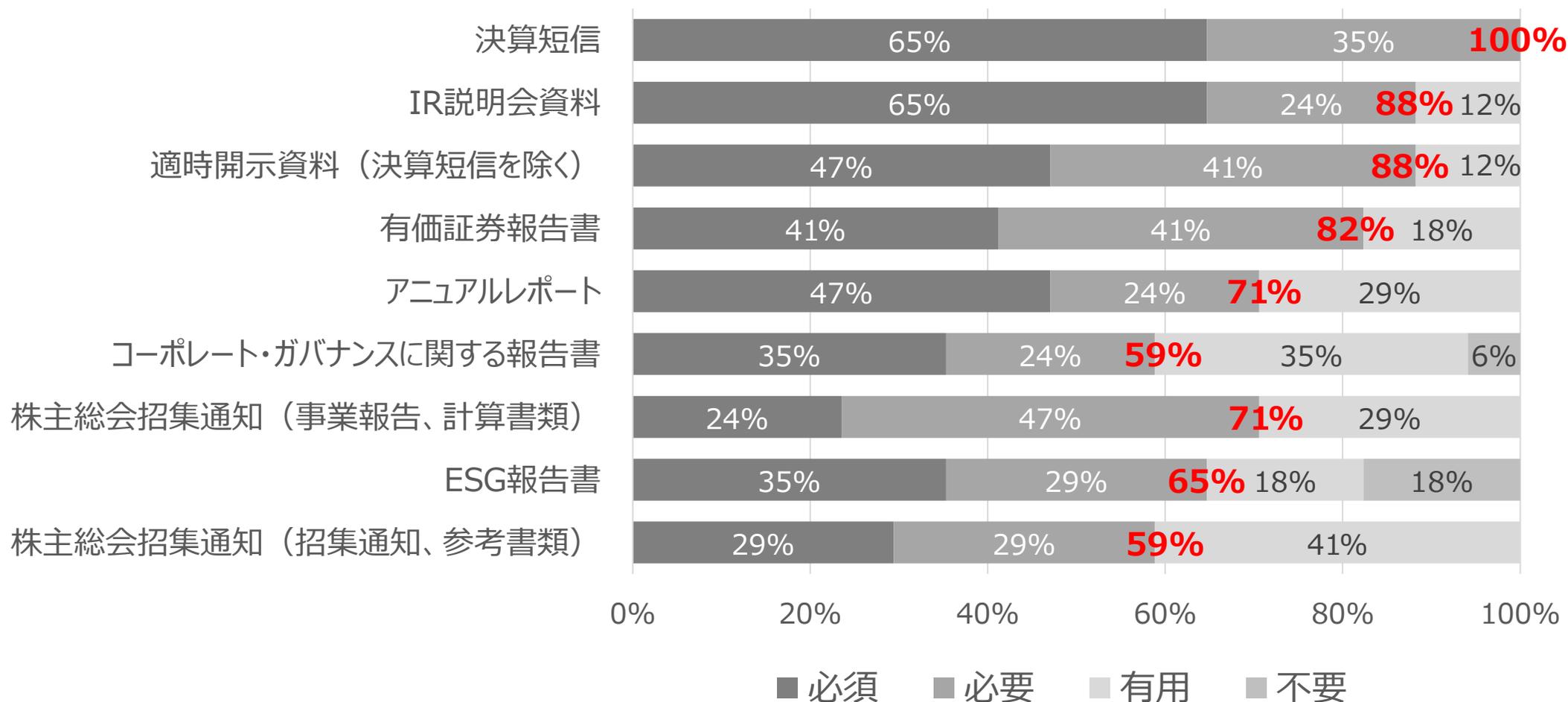
補充原則
3-1②

- 上場会社は、自社の株主における海外投資家等の比率も踏まえ、合理的な範囲において、英語での情報の開示・提供を進めるべきである。
- 特に、プライム市場上場会社は、開示書類のうち必要とされる情報について、英語での開示・提供を行うべきである。

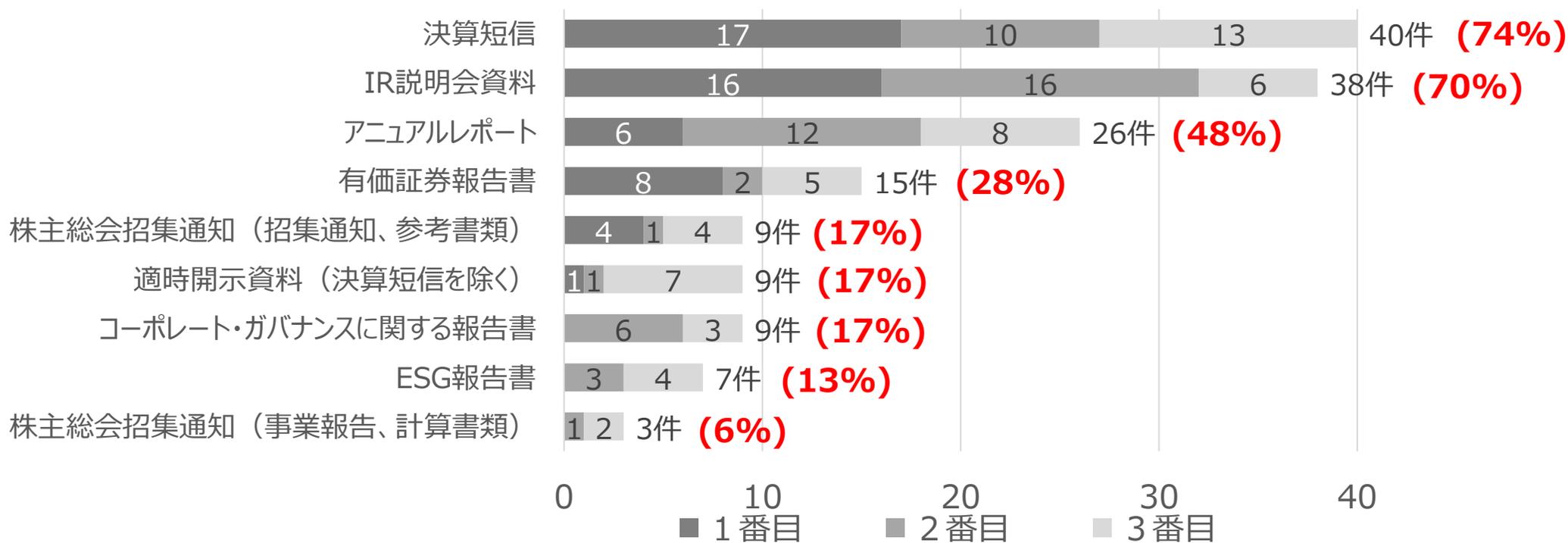
英文開示を必要とする資料（ファンドマネージャー）

- 機関投資家の投資担当は、調査担当と比較して英文開示を必要とする割合が全般に高く、リアルタイムでの投資判断に用いられる決算短信（100%）、IR説明会資料（88%）、適時開示資料（88%）の割合が特に高い

機関投資家・投資担当（ファンドマネージャー等）（17件）



- 決算短信、IR説明会資料を優先的に取り組むべき資料の上位に挙げる回答が特に多く、まずはこれらの資料から着手すべきとする意見が寄せられた
- 決算短信やIR説明会資料、適時開示資料については、業績や事業の状況、戦略等をタイムリーに把握して投資判断を行うために、有価証券報告書やアニュアルレポートについては、財務情報の分析や評価のために必要との意見が多く見られた
- また、IR説明会資料や有価証券報告書、アニュアルレポートについて、機械翻訳が困難である（ため英文開示が必要）との指摘もあった
- 株主総会招集通知については、十分な情報に基づいて議決権行使を行うことが重要であるとの意見や、英文が提供されない場合、議決権行使助言会社の推奨と異なる立場を取ることが困難との意見が寄せられた
- コーポレート・ガバナンスに関する報告書やESG報告書に関して、ESG情報の重要性が高まっているとの指摘も見られた



4. CGコード補充原則3 – 1 ②の実施状況と 英文開示実施状況

英文開示に関するコーポレートガバナンス・コード（補充原則3-1②）

- 2021年6月に実施したコーポレートガバナンス・コードの改訂により、「特に、プライム市場上場会社は、開示書類のうち必要とされる情報について、英語での開示・提供を行うべきである」（補充原則3-1②後段）が新設
- 2022年7月14日までに上場会社から提出されたCG報告書において、プライム市場に上場している会社のうち90.9%が本補充原則をコンプライとしている

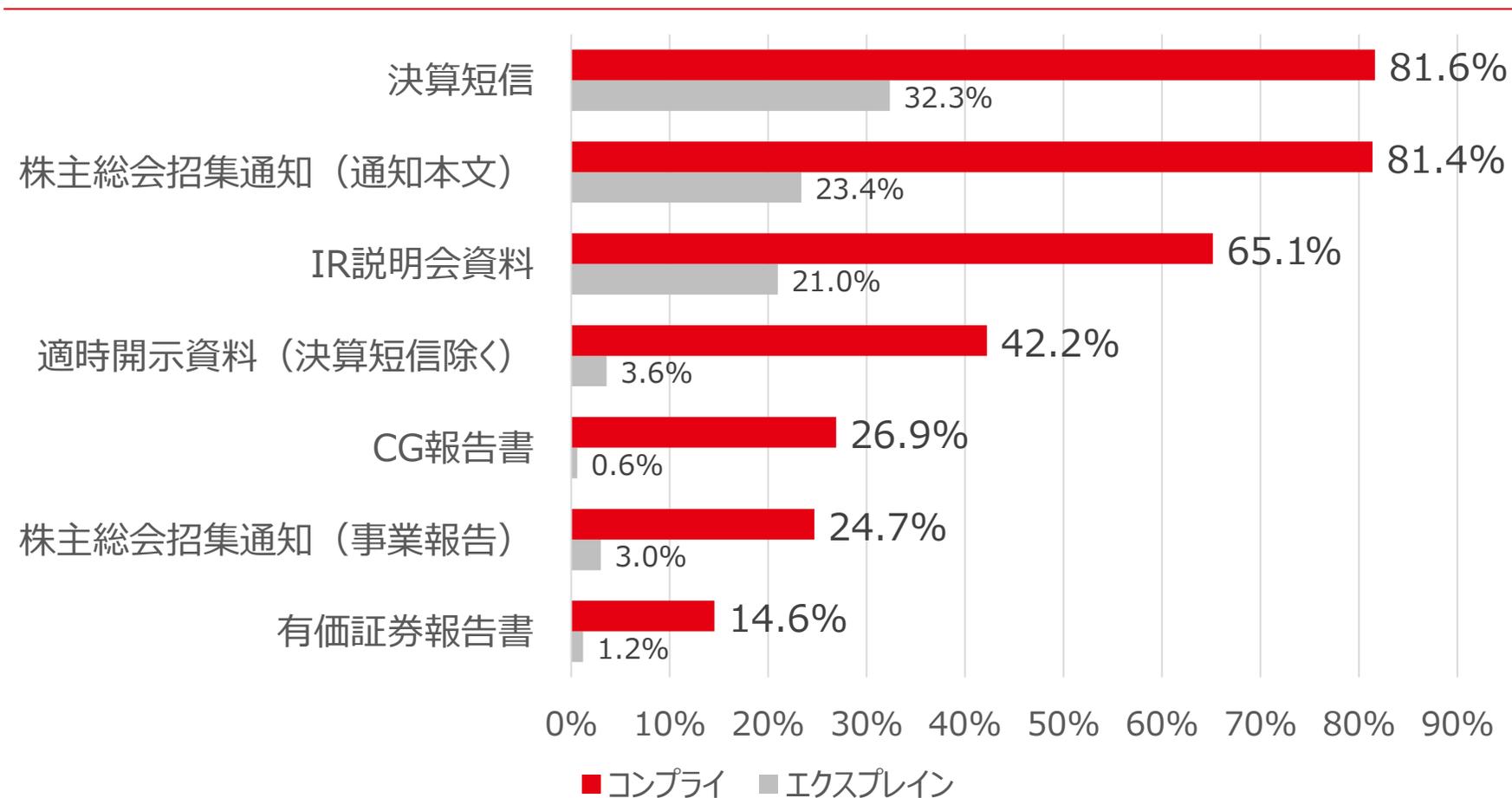
補充原則	概要	コンプライ率 (プライム市場)
補充原則 3-1②	<ul style="list-style-type: none">● 上場会社は、自社の株主における海外投資家等の比率も踏まえ、合理的な範囲において、英語での情報の開示・提供を進めるべきである。● <u>特に、プライム市場上場会社は、開示書類のうち必要とされる情報について、英語での開示・提供を行うべきである。</u>	90.9% (注)

注： 1 コードは「コンプライ・オア・エクスプレイン」の手法を採用しており、各社の個別事情に照らして実施することが適切ではないと考える原則があれば、それを「実施しない理由」を十分に説明（エクスプレイン）することにより、一部の原則を実施しないことを想定。
2 2022年7月14日時点のプライム市場上場会社1,837社が対象。

補充原則 3 – 1 ②の実施状況と英文開示実施状況①

- 補充原則 3 – 1 ②をコンプライトしているプライム市場上場会社のうち80%超が決算短信及び株主総会招集通知（通知本文）を開示
- 一方、決算短信を除く適時開示資料、CG報告書、株主総会招集通知（事業報告）、有価証券報告書の英文開示実施率は半数未滿

書類別の英文開示実施率（プライム市場）

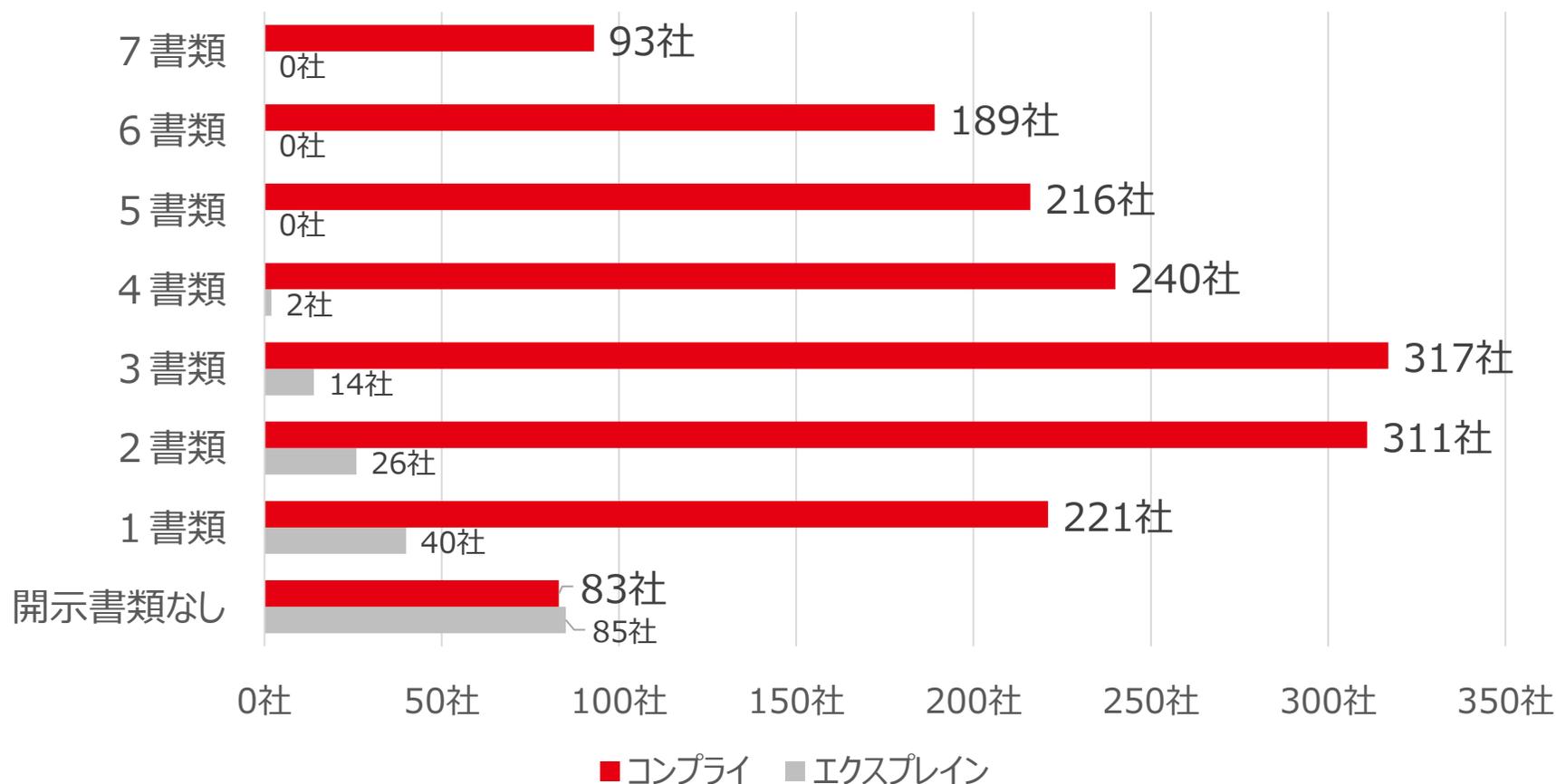


注： コンプライについてはコンプライと開示した1,670社を分母として、エクスプレインについてはエクスプレインと開示した167社を分母として算出。

補充原則 3 – 1 ②の実施状況と英文開示実施状況②

- 3～4書類英文開示しているもののエクスプレインとしている会社がある一方で、英文開示を行っていないにも関わらず、コンプライとしていない会社も83社存在（英文開示実施状況調査未更新会社等が含まれると想定される）

調査対象書類の英文開示資料数別社数（プライム市場）



注：コンプライについてはコンプライと開示した1,670社を分母として、エクスプレインについてはエクスプレインと開示した167社を分母として算出。
調査対象書類は前頁の7書類。

5. 英文開示に関する東証の取組

英文開示に関する東証の主な取組

#	年月	取組	詳細
1	2011年7月	東証英文資料配信サービス提供開始	英文による会社情報をT D n e tを通じて幅広く周知できるサービス「東証英文資料配信サービス」を提供開始（タイムリーに情報ベンダーの端末にも配信）
2	2011年10月	Company Announcements Service提供開始	「東証英文資料配信サービス」を通じて公表した英文開示資料を掲載するサービス「Company Announcements Service」を提供開始
3	2012年12月	英文サマリー自動作成機能提供開始	決算短信・四半期決算短信のサマリー情報について、XBRL データから自動的に勘定科目等を英訳し、英文のサマリー情報を作成する機能をTDnet オンライン登録サイトで提供開始
4	2015年6月	CGコード適用開始	補充原則1 - 2④（株主総会招集通知の英訳）及び補充原則3 - 1②（英語での情報の開示・提供）が本則市場（市場第一部及び第二部）の上場会社に適用開始
5	2020年1月	英文開示実施状況一覧公表開始	上場会社各社からの回答に基づき、決算情報、コーポレートアクション情報、株主総会招集通知などの英文による開示状況を取りまとめた一覧を公表（以降、月次で更新）
6	2021年3月	JPX English Disclosure GATE開設	英文開示に関連する情報を集約した英文開示ポータルサイトを開設し、英文開示様式例や日英対訳集等を掲載
7	2021年6月	CGコードの改訂	補充原則3 - 1②後段に「特に、プライム市場上場会社は、開示書類のうち必要とされる情報について、英語での開示・提供を行うべきである」を新設
8	2021年8月	海外投資家アンケート調査結果公表	英文開示に関する海外投資家アンケート調査を実施し、結果をレポートとして公表
9	2022年1月	株主総会招集通知経団連ひな形の英文記載例の公表	経団連が公表する「会社法施行規則及び会社計算規則による株式会社の各種書類のひな型」（改訂版）に含まれる「記載例」の英訳を公表
10	2022年4月	CGコードの改訂（プライム市場上場会社向け原則）適用開始	改訂補充原則3 - 1②がプライム市場上場会社に適用開始
11	2022年5月	上場会社英文開示インタビュー記事の公表	海外投資家アンケートにおいて、英文開示に積極的に取り組まれていると評価された上場会社に対し、英文開示に関する取組についてのインタビューを実施し、記事を公表
12	2022年9月	英文開示実践ハンドブックの公表	上場会社が英文開示を実施する際のノウハウや留意事項をまとめることを目的として、実務の専門家や研究者が分担して執筆し、東証で取りまとめて作成・公表

- 英文開示に関連する情報を集約した英文開示ポータルサイト「JPX English Disclosure GATE」を2021年3月に開設



「英文開示」で検索ください。

<https://www.jpx.co.jp/equities/listed-co/disclosure-gate/index.html>



海外投資家向け

① Company Announcements Service概要

- ・ 上場会社がTDnetを通じて公表した英文開示資料をリアルタイムで閲覧可能なサービス

② 【英語版】東証上場会社情報サービス

- ・ 上場会社各社の基本情報（英語）や開示資料等を掲載

③ 【英語版】コーポレート・ガバナンス情報サービス

- ・ 英語版のコーポレート・ガバナンス情報の閲覧・検索サービス

④ 英文開示実施状況一覧

- ・ 上場会社各社の英文開示の実施状況を掲載

⑤ 【英語版】東証IRムービー・スクエア

- ・ 会社紹介や代表者メッセージ等の投資者向けの英語の動画を掲載

⑥ イベントトランスクリプト提供サービス

- ・ 決算説明会等のイベントの書き起こし記事提供サービス

上場会社向け

⑦ 東証英文資料配信サービスの利用案内

- ・ 上場会社向けの英文資料配信サービスの利用案内を掲載

⑧ 英文開示様式例

- ・ 適時開示資料の英文開示様式例や招集通知の英文記載例等を掲載

⑨ 日英対訳表

- ・ 日英用語集及び関連サイトへのリンクを掲載

⑩ 英文開示実践ハンドブック（2022年9月22日公表）

- ・ 英文開示に関する留意事項やノウハウをまとめたハンドブック

⑪ 上場会社英文開示インタビュー（2022年5月18日公表）

- ・ 英文開示に関する取組のインタビューを掲載

⑫ 海外IR・翻訳支援会社

- ・ 海外IR、翻訳支援会社の案内を掲載

⑬ 調査レポート

- ・ 「英文開示実施状況調査集計レポート」及び「海外投資家アンケート調査結果」を掲載

- 開示情報の分類の日英対比表のほか、EDINET及びTDnetのXBRLデータの仕様として提供されている勘定科目や開示書類の報告項目の日英表記が収録されたファイルや日本法令外国語訳データベースシステムへのリンクを掲載

● TDnetで配信している開示情報の分類（TDnet公開項目）の日英対比表を掲載しております。

● 金融庁が運営するEDINETの操作ガイドにおいて、「勘定科目リスト」、「タクソミ要素リスト」及び「国際会計基準タクソミ要素リスト」のファイルが提供されております。
 ● 当該ファイルでは、XBRLの要素の定義情報の1つとして、EDINETでXBRLデータの提出が求められている法定開示書類の報告項目及び勘定科目等の日英表記が収録されております。
 ● 「操作ガイド（EDINET）」のリンクをクリックし、「2022年版EDINETタクソミ対応（令和3年11月9日公表）」の категория 内の「勘定科目リスト」、「タクソミ要素リスト」及び「国際会計基準タクソミ要素リスト」のリンクをクリックすると、各ファイルをダウンロードいただけます。

● リンク先の「適時開示情報のXBRL化 XBRLデータの仕様」のページに、決算短信等及びコーポレート・ガバナンスに関する報告書の項目リストを掲載しております。

● 法務省が開設する日本法令の外国語訳データベースのリンク

● 決算短信等の項目リストのZipファイルには、事業会社及びREITの項目リストを収録しております。
 ● 事業会社の項目リストには、決算短信、四半期決算短信、配当予想の修正及び業績予想の修正の開示項目及び勘定科目の日英表記がシート別に収録されております。

● コーポレート・ガバナンスに関する報告書の項目リストには、「監査役設置会社」、「指名委員会等設置会社」及び「監査等委員会設置会社」のシート別に記載事項の日英表記が収録されております。

The screenshot shows the EDINET website interface. The top section is titled '日英対訳集' (Japanese-English Translation Collection). Below it, there's a section for '開示情報の分類' (Classification of Disclosure Information) with a table listing various categories like '勘定科目リスト' (Accounting Item List), 'タクソミ要素リスト' (Taxonomy Element List), and '法定開示書類の報告項目及び勘定科目' (Reporting Items and Accounting Items of Statutory Disclosure Documents). A second section is titled '適時開示情報のXBRL化' (XBRLization of Timely Disclosure Information). It includes a navigation menu with 'XBRLデータの仕様' (XBRL Data Specifications) highlighted. The main content area discusses the availability of XBRL data for consolidated financial statements and provides links to download templates and reports. A table at the bottom lists various documents available for download, such as '決算短信等及びCG報告書XBRL仕様' (XBRL Specifications for Consolidated Financial Statements and CG Reports) and 'コーポレート・ガバナンス報告書のXBRLタクソミ' (XBRL Taxonomy for Corporate Governance Reports).

- 英文開示に積極的に取り組まれていると海外投資家から評価された上場会社に対し、英文開示に関する取組（英文開示開始・拡充の経緯や、英文開示を行う上での工夫、海外投資家の反応など）についてのインタビューを掲載

2022/05/18 更新 このページを音声で聴く 印刷

上場会社英文開示インタビュー

海外投資家アンケートにおいて、英文開示に積極的に取り組まれていると海外投資家から評価された上場会社に対し、英文開示に関する取組（英文開示開始・拡充の経緯や、英文開示を行う上での工夫、海外投資家の反応など）についてのインタビューを行いました。英文開示の開始・拡充に向けて検討される際のご参考として是非ご覧ください。

※ 海外投資家アンケートのご回答については、こちらをご覧ください。

● 調査レポート（海外投資家アンケート調査結果）

インタビュー一覧

オイシックス・ラ・大地株式会社
コード：3182 業種：小売業



英文開示を強化し、海外投資家と信頼しあえる関係構築を目指す
梅村 翔也

株式会社丸井グループ
コード：8252 業種：小売業



グローバル視点でESG情報の開示に取り組み、海外投資家との対話を拡充
桑江 真莉子・沓掛 奈保子・村上 奈歩

栗田工業株式会社
コード：6370 業種：機械業



非財務情報の英文開示充実を図り、ESGの観点でも海外から評価
新井 孝輔・佐々木 久美子・山崎 しづ子

株式会社アバント
コード：3836 業種：情報通信業



経営情報の英文開示でアクティブ投資家を呼び込む
西村 賢治

株式会社カオナビ
コード：4435 業種：情報通信業



上場時から海外投資家に目を向け、英文開示を推進
橋本 公隆

- 上場会社における英文開示に係るリスクや事務負担を軽減する観点から、英文開示を実施する際のノウハウや留意事項をまとめることを目的として、実務の専門家や研究者が分担して執筆し、東証で取りまとめて作成・公表



第1章 英文開示実施に向けた 計画の立案 (プロネクサス)

- 1-1 英文開示の必要性
- 1-2 英文開示の目的明確化と方針の設定
- 1-3 英文開示を行う対象書類と翻訳範囲の選定
- 1-4 英文開示のタイミング
- 1-5 英文開示を進めるための体制・人材・技術・ナレッジの整備
- 1-6 免責文言の活用

第2章 英文資料作成のポイント1 (翻訳を外注する場合) (宝印刷)

- 2-1 全体の流れ
- 2-2 契約締結時のポイント
- 2-3 翻訳依頼時のポイント
- 2-4 機密情報を含む原稿の翻訳依頼
- 2-5 納品物の確認ポイント

第3章 英文資料作成のポイント2 (機械翻訳を利用する場合) (国立研究開発法人情報通信研究 機構 隅田氏)

- 3-1 機械翻訳とは
- 3-2 機械翻訳の最新知識
- 3-3 機械翻訳導入時の留意点
- 3-4 機械翻訳を上手く利用するコツ

上記の他、米国証券法に関するコラムを掲載しております。

ご清聴ありがとうございました

ご不明点がございましたら、
ご遠慮なく当取引所までお問合せください
03-3666-0141

英文開示実践ハンドブック
第1章 英文開示実施に向けた計画の立案
～使い方ガイド～

株式会社プロネクサス
グループ戦略部 児玉 高直

自己紹介

氏名: 見玉 高直 (こだま たかなお)

所属: 株式会社プロネクサス ディスクロージャー事業部 グループ戦略部 担当部長

略歴: 2015年にコーポレートガバナンス・コードが公表された時期より、プロネクサスの英文サービス設計や市場調査業務等に従事してきました。300社を超える上場企業に英文開示に関する情報提供や提案を実施するとともに、多くの担当部門・担当者の方の実務上の課題など、ヒアリングしてきた内容もふまえて、今回のハンドブックを執筆しています。

第1章 英文開示実施に向けた計画の立案 ～全体の構成～

第1章 目次

第1章 英文開示実施に向けた計画の立案	2
1-1 英文開示の必要性	2
1-2 英文開示の目的明確化と方針の設定	2
1-3 英文開示を行う対象書類と翻訳範囲の選定	5
1-4 英文開示のタイミング	6
1-5 英文開示を進めるための体制・人材・技術・ナレッジの整備	7
1-6 免責文言の活用	9

①現状把握と方向性を検討する

②具体的な目標を設定する

③リソースを確保する

④リスクを制御する

①現状把握と方向性を検討する ～現状を把握する情報源～

英文開示実践ハンドブック P.2

第1章 英文開示実施に向けた計画の立案

1-1 英文開示の必要性

我が国の証券市場において、海外投資家は、株式総売買金額の約6割¹、株式保有比率の3割²を占める重要な投資主体であり、上場会社が海外投資家にアクセスするためには、英語での情報開示は欠かせないといえます。特に、2022年4月にスタートした東京証券取引所のプライム市場は、グローバルな投資家との建設的な対話を中心に据えた企業向け市場であり、プライム市場上場会社は、積極的に英文開示を行うことが期待されています³。

1-2 英文開示の目的明確化と方針の設定

上場会社が英文開示を進める際、予算・人材・日程確保など、さまざまな制約条件に直面します。日本語で開示している全ての書類を、適切なタイミングで、円滑に英文開示をしていくためには、英文開示の目的を明確化し、その実現に向けた方針を立てることが重要です。まずは、現状を把握するために、海外投資家の情報ニーズ、コーポレートガバナンス・コード（以下「CGコード」といいます）、上場会社の英文開示状況を確認します。

英文開示の目的と海外投資家の情報ニーズ

本章の冒頭に記載したとおり、我が国の証券市場で大きな存在感を持つ海外投資家に向けて、投資判断に必要な情報を、日本語だけでなく英語でも提供し、海外投資家に対する公平な情報提供を実現することにより、さまざまな効果が期待されます。

具体的には、

- 海外投資家からの投資獲得

●バリュエーションの向上（英文開示が不足することによるディスカウントの回避）
●英文開示が不足することによるアンダーウェイトの回避
といったことにより、実態に即した企業価値評価につながると思われるとともに、
●海外投資家との対話の促進により、上場会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上にもつながると考えられます⁴。

海外投資家の情報ニーズは、東証が実施したアンケート調査⁵（図表1）から推察することができます。英文開示が「必須（Essential）」又は「必要（Necessary）」という回答が多い書類は、決算短信、IR説明会資料となっており、適時開示資料、有価証券報告書もほぼ同程度に高くなっています。

「必須」という回答が多い書類は、「英文開示されていない場合は投資しない」という回答であるため、最優先で取り組むべき書類と考えられます。

1 投資部門別株式年間売買状況（2021年）
<https://www.jpix.co.jp/markets/statistics-equities/investor-type/00-02.html>
2 2021年度株式分布状況調査の調査結果 <https://www.jpix.co.jp/markets/statistics-equities/examination/01.html>
3 2022年4月から適用が開始されたコーポレートガバナンス・コード補充原則3-1②においては、「上場会社は、自社の株主における海外投資家等の比率も勘まえ、合理的な範囲において、英語での情報の開示・提供を進めるべきである。特に、プライム市場上場会社は、開示書類のうち必要とされる情報について、英語での開示・提供を行うべきである」とされています。
4 「英文開示に関する海外投資家アンケート調査結果」2021年8月「英文開示をしていない企業は、投資対象としての魅力はなくなり、そのためアンダー（リ）バリューや日本への投資割合減少につながる可能性がある」と開示が不十分であることから、日本企業に他国の企業よりも高い資本コストを決定している、議決権行使助言会社の推薦に疑問を抱いたとしても、（英文開示が不足していると判断できず）議決権行使助言会社の推薦に基づき議決権行使を行う可能性がある。といったコメントがみられます。<https://www.jpix.co.jp/equities/listed-co/disclosure-gate/survey-reports/index.html>
5 「英文開示に関する海外投資家アンケート調査結果」2021年8月
<https://www.jpix.co.jp/equities/listed-co/disclosure-gate/survey-reports/index.html>

公開情報

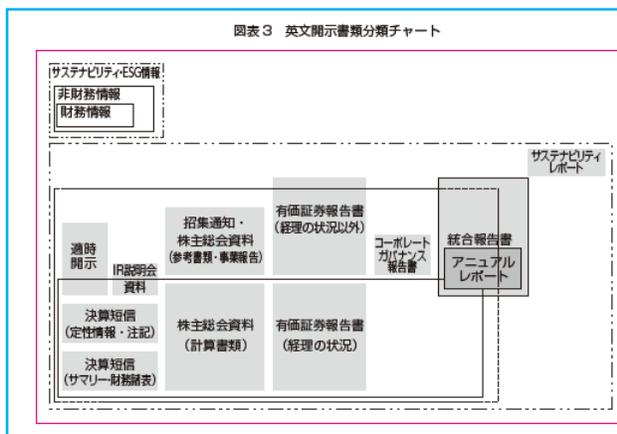
・英文開示に関する情報ソースを脚注で紹介しています。定期的に内容を確認することで、英文開示の現状把握や、方針検討の基本情報として活用できます。

IR活動を通じたヒアリング

・自社を説明する情報を英文開示書類としてそろえながら、海外投資家とのコミュニケーションを通じて、必要とされる情報や提供手段を、具体的に把握することも重要です。

つづき①現状把握と方向性を検討する ～英文開示書類分類チャート～

英文開示実践ハンドブック P.5



性が重視される書類と考えられます。招集通知や株主総会資料は株主総会における議決権行使に利用されるため、投資家の議案検討期間の確保という観点から英文開示のタイミングを設定する必要があります。書類によって、海外投資家の利用目的が異なることを考慮した英文開示の設計が重要です。

海外投資家からは、全ての書類が日英の時間差なく開示されることが期待されている、という前提を理解した上で、英文開示のリソースなどに制約がある場合には、左下の決算短信でも、比較的難易度が低い財務情報（サマリー・財務諸表）部分の英文開示から始めて、右上方向に拡充していくことも一案です。

1-3 英文開示を行う対象書類と翻訳範囲の選定

英文開示をどの書類から、どういう範囲で始めるべきか、自社にとっての“合理的な範囲”を設定することは、容易ではありません。まずは、海外投資家のニーズが高く、英文資料作成の難易度が低い書類から対応していくのが現実的な方法の一つです。また、英文開示の範囲を拡大していく際は、海外投資家が、初期投資の検討、投資後のモニタリング、議決権行使等、投資プロセスのどの場面において使用する書類であるか、また、自社のリソースの制約も踏まえ、選定する必要があります。

ります。特に、期末決算から株主総会終了直後までは開示書類が多くなるため、英文資料作成の効率性の観点も踏まえて、検討します。

1-2 に掲載している英文開示書類分類チャートを元に、英文開示例を3つ提示します（図表4）。第3段階を、積極的な英文開示の実践期とし、当面のゴールに設定しています。第2段階を英文開示拡充期、第1段階を英文開示スタート期としています。

第1章

情報ニーズのグローバル化

投資家が必要としている基本的な情報は、英文開示を検討する必要があります。

気候変動など、地球規模の問題におけるリスクと機会は、どこで事業を展開していようとも、同じく影響があると考えられるため、情報ニーズは日本国内にとどまらないことを考慮に入れた対応を検討します。

投資家が必要とする基本情報のヒント

ISSB資料 Building blocks approachを筆者が再構成

サステナビリティ開示

非財務情報開示※
ISSB

財務情報開示
IFRSや
各国のGAPP

投資家に向けた財務+非財務情報開示※

※ISSBのモデルでは、“非財務情報開示”を Sustainability-related financial disclosures (investor focus) (サステナビリティ関連の財務情報開示 投資家向け) と定義しています。

Webinars on the ISSB’s exposure drafts, P.7, “Building block approach” 参照
<https://www.ifrs.org/projects/work-plan/climate-related-disclosures/webinars-on-the-issbs-exposure-drafts/>

②具体的な目標を設定する ～段階的な対応～

英文開示実践ハンドブック P.6

第1章

図表 4 英文開示実践の3段階(例)

	第1段階 英文開示のスタート期 英文開示を始める段階	第2段階 英文開示の拡充期 英文開示書類の対象範囲を拡大し、速報性向上に取り組む段階	第3段階 積極的な英文開示の実践期
決算情報	決算短信(サマリー・財務諸表) IR説明会資料	決算短信(全文) IR説明会資料 有価証券報告書(抜粋)**	決算短信(全文) IR説明会資料 有価証券報告書(全文)
適時開示	業績予想及び配当予想の修正 自己株式の取得	適時開示(全て)	適時開示(全て)
ガバナンス	招集通知、株主総会資料 (株主総会参考書類)	招集通知、株主総会資料(全て) コーポレート・ガバナンスに関する報告書	招集通知、株主総会資料(全て) コーポレート・ガバナンスに関する報告書
サステナビリティ	なし	なし	統合報告書 サステナビリティレポート

1-4 英文開示のタイミング

英文開示において、実務的な負担がもっとも高いのは日本語での情報開示と同時に英文開示することかもしれません。海外投資家の情報ニーズや、情報開示の公正性、透明性の確保を考えると、日本語の情報開示と同じタイミングでの英文開示が基本となります(図表5)¹⁰。英文開示を開始した段階や、拡充していく場面では、自社のリソースをいかに確保するののかも考慮しながら、英文開示のタイミングを検討する必要があります¹¹。あります。決算発表や適時開示のように、速報性が重要な書類と、ガバナンス体制や戦略・方針の説明な

ど、中長期的な情報開示を主な目的とした書類などに分類しながら、英文開示の時期を段階的に早めていく、といった設計をすることも一案です。

また、日本語と英語の開示を同じタイミングで実現していくためには、翻訳に遡した日本語の文章作成も重要です。論理構成を明確にした、簡潔な文章を書くことは、翻訳者に委託する場合でも、機械翻訳を活用する上でも、翻訳・チェック作業の効率化と品質向上に直結します¹²。また、日本語での情報開示の質を高めることにもなりますので、英文開示にとどまらない効果があります。

8 「英文開示に関する海外投資家アンケート調査結果」2021年8月からは、有価証券報告書とアナニュアルレポートの両方が必要であると判断できないため、有価証券報告書を対象書類としました。

9 2022年6月13日金融庁審議会ディスクロージャーワーキング・グループ報告においては、「本年4月にスタートした東京証券取引所のプライム市場は、グローバルな投資家との建設的な対話を念頭に置いており、当該市場に上場する企業は、積極的に有価証券報告書の英文開示を行うことが期待される。同時に、有価証券報告書全体の英文開示には相当の作業等を要するとの指摘がある。この点については、まずは、【事業等のリスク】、【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】、【コーポレート・ガバナンスの概要】、【株式の保有状況】など利用ニーズの特に高い項目について、英文開示を行うことが重要である。また、新たに「記載欄」を設けるサステナビリティ情報についても英文開示が期待される。」とされています。

10 「英文開示実施状況調査報告書」(2022年7月)P.4
<https://www.jpvc.co.jp/equities/listed-co/disclosure-gate/survey-reports/index.html>

11 英文開示のプロセスにおいて、情報漏洩リスクがないかといった検証も重要です。第2章 2-4 「機密情報を含む原稿の翻訳依頼」参照

12 第3章 3-4 「誤訳防止のための曖昧性解消」参照

現実的な目標設定と着実な達成
 実務的には、英文開示を一気に進めることが難しい場合もあります。現実的な目標設定をして、1つ1つ着実に進めていくことで、複数年かけて理想に近づくアプローチをおすすめします。

自社を簡潔に説明する情報の整理
 英文開示書類が少ない段階だけでなく、複数書類がそろってきたら、自社を簡潔に理解してもらうための情報の整理が必要になるかもしれません。また、各書類へのレファレンスを準備することも有効です。

③リソースを確保する ～英文開示を実践する体制整備～

英文開示実践ハンドブック P.8

第1章

図表6 英文開示体制整備の一覧

英文開示への対応段階	経営・マネジメント	担当部署・担当者	ナレッジ・技術
3	英文開示した資料を活用したコミュニケーションに取り組み、海外投資家とのエンゲージメント構築に取り組みしている	財務数値等のデータ開示に加え、非財務情報などを旨的・体系的な説明を含む英文開示に取り組み、社内一定程度の修正や編集、チェックが実施できる 社外委託先の品質を評価することができる 英語力を組織的に磨いている	日本語原文データを加工して、英文書類のドラフト作成が一定程度自動化されている 翻訳作業を支援する専用ツールや、機械翻訳の活用をしている 作成した英文資料を社内で見直し、確認が徹底している
2	英文開示が必要だと考えている英文開示が自社に与える影響を具体的に認知している	英文開示が必要となる書類について、年間スケジュールで検討している 英文開示の原文となる日本語書類の作成スケジュールを把握している 社内での英文開示担当者を設定し、社外委託先を選定している	自社内の英文資料を整理し、活用ルールを社内で作成している 原簿データの入手・提出経路を整備している チェック、修正、編集加工に必要な設備やソフトがそろっている
1	英文開示の必要性を感じている英文開示が自社に与える影響を、明確に認知しているわけではない	英文開示をする場合の費用や日程の検討をはじめとしている 社内・社外の委託先を探している	自社にある英文資料の確認をはじめとする 英文チェックができる社内人材を探している

図表6注：見玉原簿（英文決算原簿の状況・事例から考える英文開示にはこう対応する）（『特別監理情報』2022年7月10日号 P.7-P.17、中央経済社）P.17 英文開示体制整備のポイント表を一部再構成

目的・目標を共有した役割分担

英文開示を拡充に必要な機能や、それを担う組織等の整備を進めることも重要です。

人材採用や育成など、中長期的な視点で取り組むべき活動も含まれているため、計画的な体制整備は、英文開示の目標設定と表裏で進める必要があります。

担当部署・担当者

英文開示を担当する部署・担当者は、英文開示する対象書類の選定やスケジュール、予算管理といった全体設計だけでなく、英文開示に必要な翻訳・チェック能力が社内人材で確保できるのか、あるいは外部委託するのかといった実務の設計や、英文チェックなど実務作業も発生します。また、開示の元となる情報をまとめている部門への協力要請といった調整も欠かせません。単年度で解決できないことも多いため、経営・マネジメントと連携して、中期的な計画作成を主導することが重要です。

ナレッジ・技術

複数の書類を早期に英文開示していくためには、自社内の英文資料や用語集などを整備するだけでなく、更新も含めた運用設計が重要です。また、適切な外部委託先の選定（第2章）や機械翻訳の活用（第3章）など、実務の作業性を高める工夫が必要になります。

英文IR人材の育成

英文開示書類を活用して、海外投資家とのコミュニケーションに取り組むためには、自社の戦略や方針を説明する能力が必要です。そうした能力を備えた人材の英語力を向上する中長期的な取り組みも重要になってきています。

④リスクを制御する ～免責文言の活用～

英文開示実践ハンドブック P.9

1-6 免責文言の活用

英文開示をためらう理由として、十分なチェック体制がないことや翻訳等による訴訟リスクなどへの懸念があります。英文開示の重要度が増しているとはいえ、十分な対応ができない限り、英文開示はしないという判断をする企業もあります。

そうした場合には、免責文言を活用して英文開示を始めようという意欲が生まれます。JPX English Disclosure GATEの英文開示様式例の中に、免責文言の文例があります(図表7)¹⁴。

図表7 英文資料に記載するディスクレーマーの文例

英文資料に記載するディスクレーマーの文例
<p>日本語資料を原本として、参考訳として英文資料を作成した場合は以下のとおりです。 なお、本ページに掲載する英文資料様式例には全用のディスクレーマーを記載しております。様式をご利用の際は、必要に応じてディスクレーマーを修正してご利用いただけますようお願いいたします。</p> <p>全文用</p> <p>Note: This document has been translated from the Japanese original for reference purposes only. In the event of any discrepancy between this translated document and the Japanese original, the original shall prevail.</p> <p>注: この書類は、参照目的のために、日本語の原本から翻訳されたものです。この翻訳書類と日本語の原本の間には齟齬がある場合は、日本語の原本が優先されます。</p> <p>抜粋用</p> <p>Note: This document has been translated from a part of the Japanese original for reference purposes only. In the event of any discrepancy between this translated document and the Japanese original, the original shall prevail.</p> <p>注: この書類は、参照目的のために、日本語の原本の一部を翻訳したものです。この翻訳書類と日本語の原本の間には齟齬がある場合は、日本語の原本が優先されます。</p>

特に、対象の英文開示は参照用に準備していることや日本語原文が情報開示として正しいものであること、英文開示書類には翻訳にともなうエラーが発生する可能性があるため、完全な正確性を保証できないといった内容を明記することは、情報の受け手である海外投資家の注意を喚起する上でも重要です。

また、機械翻訳を使用している場合には、その旨を明示することで機械翻訳特有の誤訳やエラーの可能性を伝えることができます。英文開示がない場合は、海外投資家側が機械翻訳を使用して内

容を確認するケースもある¹⁵ようなので、そうした手間を軽減できるという意味でも、免責文言をつけて英文開示をすることは、価値があるといえます。

上場会社に求められる情報開示が変化する中で、英文開示に取り組むことは容易ではありません。特にプライム市場上場会社は、海外投資家が必要とする情報について、日英の時間差なく開示できるよう積極的に対応することが期待されていますが、はじめから完璧を求めず、英文開示の拡充に取り組んでいただければ幸いです。

14 「JPX English Disclosure GATE」<https://www.jpx.co.jp/equities/listed-co/disclosure-gate/>
なお、こちらで紹介しているのは一般的な情報を参考として提供しているものであり、法律助言を提供するものではありません。本誌記を利用することに関する法的リスクについては弁護士にご相談ください。
15 「英文開示に関する海外投資家アンケート調査結果」2021年8月 P.13 「IR説明会資料や有価証券報告書、アナウンスメントについて、機械翻訳が困難である(ため英文開示が必要)との指摘もあった」<https://www.jpx.co.jp/equities/listed-co/disclosure-gate/survey-reports/index.html>

第一章

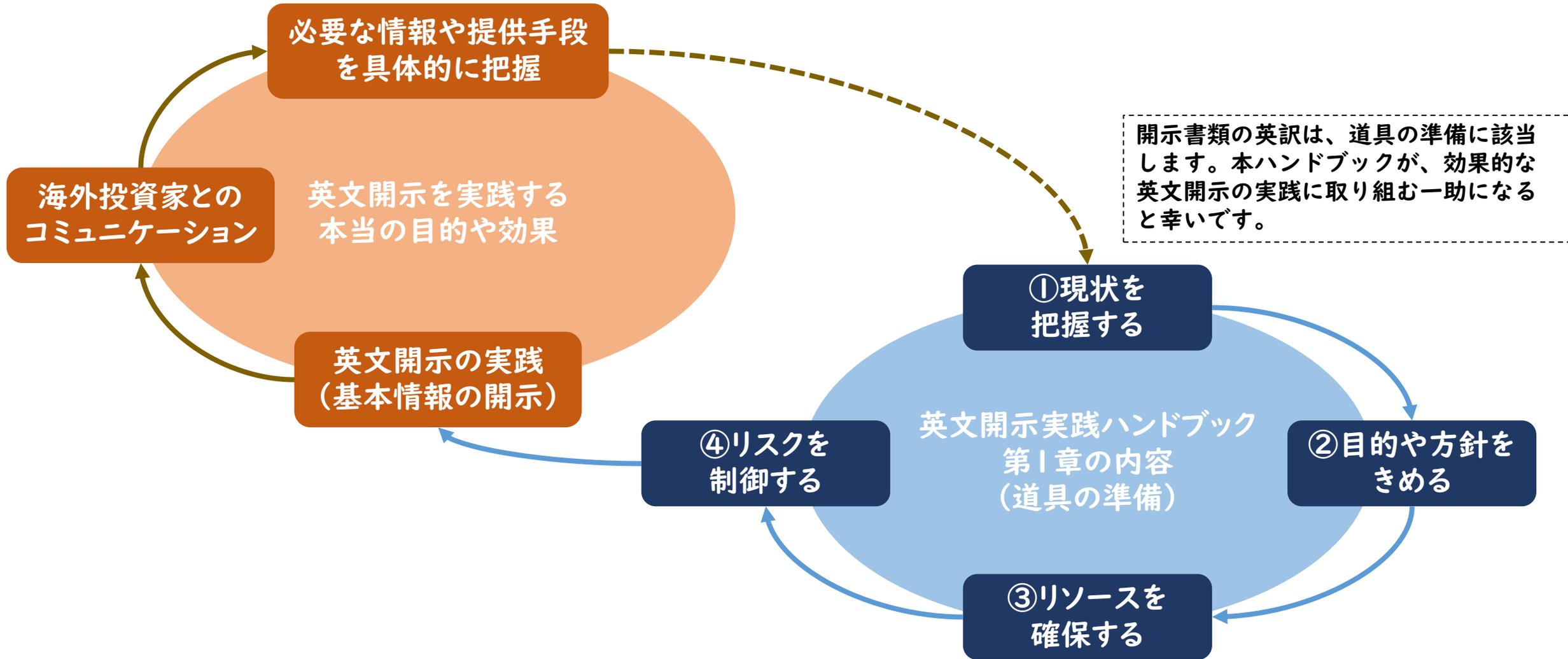
参照用の翻訳書類であることを明記

英文開示書類には、誤訳やチェック漏れなどによるエラーが含まれる可能性があります。特に、和英の開示タイミングをそろえる場合には、英文のチェックを十分にできないことも考慮に入れる必要があります。そのリスクを明記して、海外投資家に伝えることが重要です。免責文言は、自社の実態に合わせた内容を検討して作成します。

機械翻訳の活用

英文開示書類が増えてきたら、速報性を重視した対応も必要になってきます。機械翻訳を活用して、速やかに英文開示を進め、自社内でのチェックと修正を施した修正版をアーカイブとしてそろえていく、といった対応も検討できます。その際、速報性を重視し機械翻訳された書類である、といった免責文言をつけることを検討します。

まとめ ~効果的な英文開示の実践に向けて~



ご清聴ありがとうございました

本資料の内容は、講演者個人の意見であり、
本セミナー主催者や関係機関および、
講演者が所属する組織の見解を代表するものではありません。

ご意見・ご質問などは、下記メールにご連絡いただくと幸いです。
takanao.kodama@pronexus.co.jp

英文IR人材育成講座

英文開示の実践（翻訳外注の活用）

宝印刷株式会社

国際事業統括部

執行役員 三輪 哲也

目次

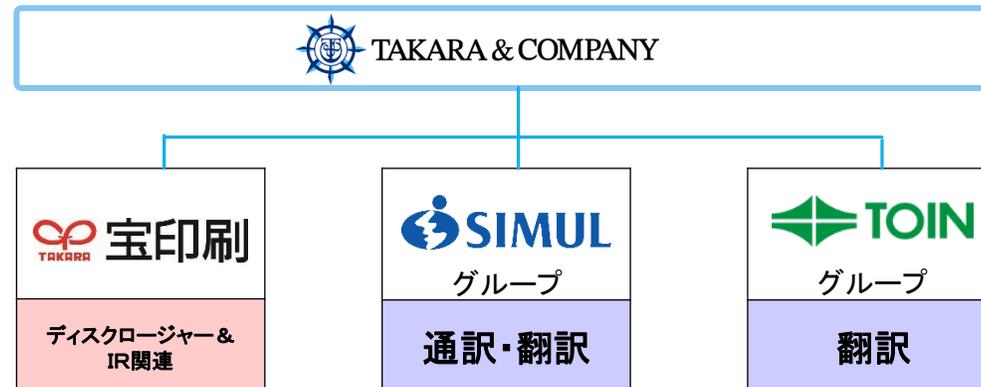
宝印刷について	
1 全体の流れ	4
2 契約締結時のポイント	5
(1) 著作権の帰属	
(2) 機密保持	
3 翻訳依頼時のポイント	7
(1) 翻訳原稿・範囲の確認	
(2) 翻訳方針・参照資料の共有	
(3) スケジュールの提示	
(4) 機密保持契約(NDA)の締結	
(5) 複数パターン原稿の翻訳依頼	
4 納品物の確認ポイント	12
(1) 数値の正確性	
(2) 勘定科目、その他用語の正確性、統一性	
(3) 誤訳・訳抜け、最終確認	

宝印刷について

◆会社概要

商号	株式会社TAKARA & COMPANY
創業	1952年(昭和27年)
本社所在地	〒171-0033 東京都豊島区高田三丁目28番8号
代表取締役社長	堆 誠一郎
上場取引所	東証一部(証券コード 7921)
従業員数	1,086名(連結)

◆翻訳体制図



1 全体の流れ



*翻訳中に翻訳会社から原稿の問い合わせなどがある場合もあります

*翻訳会社への支払いと開示は、前後する場合があります

翻訳会社に事前に確認すべき内容

- 翻訳料金
- 作業日数
- 情報管理体制
- 過去の実績、開示文書に関する経験値
- 試訳の実施可否など

2 契約締結時のポイント

(1) 著作権の帰属

- ◆ 翻訳会社又は翻訳者による翻訳物は「二次的著作物」
 - ・著作権者は翻訳会社又は翻訳者が有する翻訳物の著作権と同一の権利を保有
- ◆ 著作権の帰属についての契約締結
 - ・翻訳の著作物における利用トラブルの予防
 - ・著作権の帰属先や範囲、使用ルール等を契約に明確に記載

2 契約締結時のポイント

(2) 機密保持

◆ 開示文書に含まれるインサイダー情報

- ・ 第三者への情報漏洩防止

◆ インサイダー情報の取り扱い

- ・ 情報漏洩対策として契約内容を確認
- ・ 機密保持に関する内容が含まれているか
- ・ 機密保持契約 (NDA: Non-Disclosure Agreement)

3 翻訳依頼時のポイント

(1) 翻訳原稿・範囲の確認

◆ 全文翻訳と部分翻訳

- ・部分翻訳—文書全体の整合性が損なわれる可能性

◆ 翻訳範囲の明確化

- ・ハイライトやコメント機能の活用
- ・画像、ロゴなどの翻訳要否を明示

◆ 社内翻訳のチェック依頼

- ・翻訳品質やチェック内容によって単価や納期に影響
- ・サンプルの支給

3 翻訳依頼時のポイント

(2) 翻訳方針・参照資料の共有

◆ 参照資料の共有

- ・社内用語集—固有名詞、独自の表現など
和英対訳集
- ・過去の翻訳、他の英訳された開示書類

例：統合報告書を翻訳する場合

- ・前年の統合報告書を参照
- ・新規の勘定科目は決算短信を参照
- ・コーポレートガバナンスの更新箇所は招集通知を参照
- ・参照資料の優先順位を明確化

3 翻訳依頼時のポイント

(3) スケジュールの提示

- ◆ 日英同時開示への動き
 - ・綿密な翻訳スケジュールの事前策定
- ◆ 翻訳後の確認
 - ・社内での確認作業期間の確保
 - ・社内確認後の質問・追加指示
- ◆ 原稿の制作進捗を共有
 - ・突発的な修正への備え

3 翻訳依頼時のポイント

(4) 機密保持契約(NDA)の締結

◆NDA 締結の重要性

- ・インサイダー情報など重要情報の漏洩対策
- ・見積依頼前の締結

◆個別契約と包括契約

- ・開示文書ではその継続性から包括契約が一般的

◆その他の防止措置

- ・重要情報をダミー、伏字とした原稿準備

3 翻訳依頼時のポイント

(5) 複数パターン of 原稿の翻訳依頼

◆ 開示文書の翻訳期間

- ・開示予定日は決定—翻訳期間が限定

◆ 複数パターン of 原稿による翻訳

- ・未確定事項が確定してからでは翻訳が開示に間に合わない場合
- ・想定される複数パターン of 原稿を準備
- ・確定結果に一致する翻訳を開示

4 納品物の確認ポイント

(1) 数値の正確性

◆ 重要な確認ポイント

- ・ マイナス表記
- ・ 単位表記
- ・ 期間表記
- ・ 増減表記
- ・ 日本語原稿では前年から変更がないが、英語では更新が必要な年度などの数字

4 納品物の確認ポイント

(2) 勘定科目、その他用語の正確性、統一性

◆ EDINETタクソノミの活用

◆ 重要な確認ポイント

- ・ 翻訳の参照先との合致
- ・ 勘定科目における利益・損失の確認
- ・ 勘定科目間の単語統一

◆ 重要な固有名詞

- ・ 会社名、氏名、組織名、役職名
- ・ 標語、セグメント名、商品名

4 納品物の確認ポイント

(3) 誤訳・訳抜け、最終確認

◆ 重要な確認ポイント

- ・原稿との過不足
- ・原稿が意図する内容との一致
- ・レイアウトなどを含めた全体の確認

ご清聴ありがとうございました。

ご意見・ご質問などは、下記メール宛にご連絡いただけますと幸いです。
group_dchandbook@takara-print.co.jp

「英文IR人材育成講座」

～英文開示の実践～

機械翻訳の活用

情報通信研究機構

隅田 英一郎

隅田 英一郎

① 2022/8/19 に「AI翻訳革命」を出版しました。

② ご質問はメールでお願いします。

eiichiro.sumita@nict.go.jp

国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT)

～ICT分野を専門とする公的研究機関～

● 主な業務 :

- ① 最先端の情報通信 (ICT) 分野の研究開発
- ② 日本標準時の決定・維持・供給
- ③ 外部機関が行うICT分野の研究開発の支援

● 所在地 : 東京都小金井市

● 役職員数 : 約 1,200名

● 予算 : 令和3年度運営費交付金 280.7億円

● 設立 : 平成16年4月1日

リモートセンシング

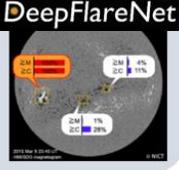
ゲリラ豪雨など突発的大気現象の早期捕捉



Receiver
Sender
スマホアプリ

宇宙環境・時空標準

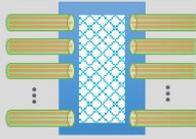
宇宙天気予報の提供、高精度な基準時刻の生成・分配供給



DeepFlareNet

フォトニックネットワーク

Beyond 5Gを支える大容量光ネットワークを実現



超大容量光交換ノード

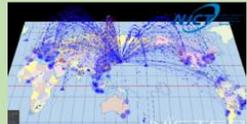
次世代ワイヤレス・宇宙通信

Beyond 5 Gを実現する超高速・省電力・拡張空間の無線ネットワーク



サイバーセキュリティ

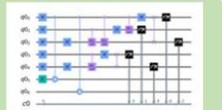
多様化するサイバー攻撃に対応



NICTER

暗号技術

耐量子計算機暗号など今後の利用が想定される暗号技術の研究や評価



量子計算機を使った暗号解読

自動同時通訳

ビジネス・国際会議等で実用的な自動同時通訳



N:N同時通訳

社会知コミュニケーション

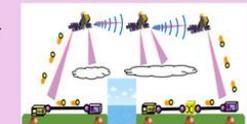
ユーザの興味や背景、コンテキストに応じた対話



対話ロボット

量子セキュアネットワーク

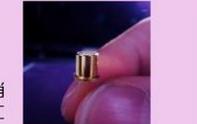
盗聴・解読の危険性がない長期安全性を確保



グローバル量子暗号ネットワーク

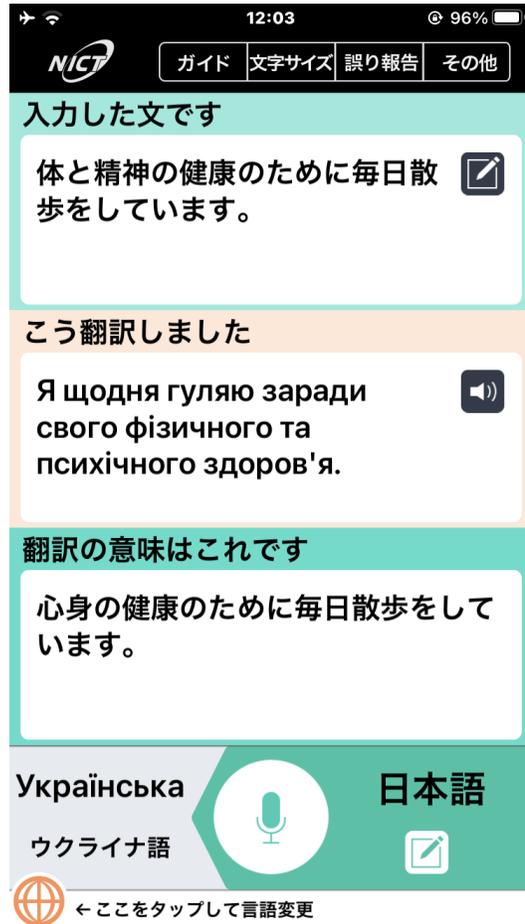
先端ICTデバイス・脳情報通信

新型コロナウイルス対策・低消費電力の実現、脳情報通信による人間機能の拡張



深紫外光デバイス

VoiceTra(音声翻訳)

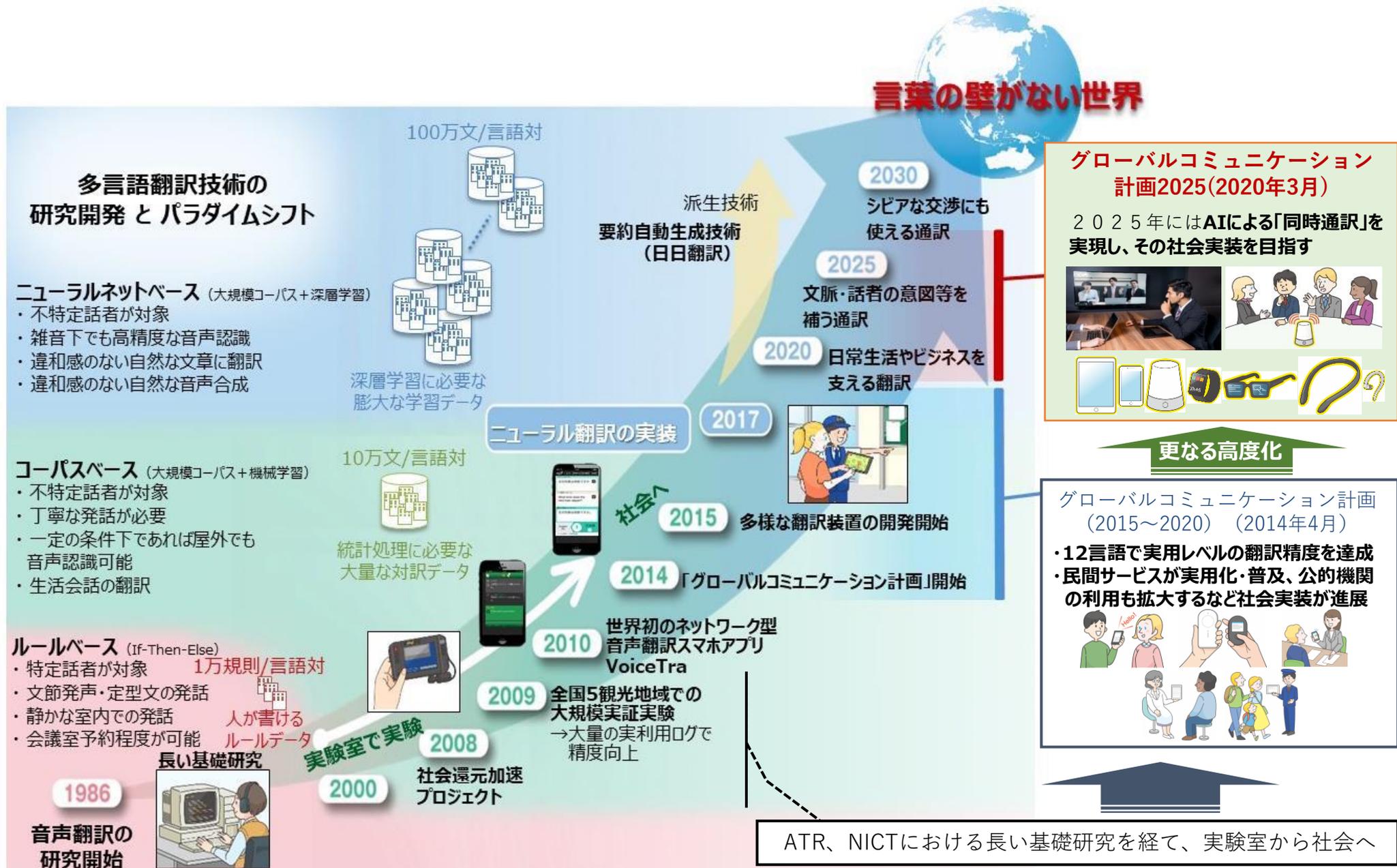


原文と逆
翻訳が似
ているか

日本人なら誰でも
出来る簡単な誤訳
の検査法です。

https://voicetra.nict.go.jp/dl/VT_guide-tips03_20200408.pdf

多言語翻訳技術研究の歴史と展望



TexTra(文書翻訳)

まずは
無料で
新規登録

みんなの自動翻訳@TexTra®
「みんなの自動翻訳@TexTra®」は、自動翻訳をみんなで育てるサイトです。

Language

ユーザーID
パスワード
ログイン
 ログインしたままにする
パスワード再発行

サイトにユーザー登録して翻訳機能を使ってみる

対訳寄付
対訳寄付の方法

みんなの自動翻訳@TexTra®とは
ヘルプ一覧

「みんなの自動翻訳@TexTra®」は、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）が開発した自動翻訳サイトです。

最新の自動翻訳研究に基づく「高精度自動翻訳エンジン」が無料でご利用いただけます。

※利用登録に際しては、氏名・メールアドレスなどの個人情報は必要ありません。

便利な「翻訳エディタ」の利用も面倒なインストールは不要！

ウェブサイトやワードファイルなどを見た目のままに読み込んで、自動翻訳し修正作業を行うことができる「翻訳エディタ」も簡単にご利用いただけます。

翻訳したいサイトのURLを入力するだけで、自動翻訳結果をエディタに再

(注) 情報通信研究機構で公開している自動翻訳サイト
※本サイトのご利用は**非商用利用に限定**されます。
※メンテナンスのため定期的に止まります。

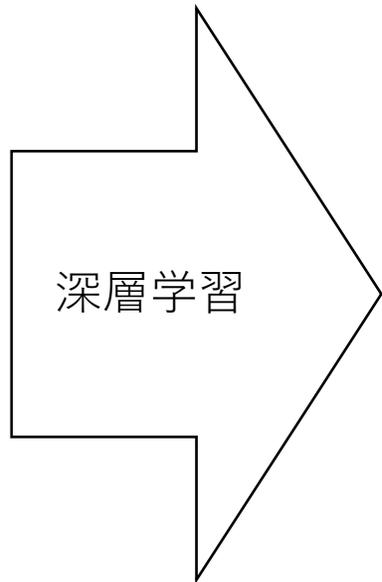
機械翻訳の現在

自動翻訳・通訳は対訳データから作る

対訳データ（原文と翻訳文）

人類は、国家や地域、民族や世代など、あらゆる境界を越えて、相互の理解を深め、知恵を分かちあうことで、発展し、重要な基礎を築き、また、経済活動を促進しています。Humanity has achieved progress as it has deepened its mutual understanding and shared its wisdom, overcoming barriers due to national, regional, ethnic, generational, and other differences. Communication is the most critical activity in human society, and information and communications technology (ICT) is the basis of that communication. ICT is also the infrastructure that supports humanity's advanced intellectual and economic activities.

<http://www.nict.go.jp/およびhttp://www.nict.go.jp/en/index.html>



ニューラル翻訳

0.034524 0.008209 -0.036567 0.000317 0.052561 -0.057137 -0.049069 0.026325 -0.006376 0.005100 -0.029406 0.001348 0.007813 0.011046 -0.068254 0.049055 0.015998 0.050705 -0.032895 -0.057581 0.020686 0.013625 0.006844 -0.005559 -0.021837 -0.007766 -0.016833 -0.052483 -0.015757 -0.018395 -0.039223 -0.025823 -0.009908 -0.010407 0.029266 0.033712 -0.017647 -0.019884 -0.068798 0.002268 0.046325 -0.015774 0.004865 -0.017944 -0.007810 -0.020594 -0.004333 -0.013813 0.037423 0.028352 -0.038967 -0.015373 -0.076406 -0.012378 -0.009984 -0.026934 -0.006178 -0.010026 -0.024871 0.021154 0.012995 0.011356 0.007827 -0.013837 0.020613 0.016621 0.027186 0.056282 0.042408 -0.011493 -0.046421 0.005121 -0.002050 0.007850 0.017536 0.056759 -0.010126 -0.001120 -0.000121 -0.018513 -0.025704 0.019502 -0.014156 0.025122 -0.007981 0.056050 0.010561 -0.003185 -0.021739 0.035138 0.048436 0.000736 0.023756 0.024959 -0.008862 0.024949 -0.014416 -0.009366 -0.028119 0.043227 -0.003789 -0.026926 -0.002977 0.007007 0.046932 -0.049336 -0.122740 0.054464 0.046546 -0.032669 -0.043547 -0.146824 -0.067943 -0.021879 -0.060890 0.108655 -0.042642 0.107027 -0.032324 -0.060890 -0.022921 -0.018369 0.057616 -0.036555 -0.020805 -0.087385 0.019297 -0.024139 -0.123872 0.010643 -0.110488 0.076493 0.024601 -0.100123 0.013617 0.022422 -0.011981 0.026189 -0.048778 -0.036603 0.062228 0.032410 0.077600 0.080839 -0.052787 -0.021868 -0.034017 0.047773 0.053071 0.043545 -0.043310 -0.122626 -0.089154 -0.062511 0.073904 -0.024257 -0.064872 -0.024727 -0.052100 0.036455 -0.006622 0.033510 0.041331 0.036359 0.062870 0.004226 -0.059176 -0.002171 0.045565 0.100572 0.069947 0.046046 -0.106000 0.042455 -0.033985 -0.010089 0.011440 0.030107 0.080426 -0.005678 -0.102307 0.074034 -0.064245 -0.042160 0.010412 0.029441 0.016411 -0.003692 0.106138 0.088543 0.068837 0.009127 0.038497 -0.075148 0.016069 -0.018250 -0.009139 0.038523 -0.039996 -0.012507 -0.041703 -0.002184 0.112483 -0.057667 0.258704 0.038495 -0.060213 0.035373 0.154529 -0.010922 -0.148959 -0.047688 -0.026684 -0.041236 0.002019 0.156481 0.081695 0.012335 0.018098 -0.064107 0.054997 0.103476 0.091256 -0.071345 -0.068661 0.056756 0.113601 0.020353 -0.035564 -0.114542 -0.074180 -0.005134 -0.022966 0.027060 0.083860 0.041548 -0.040060 -0.019864 -0.091129 -0.070714 0.038758 -0.042537 0.053469 0.011317 -0.008002 -0.090652 -0.010616 0.067415 0.053682 -0.015672 -0.144984 -0.005615 -0.043907 0.070575 0.127576 -0.027835 0.072007 -0.061721 -0.097822 0.079427 -0.005288 0.050989 -0.091070 0.015273 0.021031 -0.072851 -0.037229 0.083061 0.128342 -0.044585 -0.137006 0.093918 -0.033246 -0.008432 0.080802 -0.109352 0.083443 -0.045618 -0.033986 0.027695 -0.115097 0.223685 -0.083115 -0.032411 -0.040359 0.101720 0.077344 -0.020547 0.110848 0.103057 0.026371 0.033157 -0.015743 0.058732 0.129566 0.158788 0.017742 0.067832 -0.016020 0.021265

ニューラルネットは、
数字の集合になるので
著作権を侵害しません

人間翻訳に近づきつつある機械翻訳

～対訳を使った機械翻訳の進化が加速している～

精度



検索
統計
SMT
EBMT

1988: P. Brown; John Cocke, S. Della Pietra, V. Della Pietra, Frederick Jelinek, Robert L. Mercer, P. Roossin. "A statistical approach to language translation". COLING'88.

1984: Makoto Nagao. "A framework of a mechanical translation between Japanese and English by analogy principle". In A. Elithorn and R. Banerji. *Artificial and Human Intelligence*. Elsevier Science Publishers

第2世代SMT

+句

第1世代NMT

深層学習

第2世代NMT

+注意

第3世代NMT

リバイバル

+検索

人間翻訳 ≒ 機械翻訳

2020: Urvashi Khandelwal, Angela Fan, Dan Jurafsky, Luke Zettlemoyer, Mike Lewis. "Nearest Neighbor Machine Translation". <https://arxiv.org/abs/2010.00710>

2017: Ashish Vaswani, Noam Shazeer, Niki Parmar, Jakob Uszkoreit, Llion Jones, Aidan N. Gomez, Lukasz Kaiser, Illia Polosukhin. "Attention Is All You Need". <https://arxiv.org/abs/1706.03762>

2014: Sutskever, Ilya; Vinyals, Oriol; Le, Quoc Viet. "Sequence to sequence learning with neural networks". NIPS.

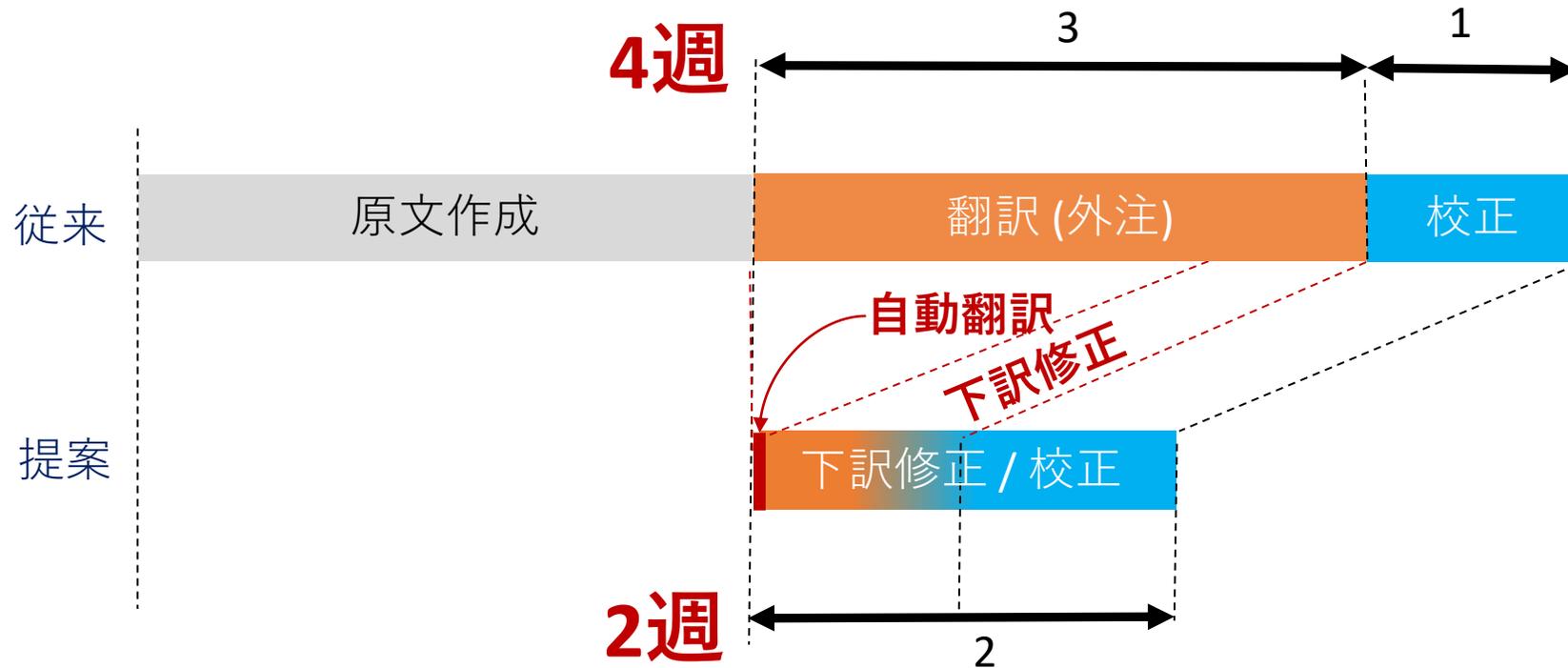
2003: Philipp Koehn, Franz J. Och, Daniel Marcu. "Statistical Phrase-Based Translation". HLT-NAACL.

西暦

人間翻訳に近づきつつある機械翻訳 ～専門的分野での活用が進んでいる→次はIR～



治験実施計画書の作成期間を半減



機械翻訳は誤訳します

**翻訳精度は
90%程度**

機械翻訳が人間翻訳に勝る点

長所	意義
翻訳時間は人間とは比較にならないほど 速い	使いこなせると時短・働き方改革につながる
24時間365日 無停止 でいつでも利用できる	夜や休日に発生する案件も多いので便利
記憶容量が大きいので 専門用語に強い	人間と違って瞬時に記憶し忘れない

機械翻訳の多様なUIで使える

窓で

① コピペ



② 翻訳

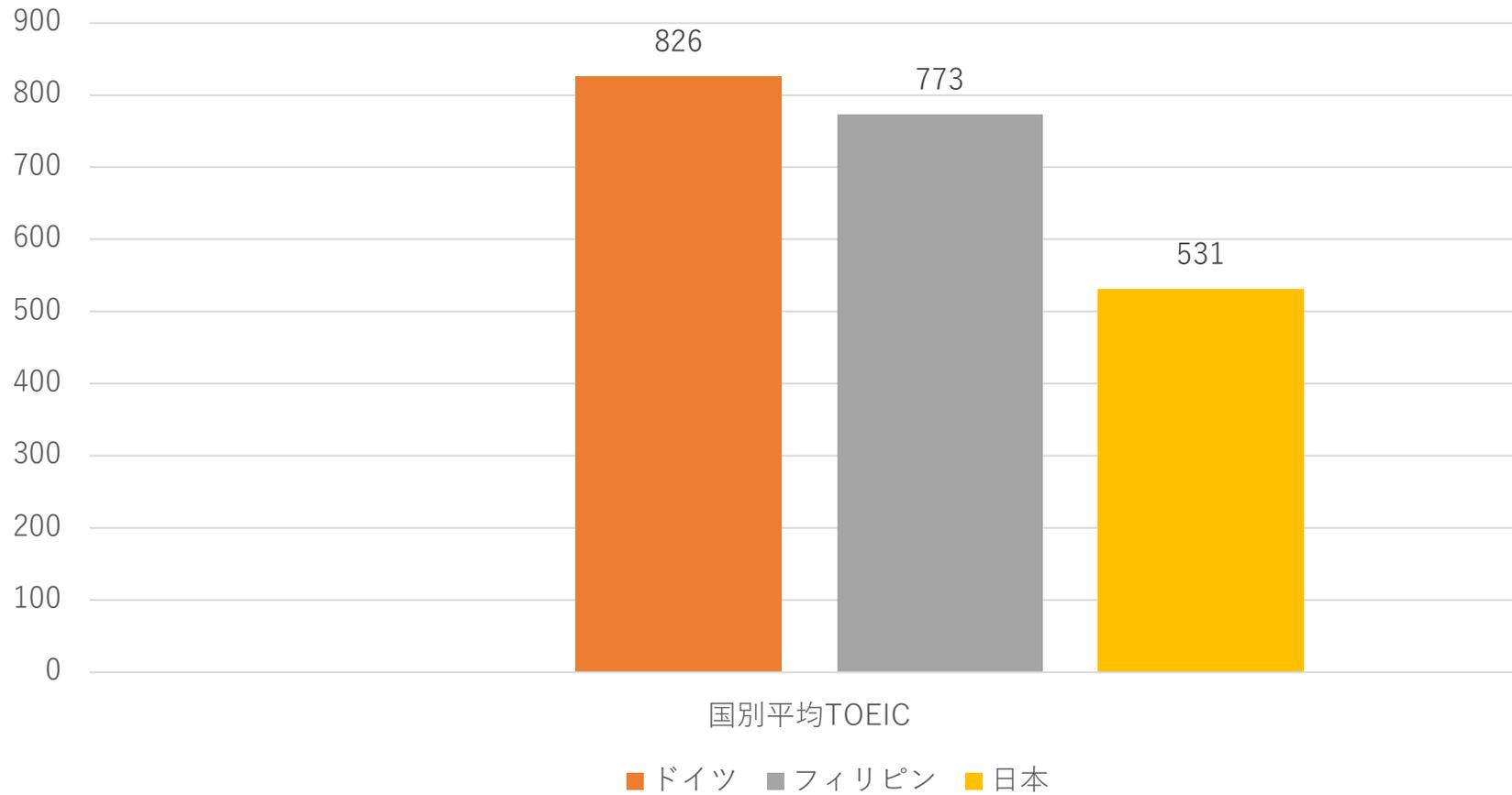
WORDで



『翻訳者』でなく 『社員 & 機械翻訳』

機械翻訳と人間の能力比較

人間の平均（国別）



<https://www.iibc-global.org/iibc/press/2021/p174.html>

機械翻訳と人間の能力比較

同じ文を翻訳して訳質の優劣を星取表にする

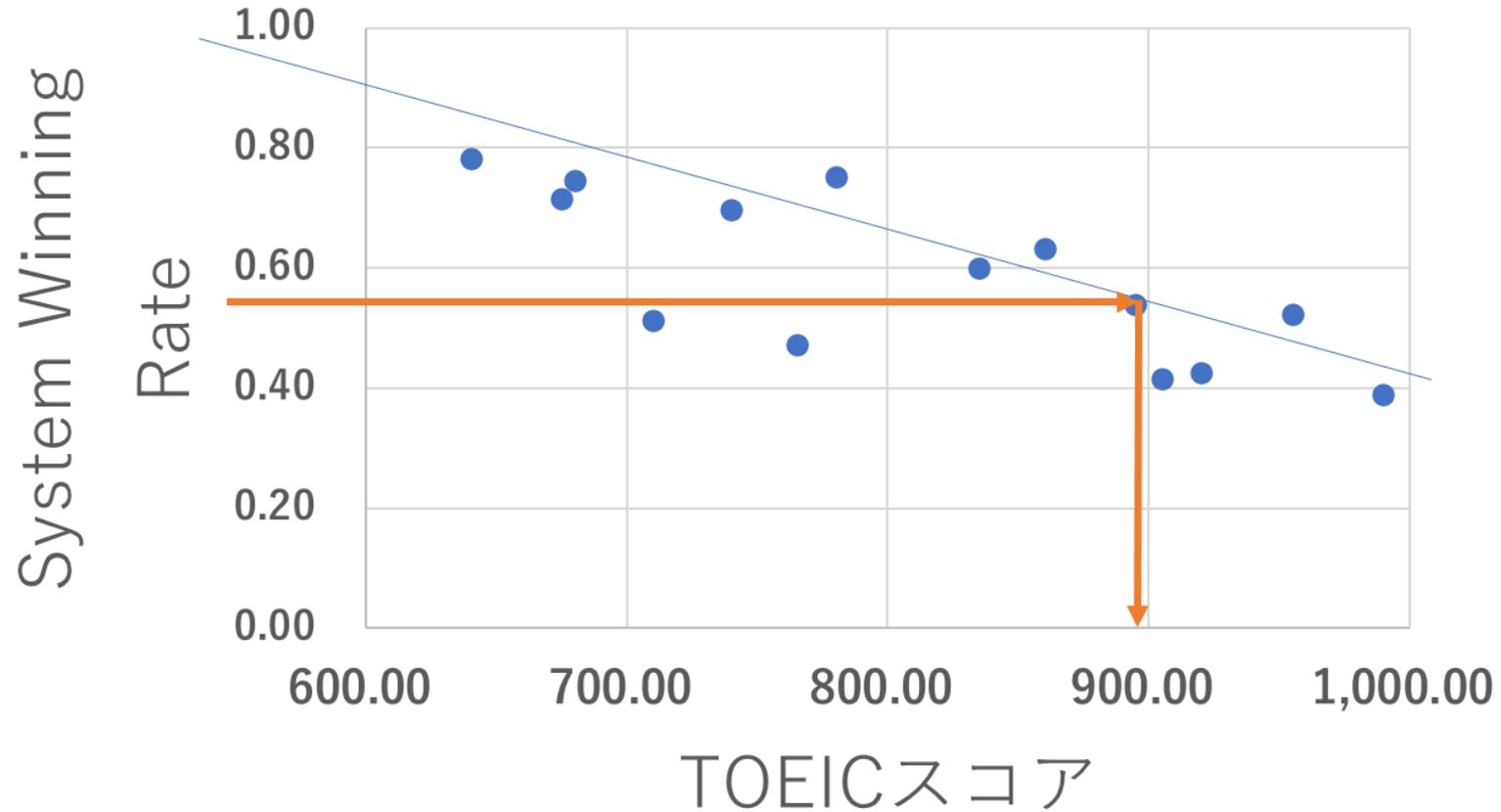
↓文 人間→	1	2	3	4
1	○	●	○	●
2	○	○	○	●
3	●	●	○	●
4	●	○	○	●
5	●	○	●	●
機械の勝率	2/5	3/5	4/5	0/5

英語がまあまあな人

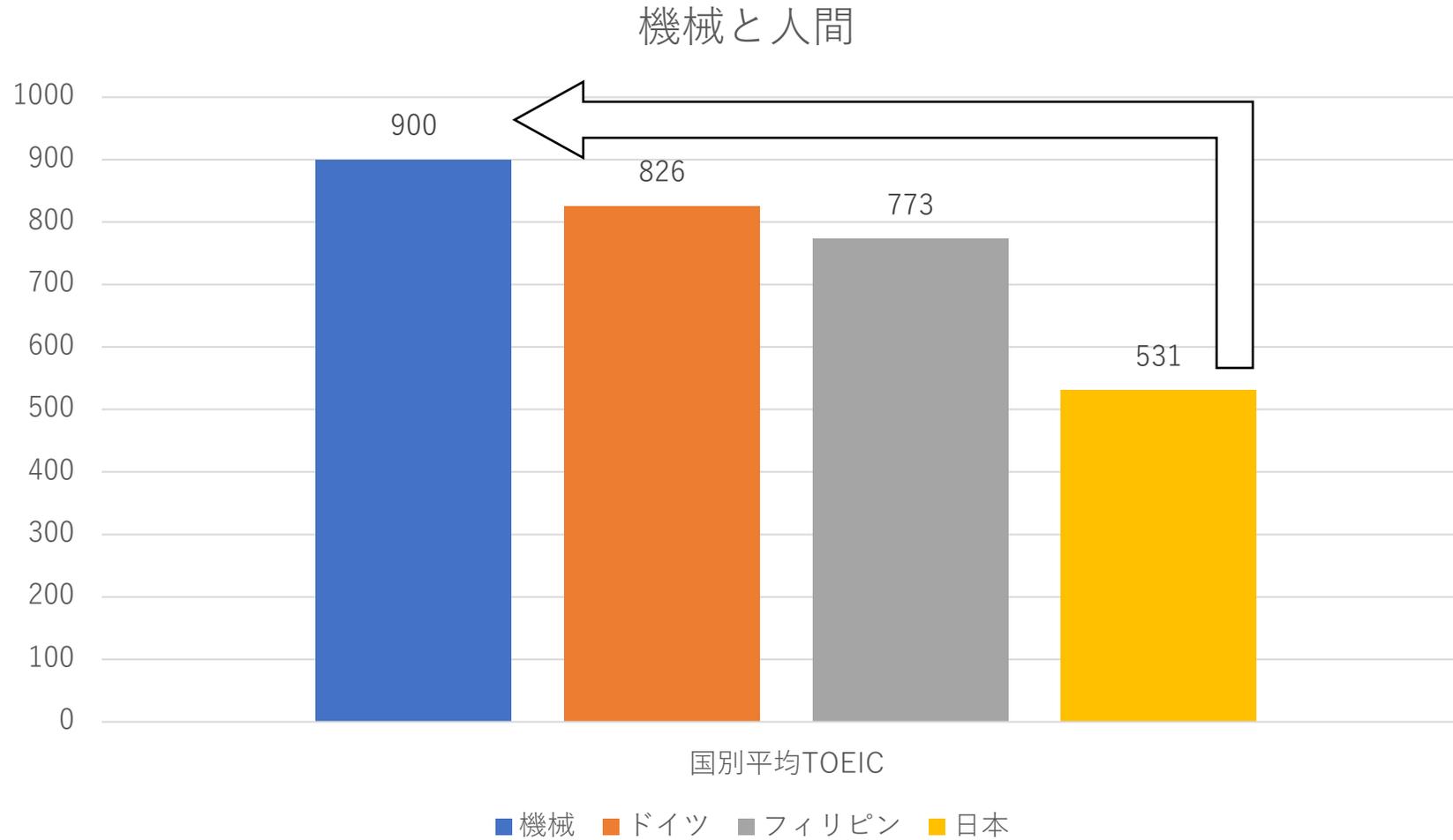
英語が苦手な人

英語が上手な人

機械翻訳はTOEIC900点



機械翻訳と人間の能力比較



<https://www.iibc-global.org/iibc/press/2021/p174.html>

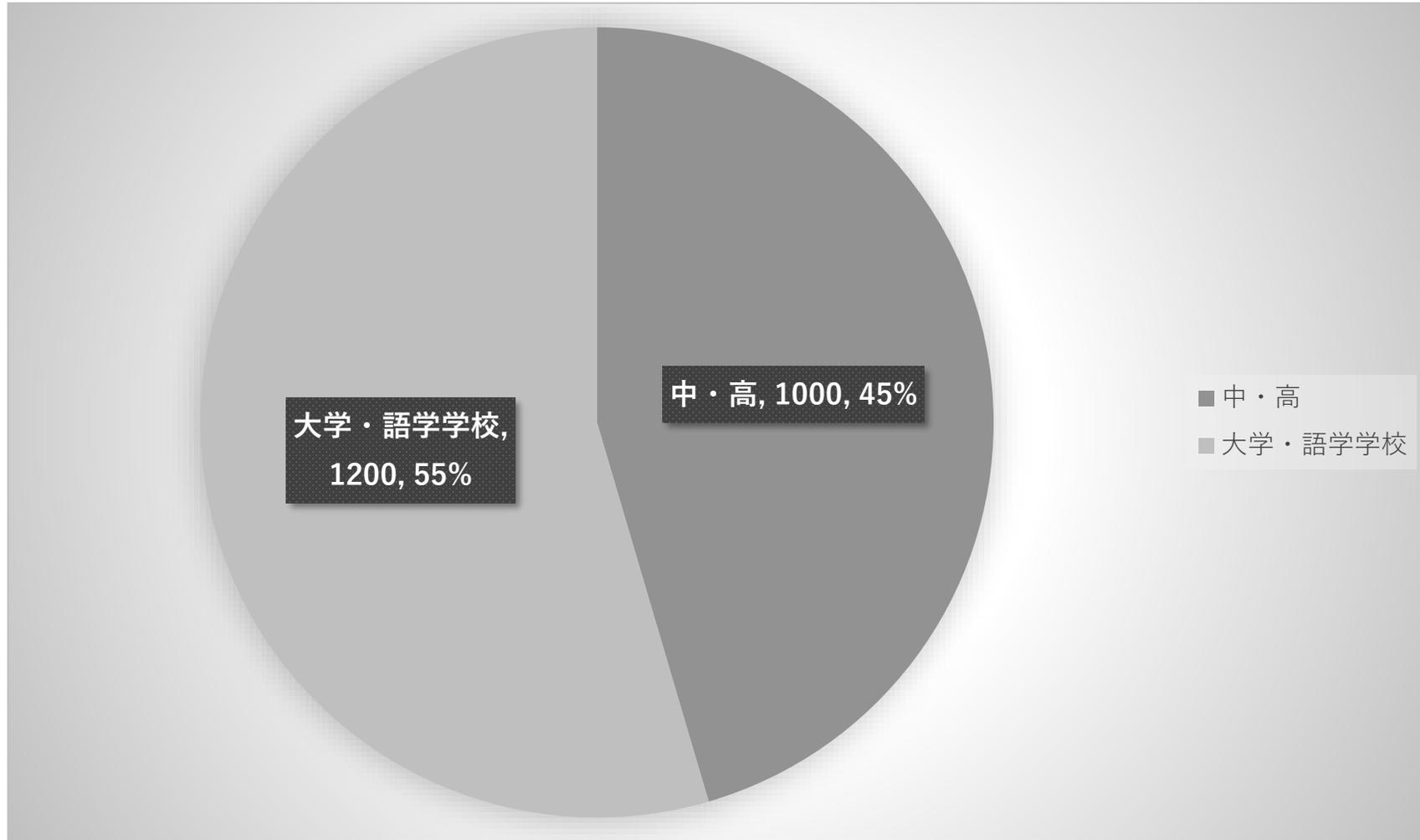
日本語話者には**英語の習得が一番難しい**。

∴米国国務省配下Foreign Service Institute (FSI)の
によると英語話者には日本語習得が一番難しい。

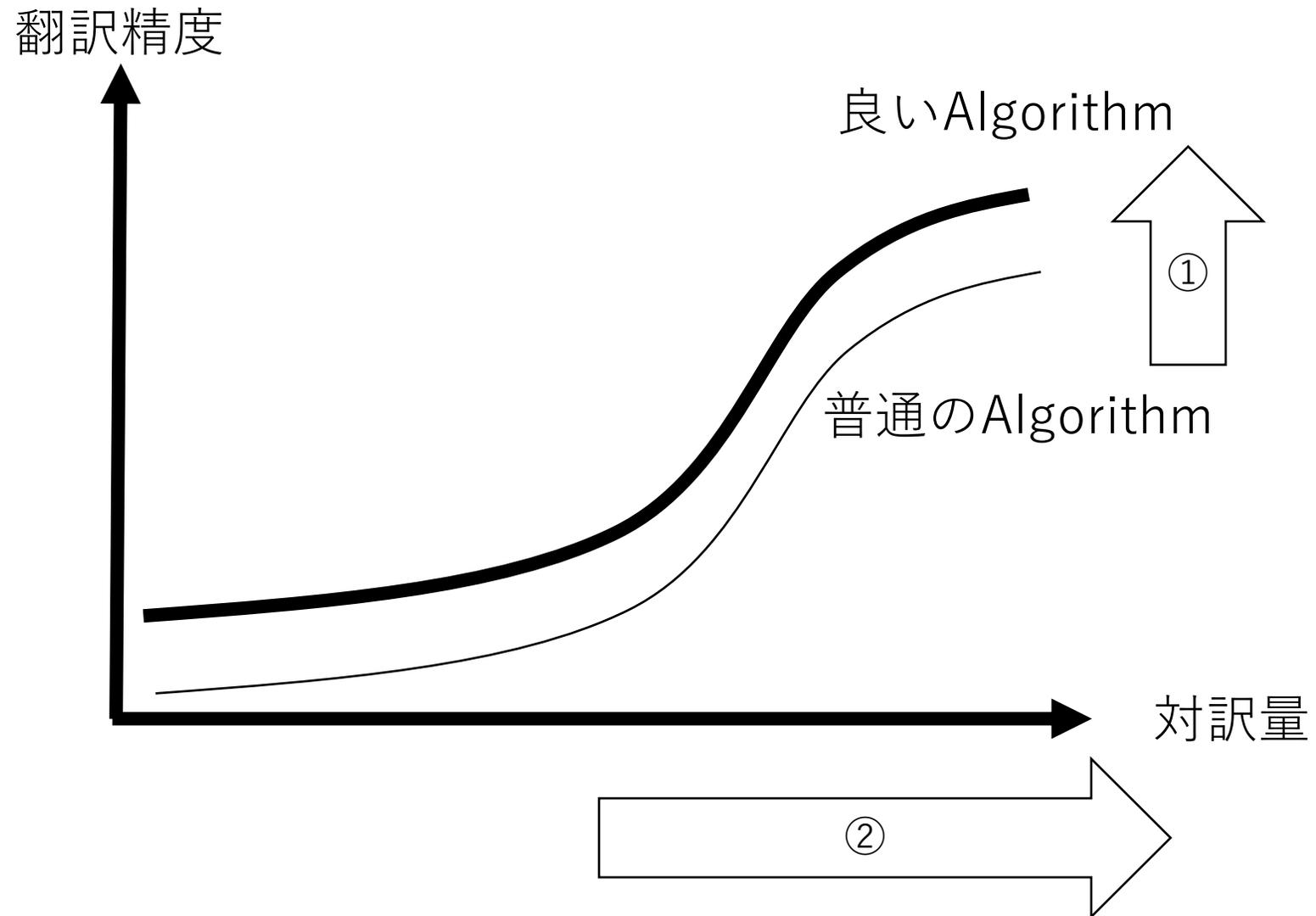
<https://www.state.gov/foreign-language-training/>

学習時間	言語
600	フランス語など
900	インドネシア語など
1100	ロシア語など
2200	日本語 など

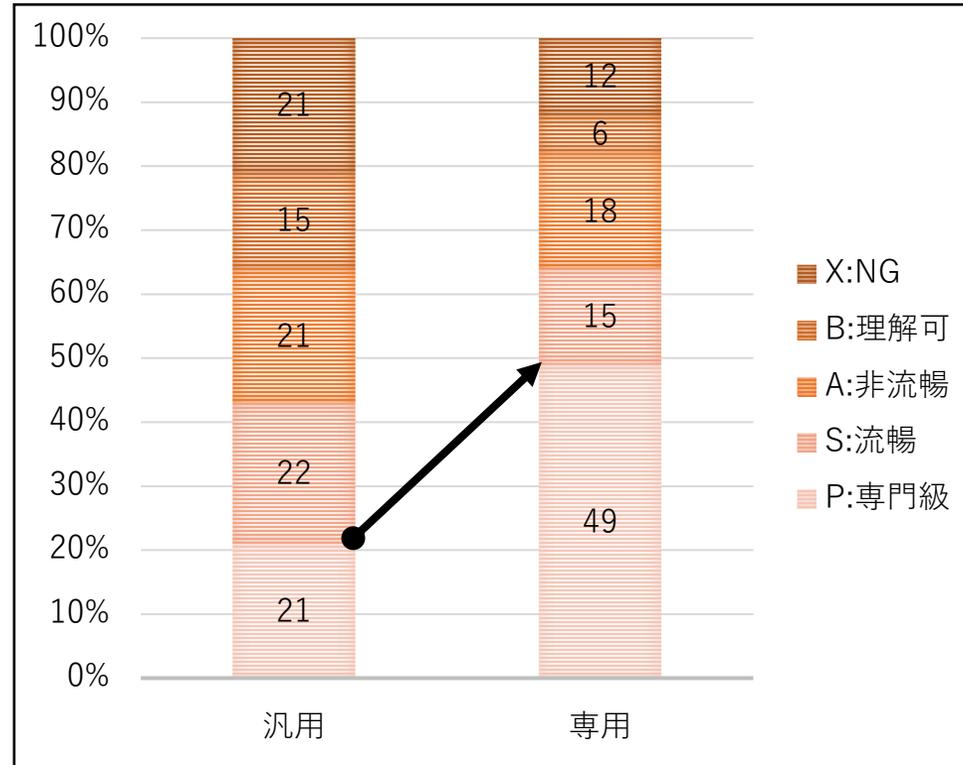
あとどれくらい時間をかけるか？



NMTのS字カーブ = Algorithm① + 対訳量②

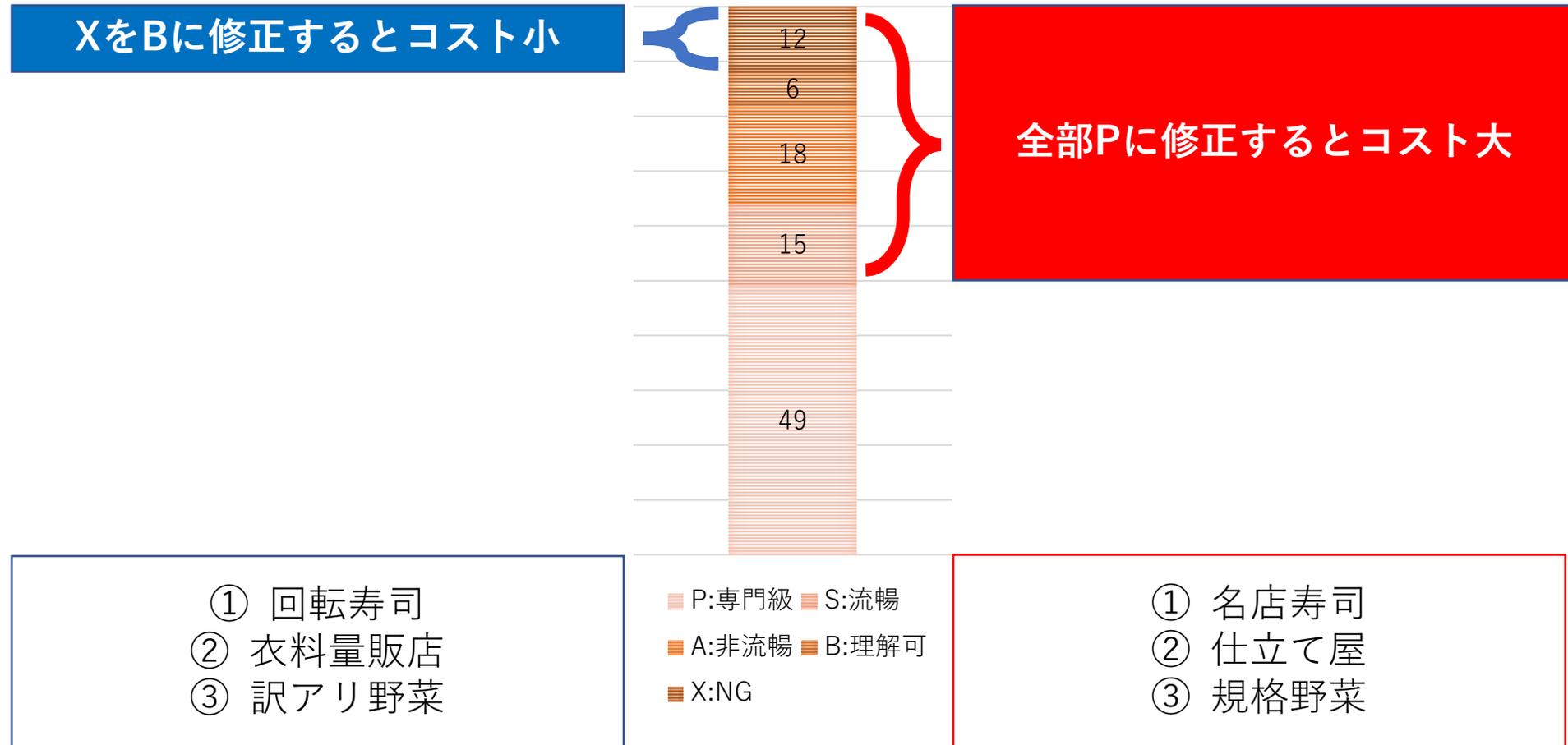


汎用と専用の差～金融庁のケース～

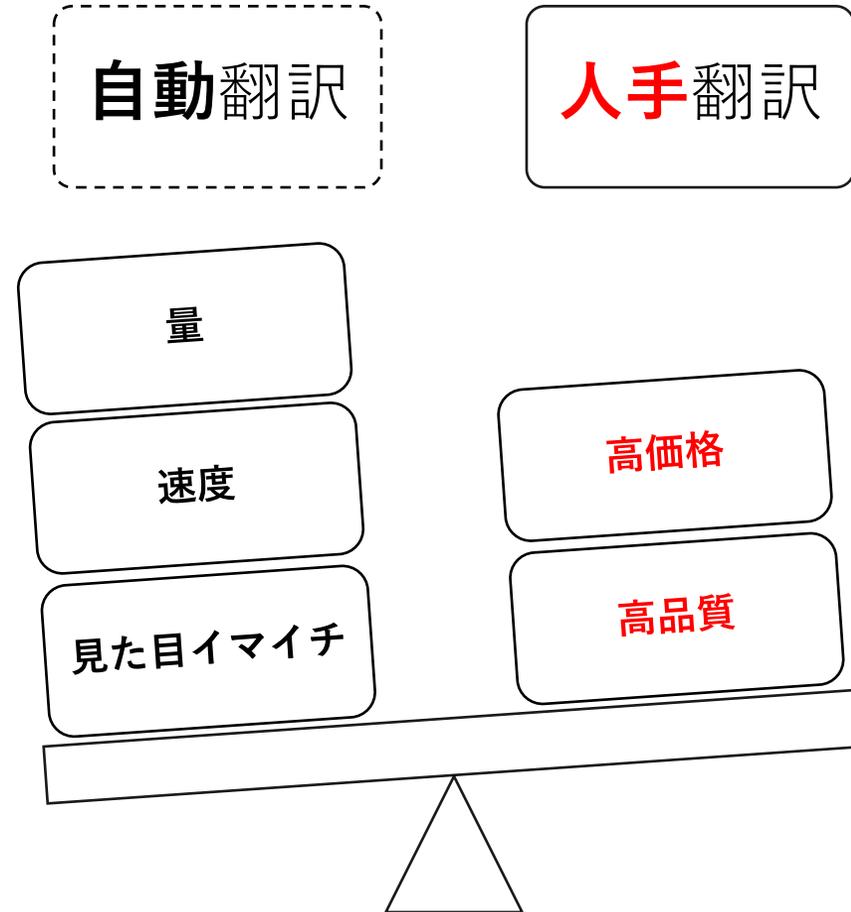


機械翻訳導入の 留意点

翻訳品質の目標設定



翻訳品質の目標設定



機密保持も大事なので稼働条件確認を

- 機密情報が遺漏するリスクがあることから、ネット上のツールの業務利用を禁止している会社もある。
- **セキュアなサーバで稼働している自動翻訳かオンプレミス実装可能な自動翻訳が必要。**
- 実際、大手電機会社、自動車会社、証券会社、保険会社など民間組織、及び、警察庁、特許庁、総務省、等中央官庁で、情報管理に厳しい組織でオンプレミスのエンジンが採用されている。

翻訳精度も大事なので確かめましょう

有名だから誤訳がないわけではない



多種類の自動翻訳＊いろいろな意見

① 機械翻訳について

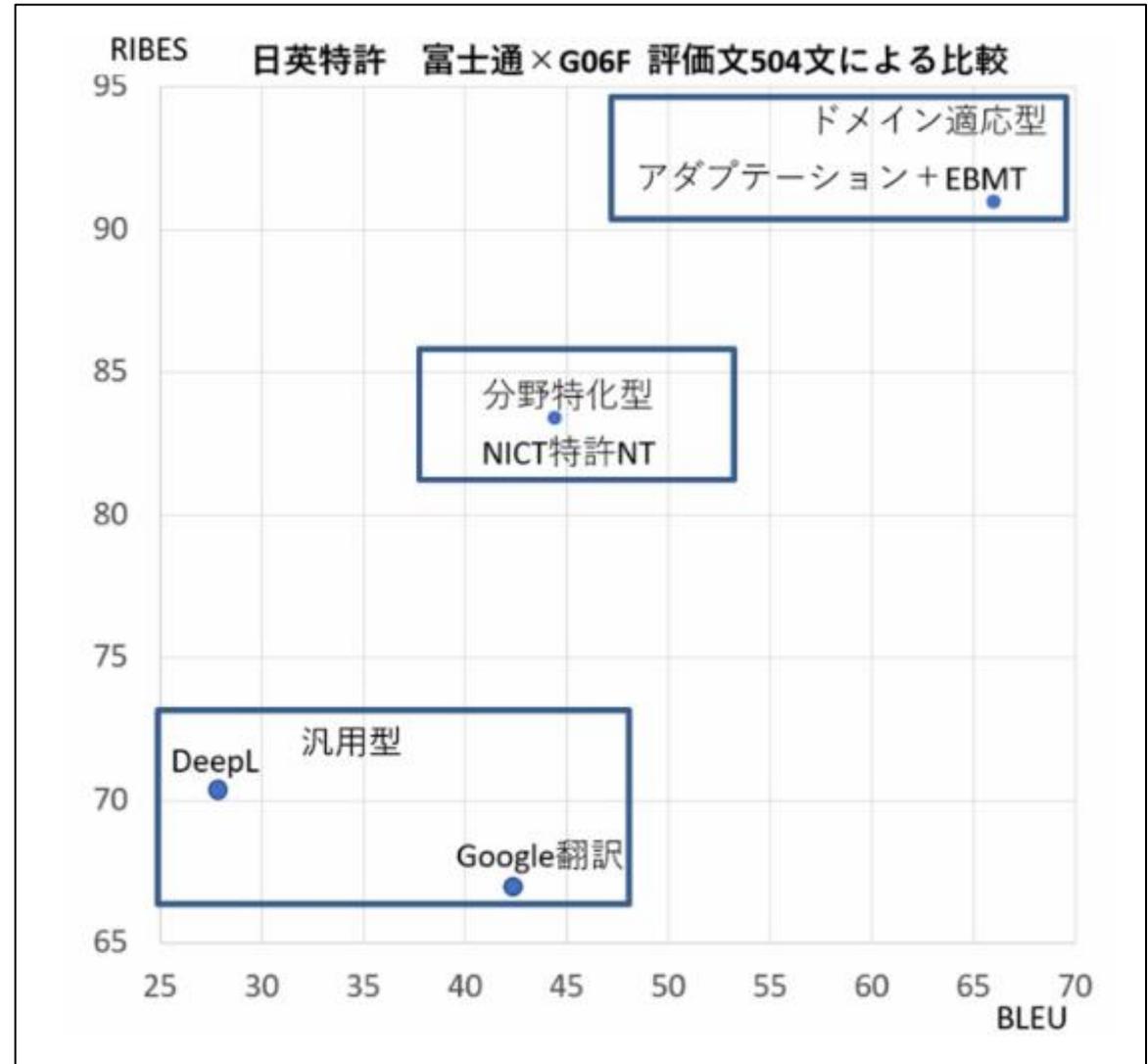
<https://ameblo.jp/rassy119/entry-12736303399.html>

② 本間 奨他「特許翻訳におけるドメイン適応型機械翻訳」

<https://aamt.info/wp-content/uploads/2022/06/AAMT-journal-No76.pdf>

③ 精度はGoogle翻訳を越える

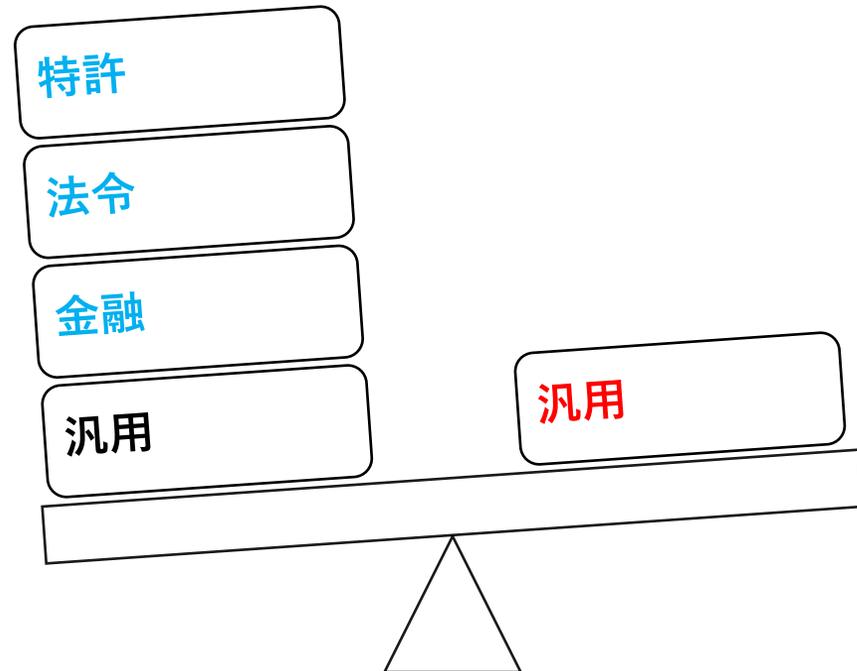
https://biz-journal.jp/2022/08/post_313871.html



専門文書は専用化し高精度な機械翻訳で

修正箇所が少
ない

修正箇所が多
い



- 汎用NT 【英語 - 日本語】 ?
- 特許NT 【英語 - 日本語】 ?
- 対話NT(音声翻訳エンジン専用)
- FSA 【英語 - 日本語】 ?
- 金融NT 【英語 - 日本語】 ?
- 法令契約NT 【英語 - 日本語】

機械翻訳の使い方

自動翻訳結果を逆翻訳で確認 (注)

The screenshot shows a web interface for machine translation. At the top left, the title "自動翻訳" (Machine Translation) is displayed. Below it, there are buttons for "日本語" (Japanese), a bidirectional arrow, and "英語" (English). A dropdown menu shows "汎用NT【日本語 - 英語】 1" (General NT [Japanese - English] 1). A green button labeled "翻訳" (Translate) is visible. Below the input area, a message box says "自動翻訳結果が正しいかを逆翻訳で確認します。" (Check if the machine translation result is correct by reverse translation). To the right, a blue banner reads "Check the machine translation result by reverse translation." Below this, the original text "自動翻訳結果が正しいかを逆翻訳で確認します。" is shown. Underneath, the reverse translation score is "70.2%". At the bottom, the machine translation result "機械翻訳結果を逆翻訳で確認します。" is displayed.

(注) 正誤判定は100%ではありませんので、Disclaimerでは不十分であって完全な翻訳が求められる場合は**専門家の検査が不可欠**です。

中学校・高校の**基礎知識**で英作文を効率化
できる。

A) 自動翻訳大全、坂西 優, 山田 優

B) 理工系のAI英作文術、西山 聖久、

C) 特許ライティングマニュアル、一般財団法人日本特
許情報機構

<https://tech-jpn.jp/tokkyo-writing-manual/>

誤訳
防止
のため
の
曖昧
性解
消

①主語を補う。

私は×勉強中と聞きました

I heard that **it** is studying

私は**彼が**勉強中と聞きました

I heard that **he** is studying

②文を短くする。

複数エンジンを比較し最適翻訳をコピー

The screenshot displays a web-based translation tool interface. At the top, the text reads "みんなの自動翻訳@Text". Below this, there are navigation icons and a header area with the user's name "Masao Utiyama @ NICT" and a profile icon "@ mutiyama3". The main interface shows a translation from English to Japanese. The source text is "Life at 50C: Surviving in Kuwait's 'unbearable'...". The target text is "五十Cでの生活:クウェートの「耐えがたい」暑さの中で生きる...". A dialog box titled "結果コピー" (Copy Results) is overlaid on the screen. It contains the following text:

比較元を選択した各エンジンの結果 汎用NT【英語 - 日本語】
対話NT(音声翻訳エンジン専用)【英語 - 日本語】

クリップボードにコピー

五十Cでの生活:クウェートの「耐えがたい」暑さの中で生きる
中東は世界の多くの地域よりも急速に温暖化しており、クウェートは耐えがたい気温に向かっている。
水銀が53度を超えると、3人のクウェート市民(インフルエンサー、気象予報士、退職した公務員)が警告を発する。
彼らは、クウェートがこれ以上暑くなることを許されてはならないと強く主張し、そのうちの一人は解決策を提示している。

キャンセル

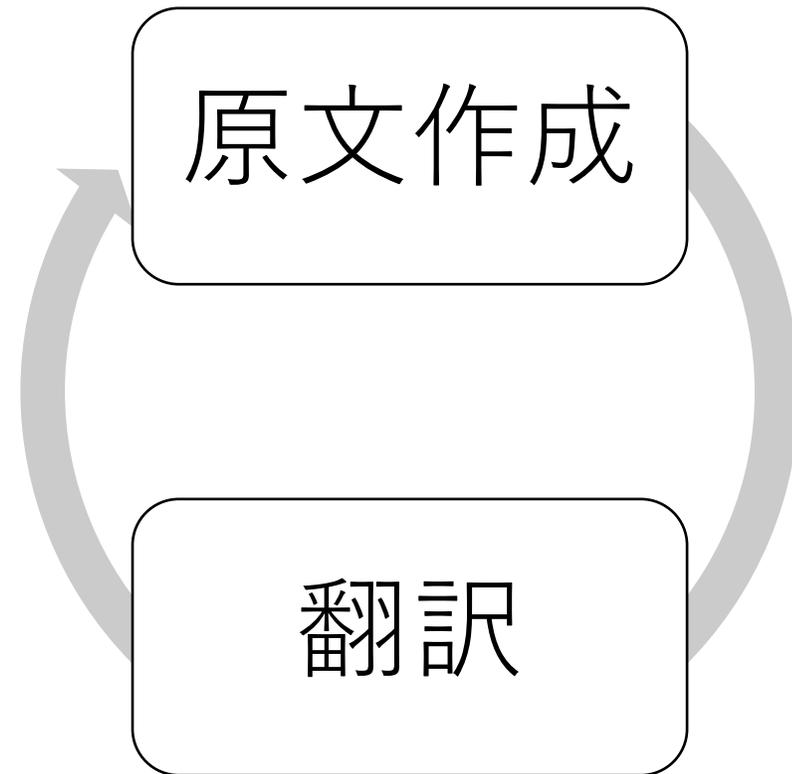
提案書や資料でも有効

<https://dot.asahi.com/aera/2018030100036.html?page=1>

太洋物産の山本さん

著者のみで完結する新しい翻訳の枠組み

著者が翻訳者に依頼



著者が機械翻訳を使い自分で翻訳



(注) 人工知能のベンチャー企業、プリファードネットワークス (Preferred Networks) のフェローである丸山宏氏の、2020年2月のブログ記事「本1冊を機械翻訳で訳してみた」(<https://qiita.com/hmaruy1/items/bcae2015c9fed9b7341e>)は、丸山氏が自動翻訳を利用した経験に関する、興味深い報告である。丸山氏は結論として、「出来上がった英語の文書(56, 035語)は、出版クオリティにはほど遠いですが、無料ダウンロードでカジュアルに読んでいただく分には、ほとんどストレスなく読めるものに仕上がったと思います。機械翻訳がなければ、すべてを自分で翻訳せねばならず、とても1カ月ではできなかったと思います。機械翻訳システムは、それなりに心の準備をして使えば、本1冊を英訳するのにも使えるレベルのツールになってきたな、と思います」と書いている。

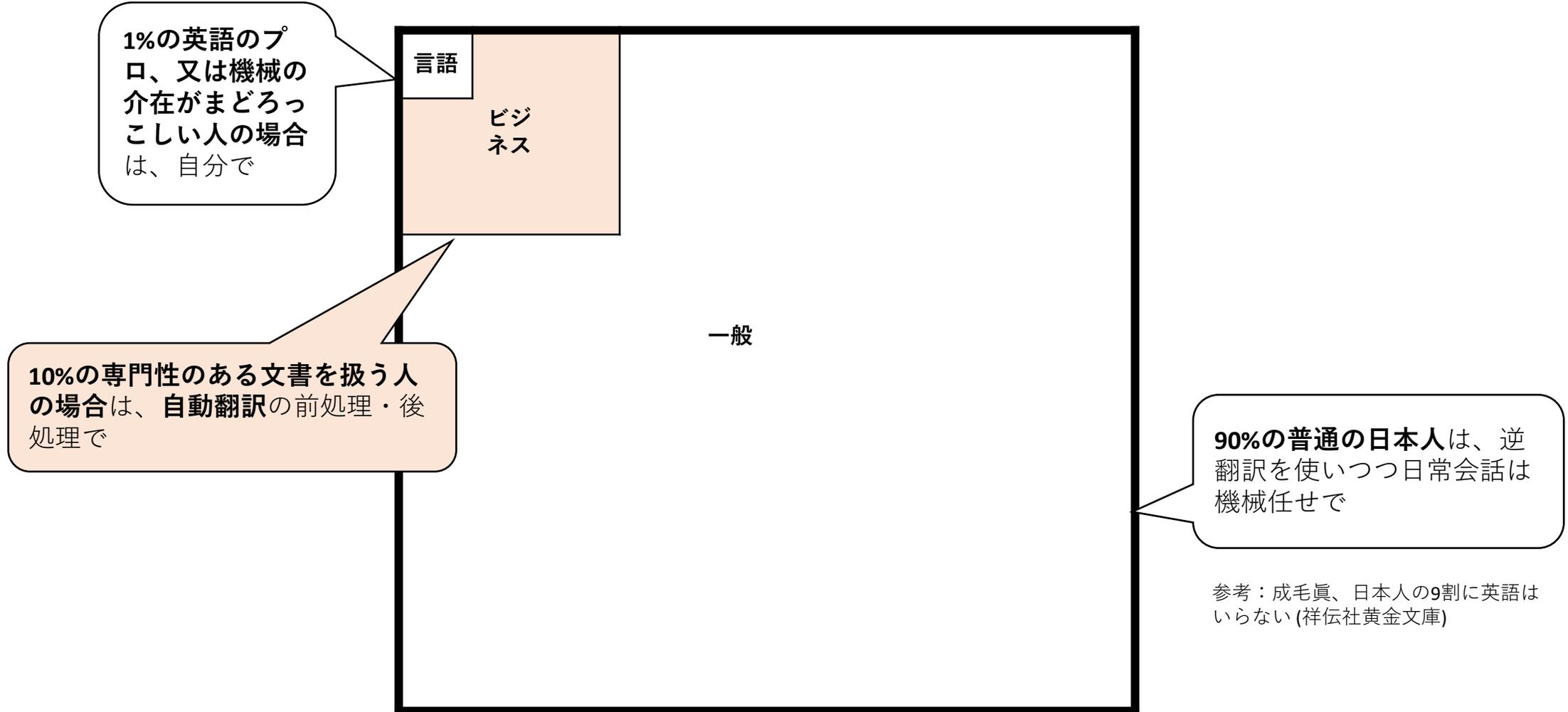
少し違う観点での追加

少ない費用で全情報を 開示する2段階開示法 (注)

- ① 機械翻訳と明示してWEBで全面的に開示する。
 - 日本語でしか開示されていない情報が英語で開示されているだけで投資家には十分価値がある。
- ② クリックが多い情報は翻訳を人手で改善する。

(注) Disclaimerでは不十分であって完全な翻訳が求められる文書は専門家の検査が不可欠です。

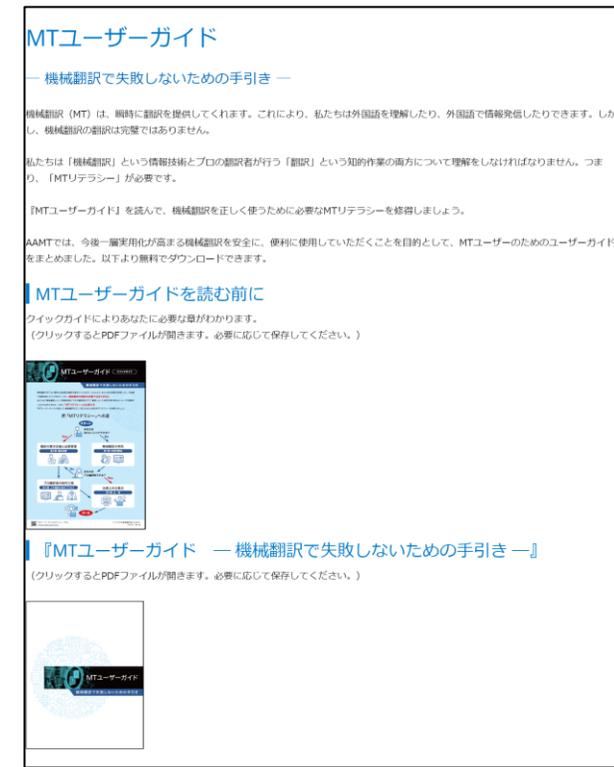
日本人と英語と機械翻訳



AAMTのMTユーザーガイド

2022年9月1日に、機械翻訳（MT）の正しい使用方法を広く認知していただくために公開しました。

<https://www.aamt.info/act/MTuserguide>



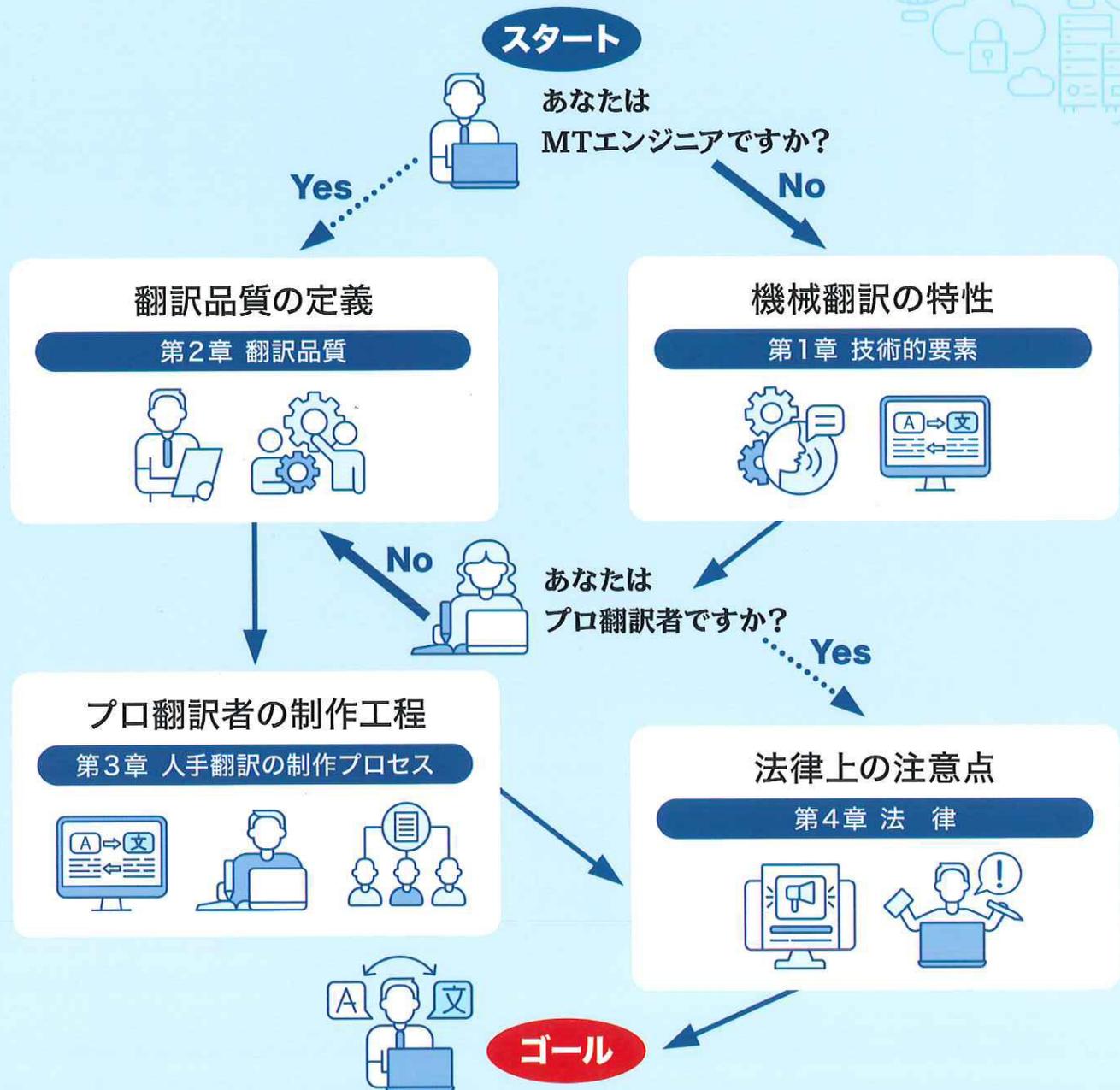
機械翻訳で失敗しないための手引き

機械翻訳(MT)は、瞬時に翻訳を提供してくれます。これにより、私たちは外国語を理解したり、外国語で情報発信したりできます。しかし、**機械翻訳の翻訳は完璧ではありません。**

私たちは「機械翻訳」という情報技術とプロの翻訳者が行う「翻訳」という知的作業の両方について理解をしなければなりません。つまり、**「MTリテラシー」が必要です。**

『MTユーザーガイド』を読んで、機械翻訳を正しく使うために必要なMTリテラシーを修得しましょう。

「MTリテラシー」修得への道





**TRANSPACIFIC
ENTERPRISES**

英文IR人材育成講座

英文開示における基礎英語

Date. **2022. 10. 05**

トランスパシフィックエンタープライズ

〒107-0052 東京都港区赤坂1-4-8 一光赤坂ビル4F

TEL: 03-6441-2275 FAX: 03-6441-2276 URL <http://www.transpacific.jp>

Do you do English IR?

Why?

体制の構築

予算の確保

「かっぱえびせん現象」に耐える **English...**

そして

効果的な**English**を！



Requirement やらねばならないこと

ではなく、なにより

Relations (relationship)

with Investors

with Market

投資家／マーケットとの関係作り

これを意識した英語を目指そう！

IRツールの目的と英語力(1)



IRツールに必要な英語のレベル

Analyst Meeting

1) プレゼンテーション(説明資料)

アナリスト向け: メッセージの概要を示す
 口で説明してメッセージを
 「補完」する十分な英語力が必要

ウェブサイト／配布用: メッセージの概要だけでなく詳細も示す
 「行間を読む」ことのできる高度な英語力が必要

2) ウェブサイト

マーケティング用: 商品の販売・マーケティングのため効果的に
 アピールできる英語

IR用: メッセージを読者に訴えかけ、納得してもらうことが
 できるよう**「味付け」**する力が必要



IRツールの目的と英語力 (2)



3) アニュアルレポート／統合報告書

企業の良い点も悪い点も簡潔に示し、**説得力のあるメッセージ**を英語で構築

4) プレスリリース

格調は不要だが、しっかりした英語で、**シンプルで分かり易い**表現とすること

5) ワン・オン・ワン ミーティング

提供する資料(文書)は洗練された英語で簡潔に表現すること
口頭での説明は**親しみやすく暖かい言葉**で。
関係構築を目的とし、相手に「この人は信用できる。
長期的に付き合っていきたい」と感じさせること



大切なのは「3つのC」

- ✓ Clear 明確
- ✓ Concise 簡潔
- ✓ Consistent 一貫性



IRの英語では、あいまいさを避け、できるかぎり
シンプルで、首尾一貫した内容・メッセージを！

疑問: 和文をそのまま訳しても通じないのではないか?

- 書いてある内容自体が分からない、ということはありませんが、
読みにくさ・分かりにくさはありえる
⇒日本語自体を見直す(英文IRを意識して)

[ヒント]

- ①できる限り「**主語**」を明確にする
(形式的に主語を書かなくても、意味から主語が明確になるように)
- ②**単数・複数**が分かるように工夫する
- ③特殊な**業界用語**(特に略語)はなるべく避ける
- ④日本語で読んでも**意味がはっきりしない表現**を避ける
(例:「20%超を上回ることを目標とする」)
- ⑤**箇条書き**は危険な場合がある
(過去? 未来? 進行中? 予定? 希望? 意思?)

英文IRのTIPS (2) : 効果的な英文ライティング



1) 原文(和文)のセンテンスが長い場合、いくつかのセンテンスに分けて訳す

- ・和文のセンテンスを丸ごと訳そうとせず、複数の短文に分けてから訳す

2) 各パラグラフごとに、その「結論」を先に持ってくる

- ・特に、「言い訳」的なセンテンスやフレーズは後ろに!

3) 受動態はなるべく避ける

- ・英語の受動態はパンチが弱い。「誰が」「何が」が明確な能動態で!

4) センテンスの中で「主語」と「動詞」を近づける

- ・修飾語がつくと主語が長くなるが、英文の構文を工夫し、主語(意味上の主語)と動詞をできるだけ近づける

5) 同じような表現の繰り返しを避ける

- ・キーワードなどの統一は必要だが、一般的な表現については工夫する
(例:「～により」をすべてdue toとするのではなく、because ofやin the face ofなど他の表現を考える)

英文IRのTIPS (3) : 経理関連の文章



経理関連の説明文(財政状態の概況、キャッシュフローの概要等)の英訳の場合。。。↓

必ず**財務諸表の当該箇所**を見ながら、**数字で内容を確認**する

特にキャッシュフローの説明は要注意。字面だけで訳さない。

例文1 当連結会計年度における営業活動による資金の**減少**は123,456千円になりました。

⇒この「減少」はdecreaseではなくcash outflowのこと
(net cash used in…)

ただしケースバイケースのため、必ず財務諸表で確認

例文2 その主なものは、子会社株式の取得による**支出の増加**、有形及び無形固定資産の取得による支出の増加等であります。

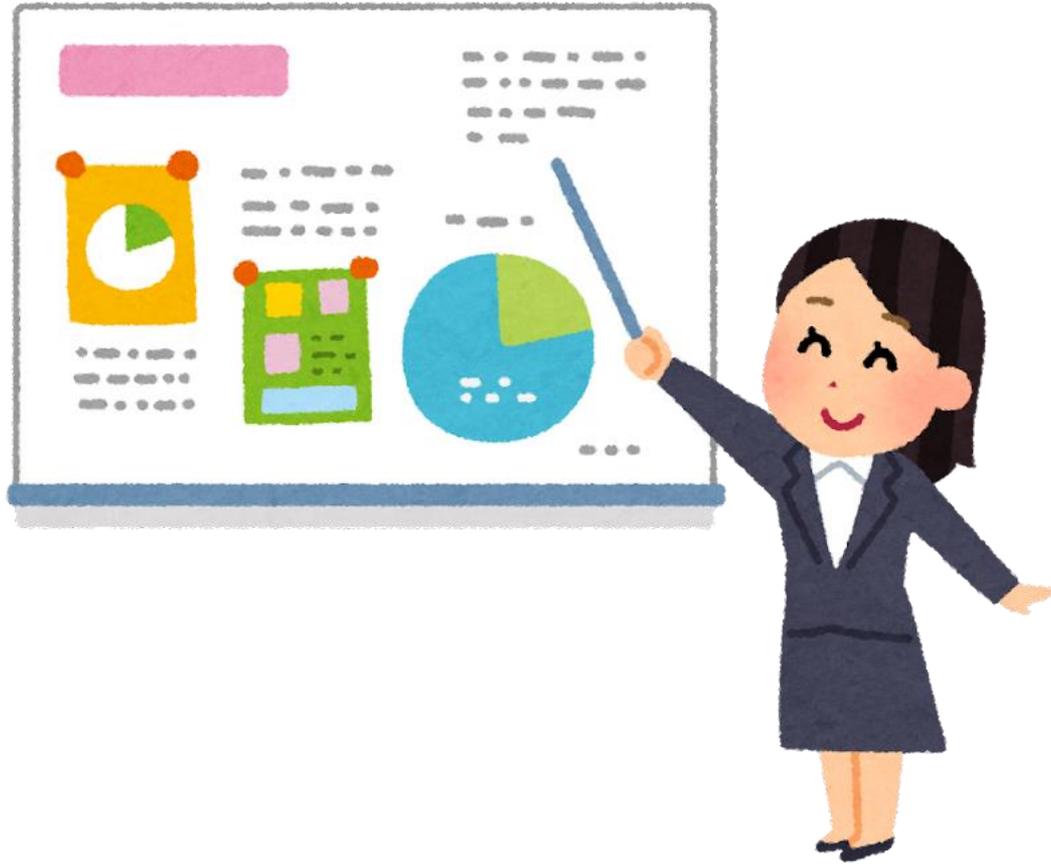
⇒これは「子会社株式の取得」によって「支出が増加」したのではなく、「子会社株式の取得による支出」が増加

英文IRのTIPS (4) : 翻訳会社に出す場合



- 1) **独自の表現** (業界用語、自社用語) は事前にインプット
- 2) **固有名詞** (特に社内組織・人名等の英文名) の事前連絡
- 3) **参考資料** の提供 (過去の英訳物等)
- 4) 翻訳会社との **キャッチボール** (質問、フィードバック)
- 5) **表現集** の蓄積

In Summary



一般的な英会話の向上のために、いくつかの「ヒント」をまとめました。

会話の前に「コミュニケーション」



◆英語力ではなく「**コミュニケーション能力**」が重要。

◆「すみません」も言えない人が英会話？

- ・日本語での挨拶が出来なければ英語でも出来ない
- ・英会話上達の近道は、日本語での会話が上手くなること

◆「分かろうとする姿勢」「伝えようとする心」。

- ・聞こうとしなければ聞こえない
- ・伝えようとするれば聞こうとする

◆言葉以外の情報を捉える。

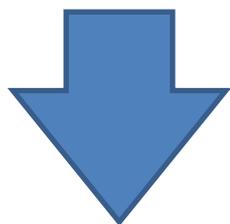
- ・ボディランゲージ
- ・表情、声のトーン、相手との距離など



日本人は英語が「下手」で当たり前



- ◆日本で生活する限り、英語はまったく必要ない。
- ◆教科書もすべて日本語。
- ◆空気も音も匂いも「日本語の世界」。
- ◆「日本文化」は世界でもユニーク。



意識して「英語に触れる」生活を心掛ける

英語に触れる機会を増やそう



- ◆IT時代を最大限に生かそう！
→ 意識すれば英語に触れる機会が山ほどある
- ◆インターネットでラジオ講座、YouTube、Podcast...
→ 「英語の学習」で検索！（日本語による説明）
- ◆日本語で書かれた「英語学習法」の本を読むのも手。
- ◆お勧め：英語で英語の勉強をする。
例：YouTubeで「How to learn English」で検索
- ◆サブスクやDVD/Blu-rayで洋画を見る。
例：音声も英語、字幕も英語にする



「使えるフレーズ」を貯める



◆「合いの手」に使えるフレーズを覚える。



- Certainly.
- My pleasure.
- Absolutely.
- You're joking!

◆映画から「気に入ったセリフ」を覚える。

- The age of men is over. The time of the Orc has come. (Lord of the Rings)

◆「歌」のフレーズを覚える。

- Don't carry the world upon your shoulders. (Hey Jude)

気に入った表現／セリフをメモしよう！

ストレスとイントネーション



- ◆ 一本調子は英語に聞こえない。
- ◆ 動詞・名詞にストレスを、代名詞にはストレスを置かない。
→「アイ・ラブ・ユー」と「I love you」
- ◆ 重要でない(補助的な)単語にはストレスを置かない。
Dogs eat bones. と The dog will have eaten the bones.
は同じ長さ！
- ◆ ストレスやイントネーションで意味が変わる。
“Thank you.” “Oh, no, thank YOU.”
- ◆ 英語を聞くととき、ストレスとイントネーションを気に掛ける。

ヒアリング:知らない単語は聞こえない



- ◆ヒアリング上達のコツは、ボキャブラリーを増やすこと。
- ◆単語を知らなければ聞こえない。聞こえても分からない。
- ◆まずは自分の業界の用語を英語で覚えよう。
- ◆映画や読書で、ボキャブラリーを増やす。



- ◆英会話では「ジョーク」が大切。
- ◆ダジャレではないジョークを考える訓練を！
- ◆初対面の人に会う時のジョークを用意しておく。
- ◆ジョークは英語の勉強にもなる。
“What’s the best thing about Switzerland?”
“I don’t know, but the flag is a big plus.”

東京国際金融機構（FinCity.Tokyo）について

- 東京都が2017年11月にとりまとめた「国際金融都市・東京」構想をきっかけに、2019年4月に官民連携金融プロモーション組織「一般社団法人東京国際金融機構（FinCity.Tokyo）」が発足。
- 東京市場に関するプロモーション活動を行うと同時に、利用者のニーズを政府、東京都、業界団体等に伝えることで制度の全体最適を目指す政策提言を行っています。

- 関係省庁等※
- 東京都
- 他の地方自治体
- 政党
- 業界団体

政策
提言

（一社）東京国際金融機構
（FinCity.Tokyo）

【主な活動分野】

国内外での情報発信

政策提言

関係機関との連携推進

海外金融機関等の誘致

設立 2019年4月
代表理事／会長 中曾宏

情報
発信

課題認識
ニーズ
要望

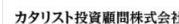
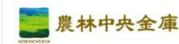
- 国内外投資家
- 国内外運用会社
- 国内外金融機関
- 国内外Fintech firms
- 海外金融プロモーション組織

※金融庁、経産省、環境省、厚生労働省、総務省、内閣府、日本銀行等

FinCity.Tokyoの会員



FinCity.Tokyoには、東京都、業界団体、金融機関、機関投資家、サービスプロバイダー等計49の法人・団体が参画
(2022年9月15日現在)



英文情報開示支援事業事業の概要（令和4年度）

令和4年度は東京都の補助金事業として以下の2事業を実施

① ハンズオンによる上場企業個別英文IR支援（JPX・東証後援）

（IRアドバイス・決算関連資料の英訳支援、対象はグロース・スタンダード上場企業15社、4月より募集・事業開始 ※募集終了）

② 英文IR人材育成講座（JPX・東証共催）

（専門家による英文IR講座、対象は全上場企業、未上場企業等）



令和4年4月
本事業開始
個別支援企業の
募集開始
※募集終了

5月～
個別支援企業選定、
支援を順次開始

9月及び10月
英文IR人材育成講座

令和5年3月
事業終了



More information

[https://fincity.tokyo/en/
contact@fincity.tokyo](https://fincity.tokyo/en/contact@fincity.tokyo)

